

富山県南砺市

宗 守 遺 跡 I

久 戸 遺 跡 I

梅原胡摩堂遺跡 I

神 成 遺 跡 IV

—— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山田北部地区
に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書（8） ——

2007年3月

南砺市教育委員会

富山県南砺市

宗 守 遺 跡 I
久 戸 遺 跡 I
梅原胡摩堂遺跡 I
神 成 遺 跡 IV

2007年3月

南砺市教育委員会



久戸遺跡2地区 遠景



梅原胡摩堂遺跡25地区出土遺物



梅原胡摩堂遺跡26地区出土遺物

序

南砺市の中央部に位置する北山田地区は、山田川左岸の河岸段丘上に位置します。県営ほ場整備事業に伴い平成10年度から試掘調査を行った結果、縄文時代から近世までの様々な遺跡を発見し、多くの歴史的遺産が埋蔵されていることが分かりました。遺跡の大半は盛土により現地保存が図られましたが、用排水路用地及び一部の水田削平部分については平成12年度から本調査を実施し、記録保存を行ってきました。

北山田北部地区では今年度、教育委員会と民間会社で調査を実施しました。調査の結果、奈良・平安時代、中世の遺構が確認されました。また、当時の生活に用いられた土器も数多く出土しました。本書は、その調査の成果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

終わりに、この調査の実施にあたり、富山県農林水産部、南砺市シルバー人材センター、ほ場整備事業北山田北部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

平成19年3月

南砺市教育委員会

教育長 梧 桐 角 也

例 言

1. 本書は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山山北部地区に伴う発掘調査概要である。
2. 調査は、富山県農林水産部の委託を受け、南砺市教育委員会が実施した。地元負担金については、南砺市教育委員会が同庫補助金・県費補助金を受けた。
3. 調査事務局は南砺市教育委員会文化課におき、文化財係長 林浩明、文化財係文化財保護主事 片田亜紀が調査事務を担当し、文化課長 中島真市が総括した。調査の担当及び本書の執筆は、文化課文化財係文化財保護主事 佐藤聖子、片田亜紀、株式会社バスコ 小柳リラコ、日本海航測株式会社 岩崎倫子、菟原雄大が行った。各遺跡の調査期間、調査面積は以下のとおりである。

遺跡名	調査区	調査面積	調査期間	調査担当
宗守遺跡	4地区	340㎡	平成18年6月12日～同年7月10日	日本海航測株式会社
久戸遺跡	1地区	890㎡	平成18年6月20日～同年8月4日	南砺市教育委員会
久口遺跡	2地区	2,140㎡	平成18年6月19日～同年9月5日	日本海航測株式会社
梅原胡摩堂遺跡	25地区	1,690㎡	平成18年6月12日～同年10月10日	南砺市教育委員会
梅原胡摩堂遺跡	26地区	2,430㎡	平成18年6月21日～同年11月1日	株式会社バスコ
神成遺跡	11地区	940㎡	平成18年8月31日～同年10月18日	南砺市教育委員会
神成遺跡	12地区	1,000㎡	平成18年9月19日～同年11月14日	日本海航測株式会社
神成遺跡	13地区	1,000㎡	平成18年10月16日～同年12月1日	株式会社バスコ

4. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。
荒井武光・岡田一広・柴田祐孝・太鷗建設・駒森組・窪田宗隆・丹保光雄・野村清典・林敏光・水口吉則
(敬称略・五十音順)
5. 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社を用いた。
6. 調査参加者は次の通りである。

南砺市教育委員会

井口金治・井口外治・井口富雄・片田行義・林長敏・水口良男・水口善嗣・溝口日出夫・山田賢庄・山田善之・井口麗子・上島勝枝・大島笑子・大門ソト・橋本澄子・山田きみ子・山田澄乃（現地作業員）
池田周平・石崎三枝子・鍛冶麗子・真田泰光・竹中庸介・西川和美・福沢佳典・関野達・用田聖実
(現地調査補助及び遺物整理作業) 野原安奈(14歳の挑戦)

日本海航測株式会社

石崎清司・木下実・坂下弘・祖谷淳一郎・武部才治・中沢昭夫・宮東伝吉・宮丸登喜雄・森田米吉・山田敏之・湯浅三郎・米田稔・天池ふさの・田島信子・土井邦子・中山政子・野暮子・細木八重子・湯浅とみこ・吉田信子(現地作業員) 高橋誠真・松本治夫・石黒洋一・小林高久・高橋彩明・福沢佳典・関野達・金田真紀・宮本裕子(現地調査補助員) 車谷和子・鈴木和子・田川順子・中村洋子・橋本一恵・村島和美・山口美和子・吉田直美(遺物整理作業員)

株式会社バスコ

荒井とよ・荒俣政幸・伊川義夫・石崎清司・岩村小夜子・上坂清三・上田義雄・大田賢一・片田行儀・片山健守・木屋みさ子・坂井松枝・佐々木文雄・滝谷昂・高梨良次・谷田昇平・田村芳信・寺岡務・寺脇安成・遠藤君子・中井静子・中田和雄・中田謙子・西村久子・藤井弘一・松井俊夫・松下博志・松永烈・松村昇・水内花子・水上初造・水上与四男・宮丸登喜雄・餅田遥代・森毅・安田政治・山田和子・山道文子・山村美喜子・山本正一郎・湯浅三郎・吉尾乾九（現地作業員）小柳太一・高梨雅幸・春田謙次（現地調査補助員）大野裕子(遺物整理作業員)

目 次

I	位置と環境	1	第22図	久戸遺跡2地区の遺構(2)	
	第1図	位置と周辺の遺跡	1	第23図	久戸遺跡2地区の遺構(3)
II	調査に至る経緯と経過	2	第24図	久戸遺跡2地区の遺構(4)	
	第1表	調査経過	2	第25図	久戸遺跡2地区の遺構(5)
III	調査の概要	3	第26図	久戸遺跡2地区の遺構(6)	
	1	調査の方法	3	第27図	梅原胡摩堂遺跡25地区平面図
	第2表	遺跡の概要	3	第28図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(1)
	第2図	遺跡範囲と調査区位置図	4	第29図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(2)
	第2	宗守遺跡4地区の概要	6	第30図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(3)
	第3図	宗守遺跡4地区の基本層序	6	第31図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(4)
	第4図	宗守遺跡4地区の調査区割	6	第32図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(5)
	第3	久戸遺跡1地区の概要	9	第33図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(6)
	第5図	久戸遺跡1地区の基本層序	9	第34図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(7)
	第6図	久戸遺跡1・2地区の調査区割	9	第35図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(8)
	4	久戸遺跡2地区の概要	10	第36図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(9)
	第7図	久戸遺跡2地区の基本層序	10	第37図	梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(10)
	5	梅原胡摩堂遺跡25地区の概要	11	第38図	梅原胡摩堂遺跡26地区平面図
	第8図	梅原胡摩堂25地区の基本層序	14	第39図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(1)
	第9図	梅原胡摩堂遺跡25・26地区の調査区割	15	第40図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(2)
	第3表	梅原胡摩堂遺跡25地区竪穴建物計測表	20	第41図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(3)
	第4表	梅原胡摩堂遺跡25地区出土遺物計測表	20	第42図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(4)
	6	梅原胡摩堂遺跡26地区の概要	23	第43図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(5)
	第10図	梅原胡摩堂遺跡26地区の基本層序	23	第44図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(6)
	第5表	梅原胡摩堂遺跡26地区竪穴建物計測表	30	第45図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(7)
	第6表	梅原胡摩堂遺跡26地区掘立柱建物計測表	30	第46図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(8)
	第7表	梅原胡摩堂遺跡26地区出土遺物計測表	31	第47図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(9)
	第8表	梅原胡摩堂遺跡26地区鉄製品計測表	35	第48図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(10)
	7	神成遺跡11地区の概要	36	第49図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(11)
	第11図	神成遺跡11地区の基本層序	36	第50図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(12)
	8	神成遺跡12地区の概要	38	第51図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(13)
	第12図	神成遺跡12地区の基本層序	38	第52図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(14)
	第13図	神成遺跡11～13地区の調査区割	38	第53図	梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(15)
	9	神成遺跡13地区の概要	42	第54図	神成遺跡11地区平面図
	第14図	神成遺跡13地区の基本層序	42	第55図	神成遺跡11地区の遺構(1)
	第9表	神成遺跡13地区出土遺物計測表	45	第56図	神成遺跡11地区の遺構(2)
IV	まとめ	46	第57図	神成遺跡11地区の遺構(3)	
	参考文献	48	第58図	神成遺跡12地区平面図	
	図版凡例		第59図	神成遺跡12地区の遺構(1)	
	第15図	宗守遺跡4地区平面図	第60図	神成遺跡12地区の遺構(2)	
	第16図	宗守遺跡4地区の遺構(1)	第61図	神成遺跡12地区の遺構(3)	
	第17図	宗守遺跡4地区の遺構(2)	第62図	神成遺跡13地区平面図	
	第18図	久戸遺跡1地区平面図	第63図	神成遺跡13地区の遺構(1)	
	第19図	久戸遺跡1地区の遺構	第64図	神成遺跡13地区の遺構(2)	
	第20図	久戸遺跡2地区平面図	第65図	宗守遺跡4地区の遺物(1)	
	第21図	久戸遺跡2地区の遺構(1)	第66図	宗守遺跡4地区の遺物(2)	

- 第67回 久戸遺跡 1地区の遺物
 第68回 久戸遺跡 2地区の遺物(1)
 第69回 久戸遺跡 2地区の遺物(2)
 第70回 久戸遺跡 2地区の遺物(3)
 第71回 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(1)
 第72回 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(2)
 第73回 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(3)
 第74回 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(4)
 第75回 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(5)
 第76回 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(6)
 第77回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(1)
 第78回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(2)
 第79回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(3)
 第80回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(4)
 第81回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(5)
 第82回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(6)
 第83回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(7)
 第84回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(8)
 第85回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(9)
 第86回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(10)
 第87回 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(11)
 第88回 神成遺跡11地区の遺物
 第89回 神成遺跡12地区の遺物(1)
 第90回 神成遺跡12地区の遺物(2)
 第91回 神成遺跡12地区の遺物(3)
 第92回 神成遺跡12地区の遺物(4)
 第93回 神成遺跡13地区の遺物(1)
 図版 1 宗守遺跡 4地区の遺構(1)
 図版 2 宗守遺跡 4地区の遺構(2)
 図版 3 宗守遺跡 4地区の遺構(3)
 図版 4 久戸遺跡 1地区の遺構(1)
 図版 5 久戸遺跡 1地区の遺構(2)
 図版 6 久戸遺跡 2地区の遺構(1)
 図版 7 久戸遺跡 2地区の遺構(2)
 図版 8 久戸遺跡 2地区の遺構(3)
 図版 9 久戸遺跡 2地区の遺構(4)
 図版10 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(1)
 図版11 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(2)
 図版12 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(3)
 図版13 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(4)
 図版14 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(5)
 図版15 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(6)
 図版16 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(1)
 図版17 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(2)
 図版18 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(3)
 図版19 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(4)
 図版20 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(5)
 図版21 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(6)
 図版22 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(7)
 図版23 神成遺跡11地区の遺構(1)
 図版24 神成遺跡11地区の遺構(2)
 図版25 神成遺跡11地区の遺構(3)
 図版26 神成遺跡11地区の遺構(4)
 図版27 神成遺跡12地区の遺構(1)
 図版28 神成遺跡12地区の遺構(2)
 図版29 神成遺跡12地区の遺構(3)
 図版30 神成遺跡12地区の遺構(4)
 図版31 神成遺跡13地区の遺構(1)
 図版32 神成遺跡13地区の遺構(2)
 図版33 宗守遺跡 4地区の遺物(1)
 図版34 宗守遺跡 4地区の遺物(2)
 図版35 久戸遺跡 1地区の遺物
 図版36 久戸遺跡 2地区の遺物(1)
 図版37 久戸遺跡 2地区の遺物(2)
 図版38 久戸遺跡 2地区の遺物(3)
 図版39 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(1)
 図版40 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(2)
 図版41 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(3)
 図版42 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(4)
 図版43 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(5)
 図版44 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(6)
 図版45 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(7)
 図版46 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(8)
 図版47 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(1)
 図版48 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(2)
 図版49 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(3)
 図版50 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(4)
 図版51 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(5)
 図版52 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(6)
 図版53 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(7)
 図版54 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(8)
 図版55 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(9)
 図版56 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(10)
 図版57 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(11)
 図版58 神成遺跡11地区の遺物
 図版59 神成遺跡12地区の遺物(1)
 図版60 神成遺跡12地区の遺物(2)
 図版61 神成遺跡12地区の遺物(3)
 図版62 神成遺跡12地区の遺物(4)
 図版63 神成遺跡13地区の遺物

I 位置と環境

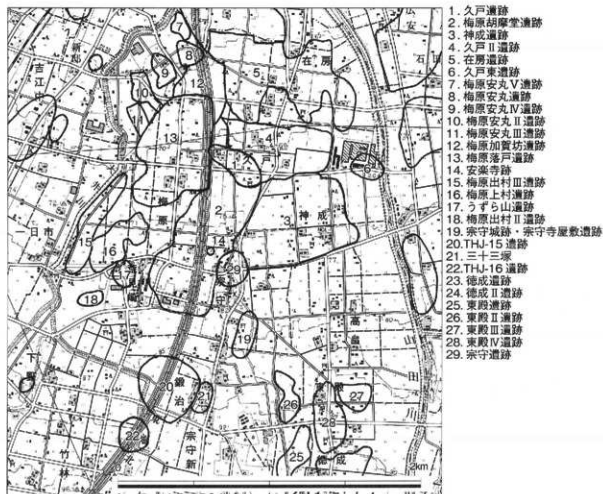
富山県南砺市は、石川県金沢市との県境をなす富山県の西南部端に位置する。市の西側から南側にかけでは、養老3年(719)、秦澄大師によって開山されたと言われる霊峰医王山をはじめとする山脈が連なる。市の南側に位置する大門山に源を発する小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川にはさまれた段丘には小河川が縦横に走り、それらを利用した田地が広がる。

北山田北部地区は、山田川左岸の緩やかな傾斜を持つ洪積台地上の高宮田尻面に位置し[金田章裕1993]、地区内のほぼ全域に遺跡が広がっている。現況は主に田地・畑地である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に遺跡は立地し、台地末端から河川域までの比高差は2m前後を測る。

これまでに発見されている遺跡は在房遺跡、久戸遺跡、久戸Ⅱ遺跡、久戸東遺跡、神成遺跡、宗守遺跡、梅原胡摩堂遺跡である。近年の調査で、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。また黒書土器や製塩土器なども出土しており、一帯では古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、旧福光町の一部が礪波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。

(片田亜紀)



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1:25,000)

II 調査に至る経緯と経過

平成10年(1998)、旧福光町北山田北部地区において、県営ほ場整備事業(担い手育成型)が策定された。この事業は農地を担い手に集積し、経営規模を拡大させることにより低コスト化を目指すものであり、田の大区画化による基盤整備を行うものである。事業計画は在房、久戸、神成、宗守の約100haを対象とし、平成10年度から平成14年度までが工期とされた。これに先立ち平成8年度に、町教育委員会は県埋蔵文化財センターの職員を派遣を受けて、事業計画地内で遺跡分布調査を行ったところ、広範囲において遺物の散布地を確認した。そのため、平成10年度からは国庫補助金を受けて遺跡の範囲確認を行うため試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺跡が広範囲にわたって遺存していることが確認されたため、県農地林務部、県教育委員会、地元土地改良区と遺跡の保護措置について協議を重ねた。その結果、遺跡の大半は盛上を行うことで水田下に保存し、一部の面工事・農道建設・用排水路部分のような遺跡が保存できない場所について本調査を実施することとなった。以降、試掘調査を毎年度継続して行い、平成12年度からは並行して本調査を行っている。

平成18年度の調査は宗守遺跡340㎡、久戸遺跡3,030㎡、梅原胡摩堂遺跡4,120㎡、神成遺跡3,650㎡であり、田面調整工事により削平を受けるため本調査対象となった。

北山田北部地区に所在する遺跡の、これまでの調査面積は次のとおりである。

(片田亜紀)

第1表 調査経過

	遺跡名	試掘調査対象面積	本調査面積	備考
平成10年度	在房遺跡	約6.0ha	-	
平成11年度	在房遺跡	約24.3ha	-	
	久戸Ⅱ遺跡	約9.4ha	-	
平成12年度	在房遺跡	約6.1ha	3,175㎡	
	久戸遺跡	約6.0ha	-	
	久戸Ⅱ遺跡	約3.8ha	-	
	神成遺跡	約9.3ha	-	
平成13年度	在房遺跡	-	305㎡	
	神成遺跡	約18.3ha	-	
	久戸Ⅱ遺跡	約0.6ha	-	
平成14年度	在房遺跡	-	640㎡	
	久戸Ⅱ遺跡	-	1,040㎡	
	宗守遺跡	約1.7ha	-	
	神成遺跡	約3.2ha	-	
平成15年度	梅原胡摩堂遺跡	約4.2ha	-	
	神成遺跡	-	1,599㎡	
	久戸Ⅱ遺跡	-	1,743㎡	
平成16年度	神成遺跡	-	2,620㎡	うち1,010㎡民間委託
	久戸Ⅱ遺跡	-	2,120㎡	民間委託
平成17年度	在房遺跡	-	1,910㎡	民間委託
	神成遺跡	-	3,370㎡	
平成18年度	宗守遺跡	-	340㎡	民間委託
	久戸遺跡	-	3,030㎡	うち2,140㎡民間委託
	梅原胡摩堂遺跡	-	4,120㎡	うち2,430㎡民間委託
	神成遺跡	-	3,650㎡	うち2,710㎡民間委託

Ⅲ 調査の概要

1. 調査の方法

調査区域の設定後、試掘調査の結果に基づき、調査員の立ち会いのもとで表土除去を行った。表土除去には重機を使用し、耕作土および前回は場整備時の盛土の層まで掘削した。耕作土は、盛土と分けて調査区の外に搬出した。

表土除去後に、調査区に合わせたおおよその東西方向、南北方向に基準杭を設置して調査区割りを行った。区割りは、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字で表記した。

調査区に合わせてサブトレンチを設定し、地山面まで掘り下げて層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は、埋土の堆積状況を観察するために半截するか、セクションベルトを2本ないし3本残して掘削し、土層の記録作業が終わりしだい完掘した。排土は、人力により調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1:100で概略図を作成して、遺構毎に通し番号をつけた。遺構の検出状況や土層、遺物の出土状況は、調査員と調査補助員が手実測により1:20で図化した。各遺構の検出状況、断面、完掘状況などの記録写真、調査区のブロック写真、全体写真は調査員が撮影した。すべての遺構完掘終了後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を図化用に行い、あわせて俯瞰・斜め写真等を撮影した。

出土遺物は、現地作業と並行して洗浄・バインダー処理・注記・仕分けの整理作業を行った。接合、復元は現場作業中止時や、現場終了後に行った。遺物実測やトレス等は基準を統一し、調査員と整理員で図版を作成した。写真や図面は年度・遺跡・地区毎にファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおり整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構毎、グリット毎にならべて整理箱に収めた。

(片田卓紀)

第2表 遺跡の概要

遺跡名	所 属 時 代	発見された遺構	発見された遺物
在 房 遺 跡	縄文時代晩期、古墳時代、古代、中世	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、柱穴	縄文土器、須恵器、土師器、製塩土器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、木製品、粘縛車
久 戸 遺 跡	縄文時代、中世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、須恵器、土師器、珠洲、瀬戸、青磁、白磁、肥前系陶磁器
久 戸 II 遺 跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世	竪穴住居？、掘立柱建物、土坑、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、硯、土師、中世土師器、珠洲、木製品
神 成 遺 跡	縄文時代、古墳時代、古代、中世、江戸	竪穴住居、土坑、柱穴、溝	須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、青磁
宗 守 遺 跡	縄文時代中期、中世、近世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、石斧、土師器、須恵器、中世土師器
梅原胡堂堂遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、江戸	畝跡、掘立柱建物、溝、掘、竪穴住居、井戸	縄文土器、打製石器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、越前、越中瀬戸、瀬戸美濃、石臼

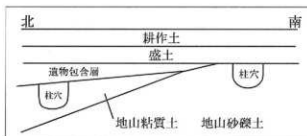


第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1:5,000)

2. 宗守遺跡4地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第3図)

宗守遺跡4地区は山田川扇状地の中央部に位置する。海拔は74.3～75.1mを測り、地形は南から北へ緩やかに傾斜している。調査区はX6列を境として様相が大きく異なる。X6列以南は盛土直下に砂礫土の地山面が存在し、地表から地山面までの深さ約20cmを測る。遺構密度は少ない。一方X6列以北は地山が黄褐色粘質土を呈し、上部には厚さ約30cmの遺物包含層(黒色粘質土)が堆積している。地表から地山面までの深さは約80cmを測る。調査区南側は地山面の標高が高く、盛土直下に砂礫土の地山面が存在することから、ほ場整備時に上部が削平されたと考える。



第3図 宗守遺跡4地区の基本層序

調査区南側は地山面の標高が高く、盛土直下に砂礫土の地山面が存在することから、ほ場整備時に上部が削平されたと考える。

(2) 遺構の概要

主な遺構として、掘立柱建物跡2棟、溝4条、多数のピットを検出した。

SB01 (第16図、図版2)

調査区北側の中央に位置する。東西方向2間、南北方向は北側が調査区外に延びるため、2間以上の掘立柱建物になると考えられる。長軸方向は真北と平行し、短軸方向は真東に対して南へ1°振れる。建物の柱穴は、直径0.6～1.0m、深さは約45cmを測る。柱穴の平面形状はP4のみ不整形を呈しており、他の柱穴は円形もしくは隅丸方形を呈する。抜き取り痕や柱痕は確認できなかった。SB02と棟方向がほぼ平行しており、柱間は約2.0mと共通性が認められる。SB02と切り合いがないため前後関係は不明である。



第4図 宗守遺跡4地区の調査区割 (S=1:2,000)

遺物はP2、P7から縄文土器が出土しているが、いずれも流れ込みと考えられる。

SB02 (第16図、図版2)

調査区北側の中央に位置する。東西方向2間、南北方向は北側が調査区外に延びるため、2間以上の側柱建物になると考えられる。長軸方向は真北に対し西に1°振れ、短軸方向は真東に対して北へ2°振れる。建物の柱穴は、直径0.5～1.0m、深さは約30cmを測る。柱穴の平面形状はP4のみ不整形を呈しており、他の柱穴は円形もしくは楕円形である。SB01と同様に抜き取り痕や柱痕は確認できなかった。ほぼ中央に存在するSK08は付帯施設の可能性がある。遺物はP2から縄文土器が、P3から土師器・甕が出土している。

SD01～SD04 (第17図、図版3)

SD01・SD02は調査区北西側に、SD03・SD04は調査区北東側に位置する。主軸はいずれも南北向き、ほぼ並行している。全長はSD01が2.0m、SD02が0.9mを測り、SD03は残存長2.4m、SD04は残存長1.3mを測る。断面形状は全て弧状を呈し、深さはSD03が13cm、他は5cmを測る。SD01・03・04の埋土は黄褐色粘質土ブロック混じりの黒色粘質土で共通性が認められるが、SD02は黒色シルトの単層である。いずれの溝からも遺物が出土していないため、遺構の帰属時期は不明である。

SK07 (第17図、図版3)

SB01・SB02に近接したX6、Y7に位置する。長軸方向90cm、短軸方向60cm、深さ13cmを測る楕円形の土坑である。埋土は黒褐色粘質土を呈し、黄褐色粘質土ブロックが含まれる。遺物は土師器・甕が出土している。

SK08 (第16図、図版3)

SB02のほぼ中央部X7、Y7に位置する。長軸方向1.7m、短軸方向1.2m、深さ30cmを測る楕円形の土坑である。埋土は黒褐色粘質土を呈し、明黄褐色粘質土ブロックが含まれる。SB02の付帯施設の可能性がある。遺物は土師器・甕が出土している。

SK18 (第17図、図版3)

調査区北東X6、Y11に位置する。南北方向60cm、東西方向60cm、深さ40cmを測るほぼ円形の土坑である。埋土は色調、粘性から2層に細分できる。遺物は土師器・鉢が出土している。

P70 (第17図、図版3)

調査区北東X7、Y12に位置する。長軸方向65cm、短軸方向62cm、深さ46cmを測る不整形なピットである。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。ピット底面からは木製品が出土している。

P71 (第17図、図版3)

調査区の北東X8、Y11に位置する。南北方向65cm、東西方向1.0m、深さ10cmを測る楕円形のピットである。埋土は黒色粘質土の単一層である。遺物は縄文土器の深鉢が出土している。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、土師器、須恵器、木製品がある。出土した縄文土器は量的に少ないものの、その時間幅は縄文時代晩期中葉(中屋式2～3式)に収まる。須恵器は概ね8世紀前半に位置付けられる。

SB01 (第65図、図版35)

1・2は縄文土器である。1は粗製深鉢である。口縁部は頸部以下に比べ薄く、頸部屈曲部内面に段を持たない。口縁端部には、斜め上方から指による押圧を連続して施す。外面調整は、粗く強い横位ナデののち、弱い横位条痕を施す。内面調整は、胴部をケズリ、頸部屈曲部を中心に横位ナデを施す。外面には炭化物が付着する。2は粗製深鉢の底部片で、やや厚底である。胴部に縦斜位条痕を施す。条痕原体は、板状工具ないし草木結束と考えられる。底側部には若干の指頭圧痕が残る。底面は網代痕を条痕により消す。胴

部内面に強い横位ナデを施す。内面に炭化物が薄く附着する。

SB02 (第 65 図、図版 33)

3 は縄文土器・粗製深鉢の底部である。やや厚底で、胴部にナデを施し、底側部には指頭圧痕が顕著に残る。底面は網代痕をナデにより消す。

4 は土師器・甕の底部である。外面はケズリ、内面にカキ目が見られる。内底部付近に炭化物が附着する。

SK07 (第 65 図、図版 33)

5 は土師器・甕もしくは高杯の口縁部である。外面は丁寧なミガキが施される。外面に煤が付着する。

SK08 (第 65 図、図版 33)

6 は土師器・甕の口縁部である。外面に煤が付着する。7 は土師器・甕の口縁部から胴部にかけての破片である。外面に櫛状工具による横位のカキ目が見られる。

SK18 (第 65 図、図版 33)

8 は土師器・鉢の口縁部から体部にかけての破片である。内外面共に横位ナデが施される。

P71 (第 65 図、図版 33)

9 は縄文土器・有文深鉢である。水平口縁で、頭部で「く」の字状に屈曲し、胴部が球状に張る器形を早す。口縁部全域に縄文帯を配し、縄文 RL を施す。頭屈曲部には 2 条沈線とその間に押し引きによる列点文を配す。胴部上半には、浅い沈線により 3 帯の横位区画帯を配す。上位から無文帯、鍵の手文帯、縄文帯となり、鍵の手文帯は幅が狭い。胴部下半は、胴部上半の無文帯同様、丁寧に研磨する。胴部上半には炭化物が顕著に附着する。

包含層 (第 65・66 図、図版 33・34)

10～14 は縄文土器である。10 は粗製深鉢である。口縁端部には、斜め上方から指による押圧を連続して施す。外面調整は、二枚貝条痕を施す。口縁部から頭部は横位に、胴部は斜位に施す。内面調整は、口縁部を丁寧に研磨し、胴部にナデを施す。11 は粗製深鉢である。口縁端部に指による押圧を斜め上方から連続して施す。外面調整は、縦線状の工具痕が残る横位ナデを施す。内面調整は、口縁部を丁寧に研磨し、胴部にナデを施す。12 は有文深鉢である。頭屈曲部に沈線を配す。胴部上半には、浅い沈線により 4 帯の横位区画帯を配す。上位から無文帯、縄文帯、鍵の手文、縄文帯となる。縄文帯には縄文 LR を施す。器面は、縄文帯以外を丁寧に研磨する。13 は粗製深鉢の底部である。胴部にナデを施し、底側部に強い横位ナデを施す。底面は丁寧なナデを施す。14 は縄文土器・粗製深鉢である。口縁部は、やや肥厚し、屈曲部内面に段を有す。口縁端部には、指による押圧を斜め上方から連続して施したのち、ナデを施す。押圧により作出した比較的大きい突起を 8 単位で配す。口縁内面には、沈線と強いナデによる段を有す。底側部は、稜をもたず丸みを有す。外面調整は、二枚貝条痕を施す。胴部から底部は縦斜位、頭部から胴部上半は横位、口縁部は斜位に施す。底面は、ナデののち二枚貝条痕を施す。内面調整は、口縁部から頭部を研磨し、胴部は丁寧なナデを施す。口縁から胴部外面、胴部下半内面に炭化物が薄く附着する。

15～21 は須恵器・杯蓋である。15 は頂部に径 2.7 cm の扁平なつまみが付く。16 は頂部と体部で明確に屈曲する。19 は器壁がやや厚く、直線的に開くが、17・18・20・21 は丸笠形を呈し、口縁端部は下方に屈曲する。22 は須恵器・甕の肩部付近の小片である。外面にロクロ痕が残る。

23・24 は土師器・甕の口縁部片である。23 は口縁が外傾し、24 は口縁部に段をもつ。25 は土師器・鉢である。体部外面下位にヘラ状工具による斜め方向のケズリが見られる。

(荒原雄大)

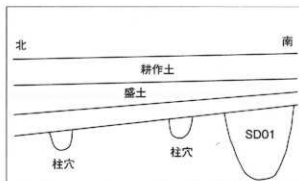
3. 久戸遺跡1地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第5図)

久戸遺跡は、山田川左岸の段丘上に位置している。

1地区の海拔は70.5m～71.1mを測る。地形は南西から北東にかけて緩やかに傾斜している。地表から地山面までの深さは約50～80cmである。

土層は地山(黄褐色粘質土)、遺物包含層(黒褐色粘質土)、前回は場整備時の盛上(茶褐色粘質土)、現在の耕作土の順に堆積している。調査区の南側は削平が激しく、遺物包含層は遺存していない。遺構もやや削平を受けている。調査区の北側では遺物包含層、遺構が良好に遺存していた。



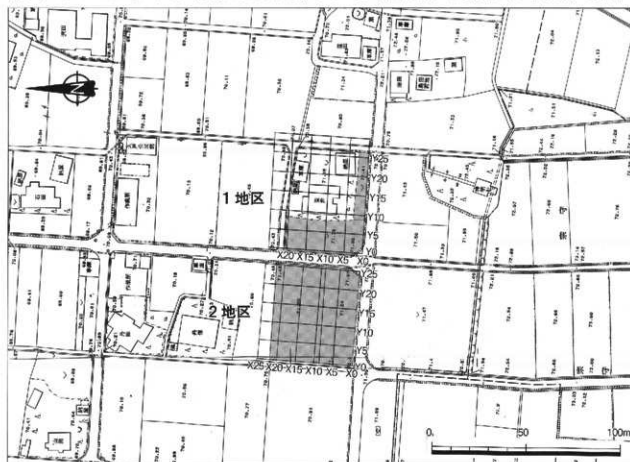
第5図 久戸遺跡1地区の基本層序

(2) 遺構の概要 (第19図、図版5)

1地区では、土坑と柱穴と溝を検出した。

SD01

調査区の南東端から西端、X5～10、Y1～23を東西方向に流れる溝である。道路を挟み、西側の2地区でも検出している。幅約1～3mといびつであり、深さは約1mを測る。断面系は逆台形を呈し、埋土は黒褐色粘質土を中心に10層に分けられる。断面形状や埋土から、自然流路ではなく区画を形成する役割を果たしていたと思われる。北側にSD11が並行している。出土遺物には須恵器・杯、蓋、甕、土師器・



第6図 久戸遺跡1・2地区の調査区割 (S=1:2,000)

堯などがある。

SD02

調査区の中央付近、X5～8、Y8付近を南北に流れる溝である。SD01と直交するが、深さは15cmと浅い。平面、断面ともに地山と埋土の境が明瞭に判別できるため、後世の擾乱の可能性もある。

SD03～10

いずれも南北方向に流れ、深さは1cm～10cmである。非常に浅く、凹凸があり、溝の始点終点がかっきりしない。

(3) 遺物の概要 (第67図、図版35)

出土遺物には、須恵器、土師器、中世土師器、青磁、珠洲がある。

柱穴

1はP150出土の須恵器・杯である。2は土師器・堯の口縁部である。

SD01

3～6は須恵器・杯である。7、8は須恵器・蓋である。9、10は須恵器・有台杯である。11、12は須恵器・堯の体部破片である。内面に同心円の当て具痕が、外面に叩き目が見られる。12の外面には自然釉がかかっている。

13～15は土師器・堯である。16は土師器・椀の底部である。17は土師器・鍋である。

包含層

18～21は須恵器である。18、19は蓋、20、21は堯の体部破片である。

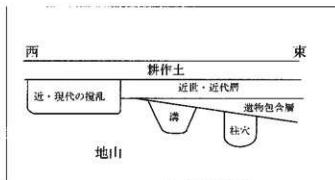
22、23は土師器・皿である。23は非ロクロ成形である。24は土師器・堯の口縁部である。

25は青磁・椀である。内面に文様が見られる。26は珠洲・すり鉢である。 (片田重紀)

4. 久戸遺跡2地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第7図)

久戸遺跡は山田川左岸の上位段丘上に広がっている。今回調査を行った久戸遺跡2地区は遺跡内の南側に位置する。海拔は70.5～71.0mを測る。調査区全体の削平が著しく、遺構は近世・近代の擾乱により破壊されているものもある。近・現代層は起伏を持ち、旧地形の形状は不明である。調査区東側が落ち込み、包含層が40cmと最も厚く堆積している。そのため、旧地形は



第7図 久戸遺跡2地区の基本層序

東側に傾斜していた可能性がある。地表から地山までの深さは20～30cmである。土層は地山(黄褐色粘質土)、遺物包含層(黒褐色粘質土)、近・現代層(暗褐色粘質土)、現代の耕作土の順に堆積している。

(2) 遺構の概要

主な遺構として、掘立柱建物跡6棟、溝12条、多数のピットを検出した。

SB01 (第21図、図版7)

調査区ほぼ中央、X10～16、Y10～15に位置する4間×3間の総柱建物である。長軸10.7m×短軸6.9m、長軸の柱間は約2.8m、短軸の柱間は約2.3m、平面積約73.8㎡を測る。主軸は真北に対し15°東

へ振れる。建物の柱穴は、直径約40cm、深さ約50cmの円形を呈し、埋土は黒色シルトが中心である。すべての柱穴は丸底を呈し、柱痕が残るピットも存在する。また、柱穴の断面形状に段を有するものが存在している。これは柱の掘方、もしくは柱を据え置きした際に、上屋の重量により沈下したものと考えられる。北東には柱穴が2基存在したと考えられるがSK01に切られ、また、P14・P15間の柱穴は削平されていると考えられる。長軸のうち、P1とP5、P2とP6の柱間は約2.2mと他の柱間と比較して短い。また、P1・P2は深度が浅く、径も小さいことから庇である可能性がある。

SB02 (第24図、図版8)

調査区北西側、X13～15、Y0～2に位置する2間×2間の総柱建物である。SB03と隣接し、SB05と重複する。長軸4.8m×短軸4.7m、長軸の柱間は約2.2m、短軸の柱間は約2.4mとほぼ正方形を呈し、平面積約21.0㎡を測る。主軸は真北に対し16°東へ振れる。建物の柱穴は、直径約30cm、深さ約20cmの円形を呈し、埋土は黒色粘質土が中心で鉄分を多く含む。すべての柱穴は丸底を呈し、断面形状のほとんどが両端垂直直ぎみに立ち上がる。P1・P2は一部暗渠により削平され、P1とP2の間の柱穴も暗渠により削平されていると考えられる。出土遺物は、P3から土師器・甕口縁部片が出土している。

SB03 (第22図、図版7)

調査区西側、X13～15、Y0～2に位置し、SB02と隣接する。P1～P8により構成されている。現存長軸4.3m×短軸3.5m、長軸の柱間は約2.2m、短軸の柱間は約1.8m、現存平面積約16.3㎡を測る。主軸は真北に対し21°東へ振れる。建物の柱穴は、直径約20cm、深さ約25cmの円形を呈し、埋土は黒色シルトが中心であり鉄分を含む。すべての柱穴は丸底を呈し、断面形状のほとんどが両端垂直直ぎみに立ち上がる。現存2間×2間の総柱建物であるが、長軸方向が西側に延びる2間×2間以上の総柱建物となる可能性がある。

SB04 (第23図、図版9)

調査区南側、X1～3、Y14～17に位置する。現存長軸5.0m×短軸2.5m、長軸・短軸の柱間は共に約2.5m、現存平面積約13.0㎡を測る。主軸は真北に対し13°東へ振れる。建物の柱穴は、直径約30cm、深さ約20cmの円形を呈し、埋土は黒色シルトが中心である。すべての柱穴は丸底を呈し、断面形状のほとんどが緩やかに立ち上がる。現存2間×1間の隅柱建物であるが、長軸方向が南側に延びる2間×2間以上の総柱建物となる可能性がある。

SB05 (第24図、図版8)

調査区北西側、X17～20、Y0～4に位置する。SB02と重複する3間×2間の総柱建物である。長軸6.7m×短軸5.2m、長軸の柱間は約2.2m、短軸の柱間は約2.5m、平面積約34.8㎡を測る。主軸は真西に対し19°北へ振れる。建物の柱穴は、直径約30cm、深さ約40cmの円形を呈し、埋土は黒色粘質土が中心で鉄分を多く含む。すべての柱穴は丸底を呈し、断面形状のほとんどが両端垂直直ぎみに立ち上がる。P1・P2・P7は一部暗渠により削平される。また、P1の西側に柱穴が存在しないため、3間×2間の総柱建物で完結し、西側には延びないものと考えられる。

SB06 (第25図、図版8)

調査区北西側、X21、Y0～5に位置する。ピットが直線的に等間隔で並ぶため、北側及び西側調査区外に延びる建物であると考えられる。現存柱穴列軸9.0mを測る。柱穴列軸は真西に対し10°北へ振れる。柱穴は、直径約30cm、深さ約35cmの円形を呈し、埋土は黒色粘質土が中心である。すべての柱穴は丸底を呈し、断面形状のほとんどが両端垂直直ぎみに立ち上がる。現存は4間であり、その場合は1辺が4間以上の大型の建物となる。また、調査区外に柱穴が延びない可能性もあり、SB05に隣接することから、

それに付随する櫛列の可能性もある。

SD01・SD11 (第26図、図版9)

調査区南側、X5～12、Y0～24に位置する。東西に延び、両端は調査区外へ延びる。幅1.0～3.0mと平面形はいびつである。深さ40～70cmを測り、断面形状は逆台形を呈し、底面の幅は短く若干丸みを帯びる。埋土は、上層から下層まで黒褐色粘質土である。断面形状が逆台形を呈することや、周囲に建物が存在することなどから、用排水溝というよりも区画溝である可能性がある。西側で北に屈曲し、SD11が直結している。SD01とSD11には切り合いが確認できず、同時に存在した遺構である。

(3) 遺物の概要

出土遺物には縄文土器、打製石斧、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲がある。なお、出土した縄文土器は量的に少ないものの、その時間幅は縄文時代晩期中葉(中屋式2～3式)に収まる。その他の遺物はできる限り帰属時期を特定し、それを各文末に記した。須恵器は田島編年(出島1988)、土師器皿の帰属時期・分類は越前編年(越前1996)に、珠洲の帰属時期・分類は吉岡編年(吉岡1994)に基づき行った。

SB02 (第68図、図版36)

1は土師器・甕の口縁部で法量は不明である。口縁端部は上方につまみ上げられている。胎土は砂を多く含み、焼成は良好である。内外面に酸化鉄が付着する。

P208 (第68図、図版36)

2は土師器・皿である。胎土は粉質で淡褐色(胎芯は黒色)を呈し、1mm以下の白色粒を多く含み、焼成は良好である。口縁部は大きくナデを施し、底面に指頭圧痕が残る(NAⅡ類)。帰属時期は12世紀後半に比定される。

P267 (第68図、図版36)

3は土師器・小皿である。胎土は密で焼成は良好である。口縁部には二段ナデが施され、外底部に指頭圧痕が残る(NG類)。帰属時期は13世紀後半に比定される。

SD03 (第68図、図版36)

4は土師器・小皿である。胎土は密で焼成は良好である。淡褐色を呈する。口縁部には二段ナデが施され、外底部に指頭圧痕が残る(NDⅠ類)。帰属時期は12世紀後半に比定される。

SD01 (第68図、図版36)

5は縄文土器・右文深鉢の胴部片である。胴部上半には、浅い沈線により区画された縄文帯を配し、縄文LRを施す。胴部下半は研磨する。内面には炭化物が薄く付着する。

6は打製石斧である。基部を欠損する。両側縁が平行する、いわゆる短冊形を早す。両側縁を中心として調整するが、基部や刃部の調整は顕著ではない。刃端部に磨耗が認められる。

7は須恵器・甕の口縁部である。胎土は密で焼成は良好である。口縁端部から内面にかけて自然軸がかかる。内面口唇部に沈線が施され、内面にヘラ記号が認められる。8は須恵器・杯である。胎土は密で1mm前後の白色粒を多く含み、焼成は良好である。底面はヘラ切り後ナデが施されている。

9は土師器・皿である。胎土は褐色をして最大5mmの白色粒を多く含み、焼成はやや不良である。ロクロ成形で底面には回転糸切痕が残る。10は土師器・皿である。胎土は粉質で焼成は良好である。淡褐色を早す。口縁部には一段ナデが施され、口唇部は面取りを行うが若干弱い。深みがあり、底面には指頭圧痕が残る(NBⅠ類)。帰属時期は13世紀前半に比定される。

SD05 (第68図、図版36)

11は珠洲・甕の口縁部片である。胎土は密で1mm以下の白色粒を含み、焼成は良好である。口縁端部

を水平方向に嘴状に挽き出している。帰属時期は12世紀後半（I期）に比定される。

12は須恵器・杯Bの底部片である。胎土は3mm大以下の白色粒を含み、焼成は良好である。調整はロクロによる横ナデ成形であり、高台は付け高台である。底部はヘラ切り後ナデが施されている。帰属時期は8世紀後半と考えられる。13は珠洲・掃鉢である。胎土は4mm大以下の白色粒・赤色粒を含み、焼成は良好である。口唇部は面を持つ。体部内面に櫛状工具による8本一組の条線（掃目）が間隔を置いて波状に施される。

14～17は土師器・皿である。14は胎土は粉質で淡橙色、焼成は良好である。口縁部には一段ナデが施され、丸みを帯びて立ち上がり、底部は丸底を早す（NDⅡ類）。帰属時期は13世紀前半に比定される。15は胎土は粉質で暗い色調の橙色をして、焼成は良好である。口縁部には一段ナデが施され、底部に指頭圧痕が残る（NDⅡ類）。帰属時期は12世紀後半に比定される。16は皿の口縁部片である。胎土は粉質で淡橙色、1mm以下の白色粒を少量含み、焼成は良好である。口縁部には一段ナデが施される（NCⅠ類）。帰属時期は13世紀前半に比定される。17は胎土は粉質で1mm以下の白色粒を僅かに含む。口縁部には二段ナデが施され、外底部に指頭圧痕が残る（NAⅡ類）。帰属時期は12世紀後半に比定される。

SD06（第68図、図版36）

18は打製石斧である。片側刃部を欠損する。やや小形品であり、分銅形に近い形態を呈す。両側縁を集中して調整するが、潰れが認められる。刃部表面を中心に磨耗が認められる。

SD11（第68図、図版36）

19は須恵器・杯の口縁部片である。胎土は密で5mm大の白色粒を含み焼成は良好である。

包含層（第69図、図版37）

20は打製石斧・刃部片である。比較的大形品であり、側縁の調整から、いわゆる楕形ないし分銅形を早すと考えられる。刃部に磨耗が認められる。21は打製石斧である。完形品であり、分銅形を呈す。側縁の扱りは緩やかである。厚みをもち、断面がやや湾曲する。両側縁を集中して調整するが、潰れが認められる。基部・刃部ともに裏面を中心に調整を行う。

22は縄文土器・深鉢である。口縁部がやや内湾し、長胴を呈する。口唇部を無文部とし、以下胴部下方まで、単節縄文LRを横位に6段施す。縄文上端には原体結節部痕が残る。胴部下端部には、縄文施文後、縦位ケズリののち横位ケズリを行う。内面調整は、胴部下端をケズリ後ナデ、口縁から胴部に丁寧なナデを施す。胴部外面には、部分的に炭化物が薄く附着する。

23～25は土師器である。23は甕の口縁部である。胎土は2mm大以下の白色粒を多く含み、焼成は良好である。口縁及び体部内面には横位のハケが、体部外面には縦位のハケが施されている。24は皿である。胎土は粉質で1mm以下の白色粒を含み淡橙色を呈す。焼成は良好である。口縁部には一段ナデが施され、口縁端部は若干面をもつ。器形は丸みを帯びて立ち上がり、底部は丸底を呈す（NBⅠ類）。帰属時期は13世紀前半に比定される。25は皿である。胎土は粉質で焼成は良好である。口縁部には一段ナデが施され、丸みを帯びて立ち上がり、底部は平底を呈す（NCⅠ類）。帰属時期は13世紀前半に比定される。

26は珠洲・甕の口縁部である。口縁端部は方頭を呈す。胎土は1mm以下の白色粒を含み、焼成は良好である。27は珠洲・甕の口縁部片である。胎土は1mm以下の白色粒を僅かに含み、焼成は良好である。口縁端部は薄く、水平方向に嘴状に挽き出している。帰属時期は12世紀後半（I期）に比定される。

近世・近代層（第70図、図版38）

28は、縄文土器・深鉢の口縁部である。口縁部はやや内湾し、22と同様な器形を呈すと考えられる。

外面には単節縄文LRを横位に施す。縄文下端には原体結束部痕が残る。口縁端部にナデによる面を有し、口縁部には補修孔を有す。外面には、部分的に炭化物が薄く付着する。29は縄文土器・深鉢である。口縁部がやや内湾するバケツ状器形である。外面には、粗いケズリ状の横位条痕を施す。条痕断面は、かまほこ状に盛り上がることから、原体は植物茎あるいは板状工具と考えられる。口縁端部にナデによる面を有し、内面は研磨する。

30は珠洲・甕の胴部である。胎土は5mm以下の白色粒を含み焼成は良好である。外面には平行叩き目、内面にはそれを受け抑える圧痕が顕著に残る。

31は須恵器・杯Bの底部である。胎土は1mmの白色粒を含み焼成は良好である。調整はロクロによる横ナデ成形であり、高台は付け高台である。底部はヘラ切り後ナデが施されている。帰属時期は8世紀後半と考えられる。

32は土師器・小皿片である。胎土は密で焼成は良好である。口縁部には一段ナデが施され、直立ぎみに立ち上がり、底部は平底を呈す（NG類）。帰属時期は13世紀後半に比定される。33は土師器・小皿である。胎土は密で焼成は良好である。口縁部には一段ナデが施され、底部には指頭圧痕が残る（NDⅡ類）。帰属時期は13世紀前半に比定される。34は土師器・皿である。胎土は密で焼成は良好である。口縁部は丁寧な一段ナデ、底面には指頭圧痕が残る（NCⅠ類）。帰属時期は13世紀前半に比定される。

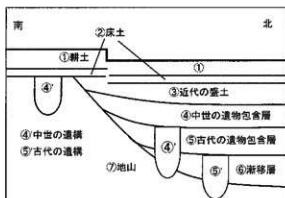
35は珠洲・甕の口縁部である。胎土は密で白色粒を少量含み、焼成は良好である。口縁端部を垂下させ嚙状に挽き出している。帰属時期は12世紀後半（Ⅰ期）に比定される。36は珠洲・甕の口縁部である。胎土は密で1mmの白色粒を含み焼成は良好である。口縁端部を水平方向に嚙状に挽き出している。体部外面には平行の叩き目が施されている。帰属時期は12世紀後半（Ⅰ期）に比定される。37は珠洲・甕の口縁部である。胎土は1mm以下の白色粒を多く含み、焼成は良好である。口縁端部は肉厚で、水平方向に嚙状に挽き出している。帰属時期は13世紀前半（Ⅱ期）に比定される。

38は磁器小碗（湯飲）である。釉は艶に富む乳白色をしており、見込みに金彩による文字（剥落している）が4行以上書かれている。また、高台内に判読不明の銘款が書かれている。削り出し高台で埴み付きは露胎である。39は伊万里・皿片である。釉はやや青色味のある不透明な灰白色を呈し、内面に淡い色調の呉須により施紋する。見込みは蛇の目釉剥ぎである。胎土は緻密で焼成は良好である。削り出し高台で高台埴み付きの露胎である。40は磁器・碗片である。釉は透明感があり大き目の貫入が入る。外面下位は露胎である。素地は灰白色を呈し、焼成は良好である。（岩崎倫子）

5. 梅原胡摩堂遺跡 25 地区の概要

(1) 地形と基本層序（第8・9図）

本調査区は、山田川左岸の河岸段丘上、遺跡の中央から南側寄りに位置する。周辺の地形は、大きくみて南から北に、また谷部が存在する本調査区から遺跡中央部に向かっては、西から東に緩やかに傾斜している。調査区西側には南北に椎見堂川が流れる。標高は約73.00mを測る。旧区割の田2枚であり、中央より北側については遺存状況が良好であるが、南側は昭和30年代に行われたほ場整備により地山まで削平された箇所が多い。基本層序は、①耕作土、②床土、③灰



第8図 梅原胡摩堂遺跡 25 地区の基本層序

褐色土（盛土）、④黒褐色土（2.5Y3/1 中世の遺物包含層）、⑤地山土が少量混じる黒色土（2.5Y2/1 古第8区 梅原胡摩堂遺跡25地区の基本層序代の遺物包含層）、⑥暗オリーブ褐色粘質土（2.5Y3/3 漸移層）、⑦オリーブ褐色粘質土もしくは黄褐色砂礫層（2.5Y4/3 地山）となる。

(2) 遺構の概要（第27～37図、図版10～15）

25地区では、古代の竪穴建物8、掘立柱建物1、土坑15、溝5条、畑跡、中世の土坑1、区画溝1を検出した。

SI01～SI10（第3表、第27～32図、図版11・12）

規模等は別表に記した。SI01は調査区内の南西寄り、X6～9、Y4～6に位置し、平面形は正方形に近い形を呈する。床面は平坦で、灰白色の粘土を貼っており、壁面の立ち上がりは緩やかである。SB01に切られており、柱穴の1つはカマド跡に掘り込んでいる。埋土はやや粘質の黒色土で鉄分を多く含む。出土遺物には、須恵器・杯、土師器・甕、椀（赤彩）などがある。帰属時期は8世紀前半である。

SI02は、SI01の北西側に隣接している。SI01を切っている。平面形は、東西辺がやや長い長方形を呈すると考えられる。埋土は地山土が少量混じる黒色土である。出土遺物には、須恵器・杯、蓋、土師器・甕がある。帰属時期は、出土遺物、切りあいから、9世紀前半である。

SI03は調査区南西隅、X7～8、Y0～1部分に位置する。遺構の西側半分は調査区外であり、全容は不明である。床面は西側にやや傾斜しており、壁面の立ち上がりは急である。埋土は、やや粘質の黒褐色土に少量の地山土、漸移層の土が多く混じる。出土遺物には、須恵器・杯、土師器・甕があり、9世紀前半にあたる。



第9図 梅原胡摩堂遺跡25・26地区の調査区割（S=1:2,000）

SI04は、SI01とSI03の中間に位置する。遺構内の東側中央部にカマドを設置する。埋土は鉄分を含むやや粘質の黒色土で地山土が少量混じる。須恵器・甕、四耳壺、土師器・甕などの出土遺物から、帰属時期は9世紀前半である。

SI05は調査区西側中央寄り、X15～17、Y3～4に位置する。平面形は、南北にやや長い長方形を呈し、壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒色土に地山土や漸移層の暗オリーブ褐色土が混じる。床面には黄褐色粘土を貼り付けている。出土遺物には、須恵器・蓋、土師器・椀、甕がある。帰属時期は9世紀中頃から後半である。

SI06は調査区東側中央部、X15～17、Y21～23に位置し、南北辺がやや長い隅丸方形を呈する。壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒色粘質土で、焼土、炭を大量に含む。また、須恵器・杯、甕、土師器・甕などの遺物が検出面から床面まで、まんべんなく出土している。帰属時期は、8世紀後半から9世紀前半となる。堅穴建物というより、廃棄土坑の性格が強い。

SI07は、調査区北東隅、X19～21、Y24～27に位置し、東西辺が長い方形を呈する。壁面の立ち上がりは急である。カマドは持たない。埋土は黒色の粘質土に地山土が混じる。出土遺物には、須恵器・杯、土師器・甕がある。9世紀前半である。

SI09は調査区西側中央、X13～14、Y4～6に位置し、南北辺がやや長い方形を呈する。壁面の立ち上がりは緩やかであり、床面は平坦である。埋土は、黒色土に少量の地山土が混じり、炭化物を含む。出土遺物には、須恵器・蓋、甕、土師器・甕、椀（一部赤彩）、皿があり、これらから10世紀に帰属すると考えられる。

SI10は調査区中央東寄り、X13～15、Y13～16に位置し、東西辺がやや長い方形である。埋土は黒色粘質土に地山土がブロック状に混じる。壁面の立ち上がりはやや急であり、床面には黄褐色土を貼り、固くしまっている。北辺に沿って、幅0.25～0.4m、深さ約24cmの溝を1条設けている。カマド内には、地山土に黒色土、焼土が混じり固くしまっている部分が、幅0.24～0.3m、長さ0.2mで南北方向に棒状に2箇所設けられており、これらは袖部にあたる。須恵器・蓋、杯、土師器・甕、鉄釘、鉄滓が出土している。出土遺物から9世紀前半にあたる。鉄製品等の出土から、工房としての役割を果たしていた可能性も考えられる。

SB01（第28図、図版11）

調査区南西、X5～8、Y3～6に位置する。東西2間×南北2間の総柱建物である。東西側1間が約3m、その他は1.5～1.8mである。床面積は約39㎡である。柱穴の平面形は一辺約0.8mの方形で、深さは約30cmである。上層断面から、柱の径は0.22～0.24mと推定できる。前述のとおりSI01を切っており、建物の軸方向はN-8°-EでSI01とはほぼ同様である。出土遺物には、土師器・甕の破片がある。小破片のため時期は特定できないが、SB01との切りあい、軸方向から8世紀後半から9世紀前半と推定できる。

SK02・SK04（第33図、図版13）

SK02はSI06西側、X16～17、Y15～16に位置する。長軸2.3m×短軸1.5mの楕円形を呈する。深さは約30cmを測る。軸方向はN-36°-Wとなる。底面は平坦で、立ち上がりは急である。埋土はやや粘質の黒褐色土で地山土が混じる。出土遺物には土師器・椀がある。

SK04は、調査区南西隅のX6～7、Y1～2に位置する。南北1.9m×東西1.3mの方形を呈し、深さは18cmを測る。軸方向はN-16°-Eである。床面は平坦であり、壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土は地山土が少量混じるやや粘質の黒褐色土で、遺構内北東隅の約0.4m四方で焼土を確認した。出土遺物には土師器・甕があり、帰属時期は8世紀前半と推定できる。SI01に付属する可能性もある。

SK05・SK18 (第33図、図版13)

調査区南側中央、X3～5、Y11～13に位置する。SK05は南北2m×東西2.2mの方形で、SK18は南北1m以上×東西1.5m以上の方形を呈すると考えられる。軸方向は共にN-29°-Eである。SK18は、遺構の南側半分が調査区外南側にあるため、全容は不明である。深さはSK05が20～30cm、SK18が約20cmを測る。埋土はやや粘質の黒色土に地山土と炭が少量混じる。SK05からは、土師器・甕、椀、皿(内黒)、須恵器・杯、蓋が出土している。これらから、遺構の帰属時期は9世紀中頃である。

SK07～SK10 (第34図、図版14)

調査区北西側、X16～19、Y0～3に位置する。SK10が南北1.6m×東西1.2m以上、SK09が南北1.7m×東西3m、SK08が東西2.3m×南北1.5m、SK07が南北2.7m×東西1.7m以上である。深さは、SK07が26cm、SK08が42cm、SK09が14cm、SK10が18cmを測る。遺構の軸方向はN-24°-Eで、4基とも同一である。埋土は、黒褐色土または黒色土に地山土がブロック状に混じるのが大半である。遺構検出時の埋土の状況、土層の堆積状況から、東側のSK10から西側のSK07まで、廃棄、埋め戻し、掘り込みを繰り返していることがわかる。SK07、SK08の底面はやや丸く、壁面の立ち上がりは急であるのに対し、SK09、SK10の底面は平坦で、壁面の立ち上がりはやや緩やかである。SK09の底面は、黄褐色土を固く敷き詰めている。出土遺物には、土師器・甕(SK07)、土師器・甕、鉄釘、須恵器・甕の体部破片(SK08)、土師器・甕、須恵器・杯、縄文土器(SK09)、須恵器・蓋、甕、中世上師器(SK10)がある。出土遺物、底面の整形から、倉庫もしくは作業場としての役割を担っていた可能性がある。

SK06・SK12～SK14 (第35図、図版13)

SK06は調査区南西寄り、X9～10、Y6～7に位置する。南北2m×東西1.3mの方形である。深さは10cmで、壁面の立ち上がりは緩やかである。軸方向はN-19°-Eである。埋土は黒色粘質土で、少量の焼上、鉄分が混じる。出土遺物には、須恵器・蓋、土師器・甕の体部破片がある。埋土、軸方向の状況から、SI02に付属する遺構と考えられる。SK12は、調査区東側X13～15、Y22～23に位置する。南北1.8m×東西2m以上で、南東隅が調査区外にある。深さは32cmで、壁面の立ち上がりはやや急である。SD01を切っている。埋土はやや粘質の黒色土に焼土、地山土が大量に混じる。出土遺物には、土師器・椀、皿、須恵器・杯がある。これらと切り合い関係から、9世紀後半以降とみられる。

SK13、SK14は、調査区中央寄りのX11～12、Y16～17に位置する。SK13は東西1.4m×南北2mの方形、SK14は東西南北とも約0.9mの正方形を呈している。深さはSK13が14cm、SK14が6cmを測る。壁面の立ち上がりは緩やかではっきりしない。軸方向は、SK13がN-1°-Eでほぼ真北を向き、SK14がN-11°-Eである。埋土は両遺構とも黒色土に地山土が混じり、焼上、炭を大量に含む。SK14から土師器・甕が出土している。9世紀前半と考えられる。

SK15～SK17・SK19 (第36・37図、図版13)

SK15～SK17は、SK07～SK10の南側、SI05の南西側にあたる。X14～17、Y0～3に位置する。いずれも壁の立ち上がりは緩やかで、底面は平坦である。埋土は黒色土に地山土が少量混じり、SK16には焼上が多量に混じる。切り合いは、SK17<SK16<SK15となる。SK15から須恵器・蓋、土師器・甕、中世上師器・皿が、SK16からは須恵器・蓋、鉄滓、鉄釘が出土している。SK15は出土遺物から9世紀前半にあたり、SK16、SK17は切り合い関係からそれ以前にあたるが、大きな時期差はないと考えられる。SK19は調査区の北東側、X20～23、Y20～23に位置する。南北5.6m×東西5.7mで、軸方向はN-30°-Eである。平面形は方形に近いが、不定形である。深さは最深部で1.16mを測る。SD03、SD05を切っている。壁の立ち上がりは堀り方に向かって緩やかに立ち上がり、断面形はすり鉢状を呈している。埋土

は灰色がかった黒褐色粘質土が主であり、底部に近づくにつれ地山土がブロック状に多くなる。底面の地山土が黄褐色粘土であることから、土取り穴と考えられる。出土遺物には時期幅があり、土師器・碗、中世土師器・皿、青磁・碗があるが、遺構の帰属時期は中世で、12世紀末から13世紀前半と推定できる。

SD01～SD07（第37図、図版15）

SD01は調査区東側、X3、Y14～15からX19、Y27にほぼ直線状にのびる。幅約2m、深さ約60cmを測る。溝の断面は半円形で、方向は、N-38°-Eである。底部の標高が72.05m～72.13mであり、南西から北東へ流れていたと考えられる。埋土は黒褐色の粘質土が大半を占め、底部に近づくにつれ地山土、炭の混じりが多くなる。出土遺物には須恵器・杯、蓋、土師器・甕、皿、中世土師器・皿、珠洲・片口、打製石斧がある。8世紀中頃から9世紀中頃が主体と考えられる。

SD03は、調査区北東X21～23、Y14～27に位置する。溝の方向は、東からやや北西を向いている。幅約0.7～0.9m、深さ28cmを測る。断面は逆台形を呈する。出土遺物には、土師器・甕、須恵器・蓋がある。9世紀前半にあたる。

SD06は調査区西側、X9～23、Y0～8に位置する。X9、Y1で直角に屈曲し、北東に直線状に伸びる。方向は、N-24°-Eである。幅は約0.7～1m、深さはX10付近で18cm、X22付近で32cmを測る。断面は逆台形状で、壁の立ち上がりは急である。埋土は黒色土に地山土がブロック状に大量に混じる。SD03と直交し区画溝を形成する可能性があるが、ともに調査区外に伸びているため、全容は不明である。出土遺物には、須恵器・杯、蓋、甕、土師器・甕、中世土師器・皿、珠洲・鉢、白磁・碗、鉄釘がある。9世紀末から10世紀初めにあたる。

SD07は調査区北西隅、X21～23、Y0～6に位置する。X21・Y1、X22.5・Y2、X21・Y5でそれぞれ直角に屈曲し、直線状に伸びる鍵の手状を呈する区画溝である。溝の南西から北東に伸びる方向は、N-21°-Eであり、SD06とはほぼ同方向である。幅約0.6m、深さ40cmを測る。壁の立ち上がりは急である。やや粘質の黒褐色土に地山土が混じる。出土遺物には、土師器・碗、中世土師器・皿があるが、埋土の観察から、中世13世紀代に属すると考えられる。

烟跡（第37図、図版15）

調査区中央から北西にかけて、X10～23、Y0～16に幅0.2～0.6m、深さ4cm～12cmの浅く細長い溝が何条も確認できる。相互の溝の間隔は、約1.8mとなる。溝の方向はN-11°-E、N-24°-Eと2方向が確認でき、少なくとも2度は造成しなおしている。縄文土器・深鉢、土師器が出土しているが、時期を特定できる出土遺物はない。埋土から、古代に属すると考えられる。

(3) 遺物の概要（第4表、第71～76図、図版39～46）

縄文土器（後期・晩期）、打製石斧、磨製石斧、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、瀬戸、青磁、白磁、金属製品（釘等）が出土した。以下、図化したものについて記述する。

SI01～SI10（第71～73図、図版39～43）

SI01 出土は8～10である。8は須恵器・杯の底部である。9は土師器・碗である。外面はナデ、内面はヘラ磨き、底部はヘラ削りである。内外面とも赤彩を施している。10は土師器・甕である。口縁端部は面取りし、上方に引き上げている。いずれも8世紀前半にあたる。

SI02 出土は11～19はである。11～17は須恵器で、11～16は無高台の杯、17は蓋である。18・19は土師器・甕の口縁部である。18は口縁端部を面取り、19は口縁端部を丸めて内側に折り込んでいる。9世紀前半にあたる。

SI03 出土は20～22である。20・21は須恵器・杯の口縁部、22は土師器・甕である。9世紀前半にあたる。

る。23～26はSI04出土である。23は須恵器・四耳壺、24は甕の体部である。25・26は土師器・甕である。外傾する口縁端部は面取りし、断面形は三角形を呈する。9世紀前半にあたる。

SI05出土は27～30である。27は須恵器・蓋のつまみ部分である。28～30は土師器で、28は碗の底部、29・30は甕の口縁部である。29は外傾し端部を丸め、30は口縁端部のみ直上に引き上げ、面を取る。9世紀後半である。

SI06出土は31～39である。31～33は須恵器・杯、34は土師器・鍋、32～36は土師器・甕である。35・38・39は、須恵器・甕の製作技法を用いている。36～37の口縁は外傾し、端部は面取りしやや内傾させる。38・39は口縁を外傾させ、丸くおさめる。8世紀後半から9世紀前半にあたる。

SI07出土は40・41である。40は須恵器・杯、41は土師器・甕の口縁部である。9世紀前半にあたる。SI09出土は42～50である。42・43は、須恵器・蓋である。44～50は土師器で、44は甕の、45は碗の口縁部である。46～48は皿で、47は外面に赤彩を施している。49・50は碗の底部である。10世紀にあたる。SI10出土は51～55である。51は須恵器・蓋、52は杯の口縁部52である。53～55は土師器・甕である。53～55の口縁部は外傾し、端部はやや直立する。54・55は面取りする。9世紀前半にあたる。

SK02～SK19 (第74図、図版44)

SK02出土は56である。土師器・碗の底部である。SK04出土は57である。土師器・甕の口縁部でススの付着がある。8世紀前半である。SK06出土は58～60である。須恵器・蓋(9世紀前半～中頃)、60の13世紀後半にあたる中世土師器・皿が出土している。SK05出土は62～69である。62～64は須恵器・杯、65は蓋、66は土師器・碗、67は内面黒色の皿、68・69は甕である。9世紀中頃である。SK08出土は70・71である。70は土師器・甕、71は釘である。SK09出土は72の土師器・甕、SK14出土は76の土師器・甕である。SK12出土には74の9世紀後半と推定する土師器・碗の口縁部、75の13世紀後半にあたる中世土師器・皿がある。SK15出土は77・78である。77は須恵器・蓋で、9世紀前半にあたる。78は中世土師器・皿で13世紀前半にあたる。SK19出土は79・80である。80は土師器・甕の口縁部、79は連弁文を施す青磁・碗である。79は12世紀末～13世紀前半にあたる。

SD01～SD09 (第76図、図版44・45)

SD01出土は81～95である。古代から中世にかけての遺物が多量に出土した。81～85は須恵器で、81～83は蓋、84が有高台の杯底部、85が無高台の杯である。86～88は土師器・甕である。いずれも口縁はやや外傾し、86・87は面取り、88は丸く肥大化させている。90～94はロクロ成形の中世土師器・皿である。95は珠洲・すり鉢の片口部である。古代の遺物は8世紀中頃～9世紀中頃、中世は13世紀前半である。

SD02出土は96で須恵器・蓋である。SD03出土は97・98で、97は須恵器・蓋、98は土師器・甕の底部である。ともに9世紀前半である。SD05出土は99で中世土師器・皿である。14世紀前半であろう。

SD06出土は100～106である。100は須恵器・杯、101は須恵器・蓋、102は土師器・甕の口縁部、103は中世土師器・皿、105は珠洲・鉢、106は白磁・碗の体部、104は鉄釘である。古代の遺物は9世紀末～10世紀初め、中世は12世紀後半にあたる。SD07出土は107・108である。ともに中世土師器・皿で13世紀代にあたる。SD09出土は109である。土師器・碗である。

その他の遺構 (第76図、図版42・45)

110はP324出土である。111はP153出土である。ともに須恵器・杯で、110は口縁部、111は有高台の底部である。9世紀中頃～後半である。112はSX02出土である。古代土師器・甕の体部である。

包含層出土 (第71・76図、図版39・45・46)

1～5は縄文土器で、縄文後期～晩期にあたる。いずれも深鉢で、1～3は口縁部、4・5は底部である。6は打製石斧である。7は磨製石斧である。113・114は、土師器・高杯の脚部である。115～120は須恵器である。115・116は蓋で9世紀前半にあたり、117は壺の口縁部、118は二耳壺もしくは四耳壺の口縁部から肩部である。119は壺の底部、120は壺の口縁部である。121～123は、土師器・甕である。123は強く外傾した口縁に、端部を面取りし、強く内傾する。125・126は土師器・皿である。127・128は中世土師器・皿である。いずれも手づくね成形で、14世紀代である。129は珠洲・壺の口縁部、130は下駄である。幅7.5cm、長さ12cmと小ぶりである。(佐藤聖子)

第3表 梅原胡摩堂遺跡25地区竪穴建物計測表

遺構番号	主軸	東西×南北(m)	床面積(m ²)	深さ(cm)	カマド	貼床	時期	備考
SI 01	N-15°-E	4.25×4.25	18.06	18	南東隅	○	8世紀前半	SI 01より古い
SI 02	N-13°-E	4.0×3.5	14.0	24	南東隅	—	9世紀	SI 01より新しい
SI 03	N-4°-E	(2.0)×2.5	5.0	30	南東隅	—	9世紀前半	西側半分調査区外
SI 04	N-19°-E	3.0×4.0	12.0	22	南東中	—	9世紀前半	
SI 05	N-4°-E	2.5×3.0	7.5	14	南東隅	○	9世紀中～後	
SI 06	N-32°-E	3.0×3.0	9.0	20～34	—	—	8世紀後～9世紀前	
SI 07	N-17°-E	3.5×3.0	10.5	28	—	—	9世紀前半	
SI 09	N-25°-E	3.0×3.5	10.5	10	—	—	10世紀	
SI 10	N-27°-E	3.5×3.0	10.5	20～30	南東隅	○	9世紀前半	鉄滓有り

第4表 梅原胡摩堂遺跡25地区出土遺物計測表

図版番号	写真(図版)	遺物番号	遺構番号	種類	器種	口径(φ)	器高(全長)	底径(φ)	特記事項
第71図	図版39	1	X22、Y3	縄文土器	深鉢	—	—	—	
第71図	図版39	2		縄文土器	深鉢	—	—	—	
第71図	図版39	3	X20、Y13	縄文土器	深鉢	(19.9)	—	—	外面:条痕、内面:ミガキ
第71図	図版39	4	X12、Y11	縄文土器	深鉢	—	—	—	
第71図	図版39	5		縄文土器	深鉢	—	—	—	
第71図	図版39	6	X22、Y8	打製石斧		9.3	24.6	4.7	花崗岩か
第71図	図版39	7	X15、Y10	磨製石斧		4.9	13.2	3.0	砂岩か
第71図	図版39	8	SI01	須恵器	杯	—	—	(10.4)	
第71図	図版39	9	SI01	土師器	碗	15.4	3.5	9.4	かまど出土、内外面赤彩
第71図	図版39	10	SI01	土師器	甕	17.6	—	—	内外面とも、口縁:ナデ、体部:カキメ
第71図	図版39	11	SI02	須恵器	杯	12.8	3.0	8.2	
第71図	図版39	12	SI01	須恵器	杯	13.0	(3.3)	(8.0)	
第71図	図版39	13	SI02	須恵器	杯	11.8	3.0	6.8	かまど上面
第71図	図版39	14	SI02	須恵器	杯	11.4	3.5	6.4	
第71図	図版39	15	SI02	須恵器	蓋	12.4	2.8	7.6	
第71図	図版39	16	SI02	須恵器	杯	12.0	—	—	
第71図	図版39	17	SI02	須恵器	蓋	15.4	—	—	
第71図	図版39	18	SI02 P1	土師器	甕	22.3	—	—	内外面ともナデ
第71図	図版39	19	SI02	土師器	甕	(25.0)	—	—	内外面ともナデ
第71図	図版40	20	SI03	須恵器	杯	(12.2)	—	—	
第71図	図版40	21	SI03	須恵器	杯	(11.5)	—	—	
第71図	図版40	22	SI03	土師器	甕	13.2	—	—	内外面ともナデ

図版番号	写真図版	遺物番号	遺構番号	種類	器種	口径(幅)	器高(全長)	底径(厚さ)	特記事項
第72図	図版40	23	SI04	須忠器	四耳壺	—	—	—	
第72図	図版40	24	SI04	須忠器	甕	—	—	—	外面：平行線文タタキ、内面：当て具痕
第72図	図版40	25	SI04	土師器	甕	21.6	—	—	外面：口縁ナデ、体部カキメ、内面：ナデ
第72図	図版40	26	SI04	土師器	甕	20.6	—	—	内外面とも、口縁：ナデ、体部：カキメ
第72図	図版40	27	SI05	須忠器	蓋	—	—	—	
第72図	図版40	28	SI05	土師器	椀	—	—	6.8	
第72図	図版40	29	SI05	土師器	甕	17.6	—	—	
第72図	図版40	30	SI05	土師器	甕	23.2	—	—	内外面とも、口縁：ナデ、体部：カキメ
第72図	図版40	31	SI06	須忠器	杯	11.8	3.3	8.0	
第72図	図版40	32	SI06	須忠器	杯	11.4	3.5	7.2	
第72図	図版40	33	SI06	須忠器	杯	(11.0)	—	—	
第72図	図版42	34	SI06	土師器	甕	28.2	—	—	内外面とも、口縁：ナデ、体部：カキメ、体部下半：ヘラ削り
第72図	図版41	35	SI06	土師器	甕	21.6	—	—	内外面とも、口縁：ナデ、体部：カキメ、体部中：ヘラ削り
第72図	図版41	36	SI06	土師器	甕	21.0	—	—	内外面とも、口縁：ナデ、体部：カキメ、体部中：ヘラ削り
第72図	図版41	37	SI06	土師器	甕	21.4	—	—	内外面とも、口縁：ナデ、体部：カキメ
第73図	図版42	38	SI06	土師器	甕	21.4	31.5	—	外面：口縁：ナデ、体部：カキメのちタタキ、内面：口縁ナデ、体部ハケ
第73図	図版41	39	SI06	土師器	甕	23.4	—	—	
第73図	図版43	40	SI07	須忠器	杯	11.4	2.6	7.0	
第73図	図版43	41	SI07	土師器	椀	(20.0)	—	—	
第73図	図版43	42	SI09	須忠器	蓋	14.4	—	—	
第73図	図版43	43	SI09	須忠器	蓋	(14.0)	—	—	
第73図	図版43	44	SI09	土師器	甕	(20.2)	—	—	内外面ともナデ
第73図	図版43	45	SI09	土師器	椀	(15.0)	—	—	
第73図	図版39	46	SI09	土師器	皿	14.0	2.3	4.6	内外面ともナデ
第73図	図版43	47	SI09	土師器	皿	14.0	1.9	5.6	外面赤彩
第73図	図版43	48	SI09	土師器	皿	12.0	2.1	5.6	
第73図	図版43	49	SI09	土師器	椀	—	—	4.6	内面ヘラ削り
第73図	図版43	50	SI09	土師器	椀	—	—	5.8	
第73図	図版43	51	SI10	須忠器	蓋	18.4	3.4	3.4	ヘラ記号有
第73図	図版43	52	SI10	須忠器	杯	11.0	—	—	
第73図	図版43	53	SI10	土師器	甕	11.8	—	—	内外面ともナデ
第73図	図版43	54	SI10	土師器	甕	21.2	—	—	内外面とも、口縁：ナデ、体部：カキメ
第73図	図版43	55	SI10	土師器	甕	22.0	—	—	外面：口縁ナデ、体部カキメ、内面：ナデ
第74図	図版44	56	SK02	土師器	椀?	—	—	6.0	
第74図	図版44	57	SK04	土師器	甕	(12.2)	—	—	
第74図	図版45	58	SK06	須忠器	蓋	13.4	—	—	
第74図	図版45	59	SK06	須忠器	蓋	(12.0)	—	—	
第74図	図版45	60	SK06	須忠器	蓋	13.8	—	—	
第74図	図版45	61	SK06	中世土師器	皿	(7.8)	(1.7)	(5.0)	非ロクロ成形
第74図	図版44	62	SK05	須忠器	杯	14.2	3.2	8.2	
第74図	図版44	63	SK05	須忠器	杯	14.0	3.8	9.0	
第74図	図版44	64	SK05	須忠器	杯	10.8	—	—	
第74図	図版44	65	SK05	須忠器	蓋	14.6	—	—	
第74図	図版44	66	SK05	土師器	椀	12.8	—	—	

図版番号	写真図版	遺物番号	遺構番号	種類	器種	口径(幅)	器高(全長)	底径(厚さ)	特記事項
第74図	図版44	67	SK05	土師器	皿	12.0	—	—	内面黒色、外面：ナデ、内面：ヘラミガキ
第74図	図版44	68	SK05	土師器	甕	(21.0)	—	—	外面：ナデ
第74図	図版44	69	SK05	土師器	土師器	14.6	—	—	内外面ともナデ
第74図	図版45	70	SK08	土師器	甕	14.0	—	—	外面：口縁ナデ、体部ハケ、内面：カキメ
第74図	図版45	71	SK08	鉄釘		—	—	—	
第74図	図版45	72	SK09	土師器	甕	(20.0)	—	—	外面：カキメのちナデ、内面：カキメ
第74図	図版45	73	SK10	須恵器	蓋	2.8	—	—	
第74図	図版45	74	SK12	土師器	椀	(14.0)	—	—	
第74図	図版45	75	SK12	中世土師器	皿	7.6	(1.7)	(4.0)	非ロクロ成形
第74図	図版45	76	SK14	土師器	甕	20.2	—	—	内外面ともナデ
第74図	図版45	77	SK15	須恵器	蓋	12.8	—	—	
第74図	図版45	78	SK15	中世土師器	皿	13.6	2.0	8.2	ロクロ成形、一段ナデ
第74図	図版45	79	SK19	青磁	碗	15.2	—	—	
第74図	図版45	80	SK19	土師器	椀	26.6	—	—	
第74図	図版45	81	PIT	須恵器	蓋	2.7	—	—	SD01 南側の pit
第74図	図版43	82	SD01	須恵器	蓋	12.4	—	—	
第74図	図版43	83	SD01	須恵器	蓋	15.2	(14.2)		
第74図	図版43	84	SD01	須恵器	杯	—	—	10.4	
第74図	図版43	85	SD01	須恵器	杯	—	—	6.0	
第74図	図版43	86	SD01	土師器	甕	30.0	—	—	内外面ともナデ
第74図	図版43	87	SD01	土師器	甕	22.2	—	—	内面：カキメ
第75図	図版43	88	SD01	土師器	甕	12.8	—	—	外面：ナデ、内面：口縁ナデ、体部カキメ
第75図	図版43	89	SD01	土師器	皿	—	—	7.8	
第75図	図版44	90	SD01	中世土師器	皿	11.4	—	—	一段ナデ
第75図	図版44	91	SD01	中世土師器	皿	8.5	2.4	4.2	ロクロ成形、油痕有、灯明皿
第75図	図版44	92	SD01	中世土師器	皿	9.1	2.3	4.6	ロクロ成形、油痕有、灯明皿
第75図	図版44	93	SD01	中世土師器	皿	8.5	1.9	4.6	ロクロ成形
第75図	図版44	94	SD01	土師器	椀	10.0	1.8	5.4	ロクロ成形
第75図	図版44	95	SD01	珠洲	片口	—	—	—	
第75図	図版44	96	SD02	須恵器	蓋	(17.6)	—	—	
第75図	図版44	97	SD03	須恵器	蓋	16.0	—	—	
第75図	図版44	98	SD03	土師器	甕	—	—	6.4	内外面ともナデ
第75図	図版44	99	SD05	中世土師器	皿	14.8	—	—	ロクロ成形、2段ナデ
第75図	図版44	100	SD06	須恵器	杯	10.0	(1.7)	(4.0)	
第75図	図版44	101	SD06	須恵器	蓋	10.3	4.2	6.8	
第75図	図版44	102	SD06	土師器	甕	8.6	—	—	内外面とも横ナデ
第75図	図版44	103	SD06	中世土師器	皿	(13.8)	—	—	一段ナデ
第75図	図版44	104	SD06	鉄釘		0.7	4.2	0.6	
第75図	図版44	105	SD06	珠洲	鉢	(34.0)	—	—	
第75図	図版44	106	SD06	白磁	碗	—	—	—	
第75図	図版44	107	SD07	中世土師器	皿	9.4	1.6	7.0	非ロクロ成形
第75図	図版44	108	SD07	土師器	椀	16.4	3.0	7.8	内面ナデ
第75図	図版43	109	SI09	土師器	椀	14.0	—	—	
第75図	図版45	110	P324	須恵器	杯	11.0	—	—	
第75図	図版45	111	P153	須恵器	杯	—	—	8.6	
第76図	図版42	112	SX02	土師器	甕	—	—	—	内外面ともハケ、ヘラ削り

土坑	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどが長方形を呈する。 ・多くが中世遺構に切られている。
出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> ・須恵器の壺、杯、杯蓋、須恵器製作技法の土師器長胴丸底甕などである。
・中世 (12世紀中～後半)	<ul style="list-style-type: none"> ・掘立柱建物9棟、堅穴状土坑12基、溝6条、礫集中遺構1基、畑跡である。
掘立柱建物	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく総柱建物と側柱建物とがある。 ・建物の軸がほぼ南北となるもの、真北より東に振れるもの、真北より西に振れるものがある。 ・数棟は堅穴状土坑ないし土坑と関連する。
堅穴状土坑	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて方形を呈し、2基をのぞきほとんどの堅穴長軸がほぼ南北方向である。 ・堅穴の軸が掘立柱ないし溝の軸と平行するものがある。 ・堅穴床面の中央から北側が一段低い段差構造のものが2基ある。
溝	<ul style="list-style-type: none"> ・南北軸全長約90mを測るものがあり、底面の標高から、南から北への流路をとる。また、6条のうち、2条はクランク状に曲がる。
礫集中遺構	<ul style="list-style-type: none"> ・長方形の土坑状の掘り方を有する。 ・扁平礫を敷いている。
畑跡	<ul style="list-style-type: none"> ・約80㎡の範囲で30条ほどの小溝からなるもの、調査区西側で古代の住居と重複するものがある。
出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> ・中世上師器・皿、珠洲・甕、青磁・碗、白磁・碗、鉄製品、土錐等がある。
・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代の土坑1基がある。掘り方の底面が広く、断面観からプラスチック状ピットと称される。 ・不明の土坑、および小穴群がある。いくつかは掘立柱建物の付属と思われるものもあるが判断は困難である。

(3) 遺構の概要 (第5・6表)

検出した遺構のうち、各期の主要な遺構を中心に記載することとする。

A. 古代

SI02 (第42図 図版17)

調査区 X25～27、Y3～5にかけて所在する。上部は削平を受けており、西壁の一部は調査区外である。また堅穴中央部はSK01によって切られている。堅穴西側で貼床が認められた。カマドは南東隅にあり、上部が焼土粒の集積などの灰層で覆われ、この下位で燃焼部と両袖の痕跡が確認された。燃焼部内は深さ20cmほどの小穴がある。煙道は不明である。付属遺構はカマドの東側に2基、西側に6基の小穴を検出している。P01は覆土の状況から作居に伴うものと思われる。P02とP05はいずれもカマド灰層下位からの検出である。P06の埋土は焼土ブロックからなる。遺物は土師器・碗、須恵器・有台杯、杯蓋、横瓶がカマド周辺から出土している。

SI03 (第43図 図版18)

調査区 X21～23、Y3～5にかけて位置し、SI02の南側に所在する。畑跡とともに検出した。上部は削平され、カマドと床面のみを確認した。畑跡の溝が堅穴の床面より深い部分もみられる。カマドは南東隅にあり、燃焼部を検出している。燃焼部からやや南に煙道の存在が認められた。煙道の先に小穴があり、関連などを検討したが詳細は不明である。遺物は埋土から土師器・杯の底部がみつまっている。

SI04 (第44図 図版17)

調査区北側の X28 ~ 29、Y7 ~ 10 にかけて位置する。包含層除去後の漸移層で検出した。北壁の一部は攪乱を受けている。竪穴内の北側と南側にそれぞれ1基ずつSB03の柱穴が並ぶ。竪穴はほぼ正方形となる。東壁中央に直径約1mの楕円形土坑がある。埋土の状況から住居と同時期に埋没したものと判断される。土坑の東壁はSD03によって削られていた。竪穴の西側2m×1mの範囲は貼床を施している。カマドは南東隅にある。燃焼部の東西両脇がやや浅く掘り込まれており両袖へと接続していたと思われる。さらに南に1mほど煙道が延びている。遺物は竪穴全体でみつかっており、特に土坑からカマド周辺にかけて土師器・長胴甕、広口の短胴甕、須恵器・杯などがまとまって出土した。

SI08 (第45図 図版18)

調査区X19~21、Y10~11に位置する。上部は削半され、また竪穴の西壁はSD03によって削られている。主軸はほぼ真北を示している。埋土は褐灰色を基調とし、粘質土とシルトで構成されている。粘質土は地山粒子を含み、竪穴内の南側にみられた。東壁側でほぼ完形の上師器・甕が横転した状態で出土した。カマドは南西隅で検出した。カマド周辺には灰層があり、この灰層から下位の燃焼部直上にかけて、2個体の土師器・甕の破片が集中していた。カマドのある南壁は燃焼部の両脇が緩やかに立ち上がっており、袖を構成していたと思われる。煙道は確認されなかった。遺物は、土師器・甕、須恵器・無台杯、有台杯が出土した。

SI12 (第46図 図版18)

調査区東側 X24 ~ 26、Y20 ~ 23 にかけて位置する。ほぼ正方形を呈し、北東隅の壁は中世遺構に切られ、形状不明である。主軸は N-15° -E で、やや東に傾く。カマドは南東隅にあり、灰層と燃焼部が確認された。袖、煙道は認められなかった。埋土中、上位1層は基本層序の①層起源で、多数の中世遺物を含む。貼床は住居の中央部でみられた。直径1m前後の上坑が床面で5基、小穴が12個検出した。いずれも埋土の状況からSI12よりも古いと考えられるが現段階で詳細は不明である。遺物は土師器・甕、内面黒色碗、須恵器・甕、壺、杯蓋、無台杯などが出土した。

SI20 (第46図 図版20)

調査区東側 X21 ~ 23、Y23 ~ 24 にかけて位置する。東側半分をSI11によって切られている。カマドは残存部ではみつからないが、床面直上に焼土、炭化物が見られることから東側のいずれかにあったと推測される。住居中央と南壁にSB07の柱穴がある。遺物は須恵器・甕である。

SK09 (第43図 図版6)

調査区X12~13、Y20~21に位置する。規模は2.4m×1.1m、深さ57cmを測る。覆上の状態から埋め戻された可能性が高い。遺物は土師器・内面黒色土器である。

SK15 (第39図)

調査区南東側 X5、Y30に位置する。東側半分が調査区外となる。長さ1.2mほどの長方形を呈していると思われる。遺物は土師器・甕が出土している。

SK16 (第39図)

調査区南側 X5、Y19~20にかけて位置する。南半分はSD03によって切られている。規模・形状は残存の北半分から直径1m、深さ40cmの不整形円形が推定される。遺物は須恵器・杯蓋、白磁・皿が出土している。

SK19 (第39図)

調査区東側 X18~19、Y21にかけて位置する。規模・形状は2.1m×1.9mの方形で、深さ約40cmである。

遺物は須恵器・杯が出土した。

SK21 (第39図)

調査区東側 X16～17、Y26に位置する。東側は調査区外となり、規模は(2.5m×1.5m)、確認面からの深さ30cmを測る。遺物は須恵器・杯、蓋、土師器が出土している。

SK22 (第39図)

調査区 X15～16、Y20に位置する。規模・形状は1.8m×1.3m、深さ約20cmを測り、長方形を呈する。上面がSX08によって削平されている。遺物は灰軸陶器・碗が出土した。

SK25 (第43図)

調査区 X25～26、Y6に位置する。SI02の東側で検出した。規模は2.1m×1.4m、深さ20cmである。上部は削平されている。遺物は土師器・杯が出土した。

B. 中世

竪穴状土坑は、検出時古代竪穴建物である可能性があったことから、「SI」で表記している。

SI01 (第47図 図版19)

調査区 X28～31、Y11～13に位置する。竪穴の北半分が一段低い構造となっている。確認面からの深さは北側で35cm、南側で10cmである。埋土は砂質ないしシルトからなり、壁から床面に沿って鉄分の沈着が認められた。柱穴は南北壁中央、竪穴内中央に各1本、東西は竪穴の外にそれぞれ3本、計9本配されている。柱穴の並びから掘立柱建物とその付属施設として捉えられる。柱穴に明確な柱痕は認められず、西側中央のものは小礫が2点入っていた。遺物は中世土師器・皿、珠洲・甕、刀子が出土した。

SI05 (第48図 図版19)

調査区 X27～28、Y6、7に位置する。埋土は、粘質土とシルトからなり、中位では焼土粒、炭化物がみられた。また上部から底面にかけて拳大の自然礫(亜円礫)が入り、鉄分が全体にみられた。遺物は主に北側から中世土師器・皿、珠洲・水注などが出土した。規模、形状から土坑の可能性が高い。

SI06・SI07・SI19 (第49図 図版19)

調査区西側 X20～23、Y5～8にかけて位置する。SI06の南壁はSI19によって削られている。埋土状況から西壁側に地山起源の厚い粘土があり、壁の作り替えと貼床を施している。遺物は中世土師器・皿などが出土した。

SI07はSI06のやや南東に隣接している。竪穴北半分が一段低い構造である。主軸の方位はN-8°-Eを示し、SI06とはほぼ同一軸である。埋土は地山ブロックの上位に基本層序④層が厚く堆積している。遺物は中世土師器・皿と鉄滓が出土している。

SI19は、X21、Y5、6に位置し、SI06の南壁を切っている。東西壁の角度はややゆるやかである。埋土には全体に地山起源の粒塊が混じり、埋め戻しの状態を示していることから土坑の可能性がある。遺物は中世土師器・小皿が出土している。

SI09・SI14・SI15 (第50図 図版20・21)

SI09、SI14、SI15は調査区中央のX20～23、Y12～17にかけて位置する。

SI09の埋土は2層に分けられた。いずれも砂質土である。上位層は焼土粒と炭化物を含み、鉄分の影響を受けている。下位層は粒子の粗い黒色砂である。竪穴の周囲と中央にSI02の柱穴が配列しており、柱穴の埋土が竪穴の上位層と同質であった。遺物は中世土師器・小皿、蓋、三足脚、珠洲・甕、すり鉢、青磁・碗、合子、鉄製容器、鉄滓が出土した。SI14は上面をSI15に削られている。埋土は灰黄色粘土で、炭化物と焼土を含む部分がある。大小の礫とともに中世土師器・皿、珠洲・すり鉢、鉄製品、鉄滓などが

出上している。SI15は上部が削平され形状は不明瞭である。遺物は中世土師器・皿、壺が出上している。

SI10 (第48図 図版20)

調査区東側 X22～24、Y22～26にかけて位置する。埋土は粘性のある黒褐色土で、部分的にシルトが入り込む。竪穴中央部でSB02の柱穴が上位から掘り込まれていた。遺物は中世土師器・皿、珠洲・すり鉢、青磁・碗などが出土している。

SI11 (第46図 図版20)

調査区東側 X21～23、Y23～24にかけて位置する。埋土はしまりのある黒褐色土からなり、床面は貼床が施されている。遺物は中世土師器・皿、珠洲・甕、すり鉢、青磁・碗、皿などが出土している。

SI13 (第53図)

調査区北側 X25～27、Y14～16にかけて位置する。北東部は擾乱を受けている。埋土は粘土からなり、底面近くではグライ化する。自然礫が多数入り込んでいた。規模、形状から上坑と思われる。遺物は中世土師器・皿が出土している。

SI16 (第53図 図版21)

調査区 X13～14、Y20～22にかけて位置する。埋土は鉄分を含む黒褐色土からなり、下位はシルト質粘土ブロックが入り込んでいる。自然堆積を早している。遺物は土師器・皿と珠洲・すり鉢が出土している。

SI17 (第53図 図版21)

調査区 X14～15、Y17～18にかけて位置する。南東壁がSB04の柱穴で削られている。埋土は基本層序④層起源の土層からなり貼床が施されている。貼床下位にSK26があり、須恵器・有台杯が出土している。

SB01～SB09 (第39・40・52・53図 図版21)

SB01は調査区南西側に位置し、南北4間、東西2間の総柱建物である。主軸方位はN-1° -Wを示す。SB02は調査区中央部に位置し、南北4間、東西8間の総柱で、主軸は東西方向である。南西隅の柱と南北中央柱列のうちの1本が存在しない。この周辺は竪穴状土坑(SI09・14・15)が並んで位置しており、関連性があると思われる。SB03は、調査区北西部にあり、東西南北3間×3間総柱の建物である。南東隅の柱穴は明らかにできなかった。主軸はN-14° -Eで、北からやや東にある。この建物から1間ほど北東にSI01があるが主軸方向にやや差異があるため、切り離してとらえておくこととした。SB04は調査区中央のやや南にあり、主軸方位N-9° -Wを示す2間×5間の総柱建物である。これより西に3mほど離れたところで同軸方向に並ぶ2列を確認した。SB05は、調査区南東隅で検出した。柱2列からなる側柱構造の建物と思われる。主軸方位はN-9° -Wである。SB06およびSB07は、SB02の南東部に接している。それぞれ3本2列からなる小規模なつくりである。2棟一対をなして機能していたものと考えられる。SB08はSI14と重複して存在する。主軸方向が東西にあり、3本2列の側柱となる。柱穴はやや大型の方形を呈している。SB09は、調査区中央の畑跡SX09に隣接している。周辺は畑の小溝や土坑が集中し、柱列との重複により、SB09の規模などが不明瞭である。SK23はこの付属施設として捉えられる。SK23からは中世土師器などがまとまって出土している。

SD01～SD06 (第39・40図 図版22)

SD01は調査区の北西隅に位置する。幅1.46m、深さ40cmを測る。最深部の標高は73.41mである。SD02は幅1.4m、深さ約20cmで、調査区中央の畑跡から南北に10m、南端から西に方向を変えて23m先の調査区外へと続く。南北軸は畑の小溝と平行である。須恵質の鉢が出土している。SD03は幅1.2～1.5m、深さ15～30cm、全長89mで、調査区を東西に二分するように南北を貫く溝である。中央付近でやや東にきりかえている。溝底面の標高は南が74.43m、北が73.89mで北への緩やかな流路となっている。

遺物は珠洲・大堯、すり鉢、壺などが出土している。SD04およびSD06は、調査区南端に位置し、いずれも東西方向の溝である。SD04は最大幅2.4m、深さ60cmを測る大溝である。SD06は幅1.3m、深さは最大92cmを測る狭く深いタイプの溝である。この埋没後にSD04が築かれている。遺物は出土していない。SD05は調査区南に位置する。溝幅は最大で1.34m、深さ40～50cmを測り、SD03の東側、北西―南東方向の進路である。遺物は出土していない。

SX03 (第41図 図版22)

調査区X23～25、Y16～23に位置する。雑群は南北約5m、東西約10mの面積約50㎡の範囲で検出した。標高は74.4m前後、北縁辺が74.35mとやや低い。検出層位は基本層序④層である。雑群は主に拳大および人頭人の円礫・破砕礫(約500個以上)からなり、中世土師器・皿、珠洲・堯、鉢等をともなっている。削平の影響を受け配列などは不明瞭であったが、X23、24、Y19、20において状態の良好な集石を検出した。土坑状の掘り方を有し、長方形を呈している。規模は1.8m×0.9m、深さ20cmを測る。集石は径20cm～10cmの亜円礫・破砕礫(約200個)等を土坑の壁に沿って並べ、内部にも隙間無く詰めた状態を示していた。この直下は直径20cm大の扁平礫によって敷石状となっていた。北壁の一部は小穴によって削られていた。埋土は、基本層序④層に地山粒子を含む土層からなり、底面直上で腐植質の黒色土が薄く認められた。遺物は中世土師器・皿が出土している。埋葬施設として捉えられ、周辺はその関連遺構だったものと考えられる。

C. その他の時期

SK38 (第43図 図版21)

調査区X14、Y19に位置する。開口部径が約40cm、底径が約60cm、深さ約40cmを測る。断面の形状がフラスコ状を呈する。中世の柱穴調査時に発見されたもので、覆土から縄文時代の土器が出土した。

(4) 遺物の概要 (第77～87図 図版47～57 第7・8表)

掲載した遺物の詳細は、一覧表に記載のとおりである。ここでは、各期の主要遺構出土遺物を種類別にとりまとめることとする。

A. 古代 (第77図～80図)

土師器・堯、碗、内面黒色碗、須恵器・堯、壺、無台杯、有台杯、杯蓋などがある。

土師器・堯はSI04の4点(6～9)、SI08の3点(11～13)、SI12の2点(18、19)である。6、11、12、13は丸底長胴堯でいわゆる砲弾型を呈する。これらは胴部内外面とも上半にロクロナア、カキメ、下半にタタキを施し、須恵器製作技法によるものである。8の短胴堯の上半にも同様のカキメがみられる。7、9、19は内外面ともハケメが施されている。18はロクロ成形である。

土師器・碗はSI02から1点(1)出土している。1は内外面ともミガキを施しているが、外面下半は摩滅している。

内面黒色碗はSI12からの2点(20、21)、SK09からの1点(29)がある。20はカマドからの出土で底部にかけてやや厚みがある。29の底面は回転糸切り痕がある。

土師器・杯はSK25から1点(39)出土している。内外面ともにミガキが施されている。

須恵器・堯はSI20から口縁部1点(27)出土。外面に格子タタキ、内面に同心門のあて具痕が認められる。須恵器・壺はSI12の直口壺1点(26)がある。26はSI12から体部が出土し、調査区北側掘削でみつかった口頸部と接合した。高台が潰れズレを生じている。頸部に波状撫描文、列点撫描文が施される。頸部から肩部にかけて降灰による自然軸がかかる。8世紀中頃と思われる。

無台杯はSI08の1点(14)、SI12の3点(22、23、24)、SK19の1点(34)、SK21の1点(37)がある。24をのぞき底部切り離しは回転ヘラ切りである。22は口縁に油煙が認められる。34は底面に「林」の墨書が施されている。14、22、23、24、34、は8世紀中頃、37は9世紀前半と思われる。

有台杯はSI02から1点(3)、SI08から2点(15、16)出土している。すべて底部は回転ヘラ切り後高台を接合し、ナデ整形を施している。3は内面見込みが平滑で、墨の痕跡があり転用碗である。

杯蓋はSI02(2)1点、SI12(25)1点、SK16(31、32)2点、SK21(35)1点である。2は、胎土に白色粒を多量に含む。25は頂部が回転ヘラ切り、つまみ部は回転ナデが施されている。31、32、35は平底蓋である。35は8世紀後半とされる。

横瓶はSI02から1点(4)出土している。4は瓶の胴部である。外面は平行タタキが施され、凹線が1条めぐり、内面には同心円のあて具痕がみられる。

その他の遺物はSK22から灰釉陶器碗(38)が出土している。内面が施釉されている。9世紀前半に比定される。

B. 中世(第81回～87回)

主に中世土師器・皿、珠洲・壺、すり鉢、壺、鉢(須恵質土器も含む)、中国陶磁器の碗・皿類、鉄製品の刀子・釘などのほか鉄滓がある。図示した個々の詳細については第3表に示している。

中世土師器・皿は非ロクロ成形のものが中心となる。このうち堅穴状土坑からはSI01出土5点(41～45)、SI05出土2点(49、50)、SI06出土2点(54、55)、SI07出土1点(57)、SI09出土21点(59～80)、SI10出土13点(94～106)、SI11出土7点(113～119)、SI13出土1点(126)、SI14出土5点(129～133)、SI15出土1点(140)、SI16出土1点(142)、SI19出土1点(145)である。このほかSX03の窯集中出土の7点(152～158)があり、掘立柱建物ではSB02の柱穴P375出土1点(187)とSB09の付属土坑SK23出土18点(165～182)がある。全体に口径8～9cmの小皿と口径13～14cmの皿とがあり、体部上半に段を有するものと無いものとに分かれる。さらに底部が丸底あるいは平らなもの、口縁部が直立するものなど、細分が可能である。SI09の63は小皿で口縁に油煙が付着している。SI10の13点のうち94、97、99～102は体部下半に指頭様の圧痕がある。

珠洲・壺は堅穴状建土坑出土のものがSI01の46、SI09の82、SI11の12で、溝遺構出土のものがSD03の148、149である。149は大甕である。148は口縁端部を強く外反させている。外面は平行タタキが施されている。82、128、148、149の内面は指頭ないし拳状の押圧がみられる。

すり鉢はSI09の83、SI10の107、SI14の134、SI15の143、SD03の150、SD04の147、SX03の161、162、SB02-P347の185がある。107の外底面は静止糸切りとなっており、卸目が内底面に達している。134の卸目は底から口にむかって引かれている。150は外面に回転ナデを施し、波状の卸目である。

壺はSK31の40、SD03の151、SB09の184、SI11の125がある。40、151、184は肩部に櫛掻き波状文をめぐらせている。184は3段の櫛掻き波状文をめぐらせており、肩部上位が蓮弁座で加飾されている。瓶はSI05の1点(51)がある。51は双耳を配し、頸部から肩にかけてロクロによる凹線がめぐり、口縁端部は玉縁状となる。肩部には櫛掻き波状文が施されている。

鉢はSD02の146、SX03の163、包含層X18-Y18の189がある。このうち163は底部が静止糸切りによるもので、内面に凹文が刻まれている。189は片口鉢で、底部に板状圧痕がみられる。

中国製陶磁器のうち、青磁の碗はSI05から2点(52、53) SI09から3点(84～86)、SI10から4点(108、109、111、112) SI11から1点(122)、SB09-SK23から1点(164)出土した。52はヘラによる片切り彫り草花文が施されている。86もまたヘラによる片切り彫りによる文様が内面に施されている。52、53、

85、86、164は龍泉窯系で太宰府編年によるD期に相当し、12世紀中頃～後半と思われる。ⅢはSI11の124、SX03の159がある。同安窯系で12世紀中頃～後半のものとされる。白磁はSI10からⅢが1点(110)、SI11から合子の身1点(123)、包含層X20、Y5から碗が1点(196)出土している。このうち110は太宰府編年によるF期相当13世紀前半、196はC期相当で11世紀後半から12世紀前半に位置づけられる。

その他の遺物

鉄製品は、SI01から刀子2点(47、48)、SI06から釘1点(56)、SI09から鉄製容器2点(89、90)鉄滓2点(91、93)、釘1点(92)、SI14から釘3点(135～137)、鉄滓2点(138、139)、包含層から釘2点(193、194)、針状製品1点(195)が出土している。47は完形品である。刃部の長さ16cmで、片区の刀子である。茎から棟にかけてやや湾曲している。48は刃先が折れて欠失している。刃部は中ほどから先端にかけて曲がっており、区部は錆朽のため不明瞭である。

土製品は、SI09の81は三脚の脚部である。土師質で全体にナデが施されている。192は土錘である。表面に板状の圧痕があり、転がして成形したと思われる。SK38の28は縄文時代晩期の浅鉢形土器である。口縁部下位は段を有する。主文様は沈線によるT字文を器面に展開する。瘤状突起が12箇所に配する。(小柳リラコ)

第5表 梅原胡摩堂遺跡26地区竪穴建物計測表

遺構番号	上軸	南北×東西 (m)	床面積 (㎡)	深さ (cm)	カマド	屋内施設	床面	時期
SI01	N-10°-E	4.46×3.62	12.6	35	—	—	—	12世紀中頃
SI02	N-7°-E	4.86×3.70	17.4	14	○	—	貼床	8世紀中頃
SI03	N-7°-E	4.78×3.54	15.7	8	○	—	—	8世紀中頃
SI04	N-4°-E	3.32×3.04	9.1	19	○	土坑	貼床	8世紀中頃
SI05	N-10°-E	3.14×2.00	4.4	37	—	—	—	12世紀中頃～後半
SI06	N-14°-E	2.92×2.20	5.1	22	—	—	貼床	12世紀中頃
SI07	N-8°-E	2.96×2.64	7.9	西20北45	—	—	—	12世紀中頃
SI08	N-1°-E	(4.64)×(3.54)	14.1	15	○	—	—	8世紀中頃
SI09	N-4°-E	5.28×4.60	19.9	24	—	—	—	12世紀中頃～後半
SI10	N-2°-E	3.76×4.06	13.1	4	—	—	—	13世紀前半
SI11	N-1°-E	4.32×3.60	10.8	53	—	—	貼床	12世紀中頃～後半
SI12	N-15°-E	3.76×3.80	12.6	39	○	—	貼床	8世紀中頃
SI13	N-0°-WE	3.32×4.76	9.6	55	—	—	—	12世紀中頃
SI14	N-0°-WE	4.18×3.92	11.9	26	—	—	貼床	12世紀中頃～後半
SI15	N-0°-WF	(1.56)×3.72	17.3	28	—	—	—	12世紀中頃～後半
SI16	N-3°-W	2.50×3.44	5.1	29	—	—	—	12世紀
SI17	N-0°-WE	2.56×1.90	3.8	25	—	—	貼床	—
SI19	N-9°-E	3.30×2.60	4.1	3	—	—	—	12世紀中頃～後半
SI20	N-1°-E	4.32×(1.76)	5.2	6	—	—	—	—

第6表 梅原胡摩堂遺跡26地区掘立柱建物計測表

遺構番号	建物方向	規模 梁行×桁行	柱数	面積 (㎡)	梁 (m)	桁 (m)	柱穴規模(平均値)(cm)		
							長軸	短軸	深さ
SB01	N-1°-W	2×4	15	39.18	4.62	8.48	48	32	18

遺構番号	建物方向	規模 梁行×桁行	柱数	面積 (㎡)	梁 (m)	桁 (m)	柱穴規模 (平均値) (cm)		
							長 軸	短 軸	深 さ
SB03	N-14'-E	3×3	14	52.36	6.80	7.70	46	40	100
SB04	N-9'-E	2×5	30	164.15	11.56	14.20	74	68	29
SB05	N-7'-W	(1)×3	8	41.18	5.20	7.92	90	68	36
SB06	N-1'-E	1×2	6	9.32	2.08	4.48	62	48	23
SB07	N-0'- WE	1×2	6	9.86	2.20	4.48	48	42	46
SB08	N-4'-W	1×2	6	10.92	2.10	5.20	100	80	20
SB09	N-5'-E	2×(3)	10	55.71	4.62	12.06	86	82	57

第7表 梅原胡摩堂遺跡26地区出土遺物計測表

遺物 番号	遺構番号	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口縁部 残存率	底部 残存率	特 記 事 項
1	SI02	土師器	椀	-	-	-	12%	-	ヘラミガキ
2	SI02	須志器	杯蓋	(14.6)	-	-	35%	-	同転ナデ、頂部回転ヘラ削り
3	SI02	須志器	有台杯	(15.3)	4.1	10.0	20%	65%	同転ナデ、底部回転ヘラ削り後粗いナデ・板状圧痕、内面塗痕あり・転用視と思われる
4	SI02	須志器	平版	-	-	-	-	-	同転ナデ、外面平行タタキ、内面当て具痕(同心円)
5	SI03	土師器	壺類?	-	-	5.9	-	100%	同転ナデ、底部回転糸切り、串状工具痕、拓本
6	SI04	土師器	丸底長胴 甕	23.4	33.1	-	30%	100%	タタキ、ハケメ
7	SI04	土師器	甕	(21.1)	-	-	25%	-	ハケメ
8	SI04	土師器	甕A	(16.9)	12.2	-	25%	-	回転ハケメ、ハケメ
9	SI04	土師器	小甕	13.9	-	-	40%	-	ハケメ
10	SI04	土師器	杯	(13.2)	3.6	8.7	30%	80%	摩滅により調整不明
11	SI08	土師器	甕B	(21.6)	30.8	-	20%	100%	タタキ、ハケメ
12	SI08	土師器	甕B	(21.5)	(29.8)	-	20%	10%	タタキ、ハケメ
13	SI08	土師器	丸底長胴 甕	21.6	34.8	-	50%	100%	回転ハケメ、ハケメ、全体に摩滅
14	SI08	須志器	杯	12.4	3.2	10.5	55%	55%	同転ナデ、底部回転ヘラ削り
15	SI08	須志器	有台杯	-	-	(9.6)	-	50%	同転ナデ、底部回転ヘラ削り後ナデ
16	SI08	須志器	有台杯	13.9	4.1	10.5	100%	100%	同転ナデ、底部回転ヘラ削り・線状圧痕あり
18	SI12	須志質土器	甕	(23.3)	-	-	25%	-	同転ナデ
19	SI12	土師器	小甕	(15.5)	-	-	35%	-	ハケメ
20	SI12	黑色土器	杯	-	-	-	15%	-	ヘラミガキ
21	SI12	黑色土器	杯	(13.0)	8.1	(8.1)	30%	30%	ヘラミガキ・底部線状の圧痕あり
22	SI12	土師器?	杯	(13.4)	3.5	8.9	50%	100%	同転ナデ、底部回転ヘラ削り、黒色の油煙付着
23	SI12	須志器	杯	(13.2)	3.5	(9.9)	15%	15%	同転ナデ、底部回転ヘラ削り
24	SI12	土師器?	杯	(13.1)	3.8	(10.2)	20%	10%	横ナデ
25	SI12	須志器	杯蓋	(15.5)	3.2	-	65%	-	同転ナデ、頂部回転ヘラ削り、外面自然釉
26	SI12	須志器	長頸壺	15.3	22.0	11.8	70%	100%	同転ナデ、頸部に摺溝波状文・摺溝利突痕、高台は重圧により変形
27	SI20	須志器	甕	-	-	-	10%	-	同転ナデ、外面格子タタキ、内面当て具痕(同心円)
28	SK38	縄文?	浅鉢	16.2	-	-	30%	-	変形上字文、瘤状隆起12ヶ所
29	SK09	黑色土器	椀	(15.2)	5.0	6.2	35%	100%	外面横ナデ、内面ヘラミガキ、底部回転糸切り・拓本

遺物番号	遺構番号	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口縁部 残存率	底部 残存率	特記事項
30	SK15	土師器	甕	-	-	5.7	-	100%	外面斜位ヘラナデ、内面回転ナデ、底部静止糸切り・折本
31	SK16	須恵器	甕	(12.2)	-	-	15%	-	回転ナデ、頂部回転ヘラ切り
32	SK16	須恵器	甕	(12.0)	-	-	20%	-	回転ナデ、頂部回転ヘラ切り
33	SK16	白磁	皿	-	-	6.6	-	75%	底部回転糸切り後全面施釉
34	SK19	須恵器	杯	-	-	7.2	-	100%	回転ナデ、底部回転ヘラ切り・墨音「林」
35	SK21	須恵器	甕	(11.8)	-	-	25%	-	回転ナデ、頂部回転ヘラ切り
36	SK21	土師器	甕	-	-	5.9	-	100%	回転ナデ、静止糸切り、底部油煙付着
37	SK21	土師器	杯	(13.0)	3.4	(7.3)	10%	25%	横ナデ、底部回転ヘラ切り
38	SK22	灰輪陶器	碗	-	-	7.5	-	60%	回転ナデ・施釉
39	SK25	土師器	杯	-	-	-	-	50%	ヘラミガキ
40	SK31	珠洲系	壺	(12.0)	-	-	20%	-	回転ナデ、肩部波状文あり
41	SI01	土師器	小皿	8.6	1.6	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
42	SI01	土師器	小皿	8.8	1.6	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
43	SI01	土師器	皿	(14.8)	2.9	(9.4)	25%	10%	ナデ、口縁部横ナデ
44	SI01	土師器	皿	14.0	3.0	(9.0)	75%	95%	ナデ、口縁部横ナデ
45	SI01	土師器	皿	(14.2)	2.9	(9.0)	15%	20%	ナデ、口縁部横ナデ
46	SI01	須恵質土器	甕・口縁部	-	-	-	-	-	回転ナデ、外面平行タタキ、内面指頭痕
49	SI05	土師器	小皿	9.1	2.1	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
50	SI05	土師器	小皿	8.8	1.4	-	80%	70%	ナデ、口縁部横ナデ
51	SI05	須恵質土器	土瓶	8.0	-	-	100%	-	回転ナデ、波状沈線、耳は一對
52	SI05	青磁	碗	-	-	-	5%	-	龍泉窯系I-2 施釉、ヘラによる片切り彫り(草花文)
53	SI05	青磁	碗	-	-	-	10%	-	龍泉窯系I-4 施釉、ヘラによる片切り彫り
54	SI06	土師器	皿	(14.8)	-	-	10%	-	ナデ、口縁部横ナデ
55	SI06	土師器	皿	-	-	-	10%	10%	ナデ、口縁部横ナデ
57	SI07	土師器	皿	(13.0)	2.7	(10.1)	50%	10%	ナデ、口縁部横ナデ、折頭痕あり
59	SI09	土師器	小皿	(8.3)	1.5	7.3	30%	80%	ナデ、口縁部横ナデ
60	SI09	土師器	小皿	(9.0)	1.2	(7.4)	40%	40%	ナデ、口縁部横ナデ
61	SI09	土師器	小皿	8.8	1.4	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
62	SI09	土師器	小皿	(8.7)	1.7	-	25%	40%	ナデ、口縁部横ナデ
63	SI09	土師器	小皿	(9.0)	1.6	-	90%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、油煙付着
64	SI09	土師器	小皿	8.6	1.9	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
65	SI09	土師器	小皿	9.2	1.8	-	95%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
66	SI09	土師器	小皿	8.6	1.9	-	85%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
67	SI09	土師器	小皿	8.2	1.9	-	55%	55%	ナデ、口縁部横ナデ、線状斥痕あり
68	SI09	土師器	小皿	8.6	1.9	-	95%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
69	SI09	土師器	小皿	8.6	1.8	-	65%	60%	ナデ、口縁部横ナデ
70	SI09	土師器	小皿	(9.2)	1.6	-	45%	45%	ナデ、口縁部横ナデ
71	SI09	土師器	皿	(12.2)	2.6	(7.4)	60%	20%	ナデ、口縁部横ナデ・沈線
72	SI09	土師器	皿	(14.1)	2.6	-	40%	40%	ナデ、口縁部横ナデ
73	SI09	土師器	皿	(13.6)	3.2	(7.6)	15%	25%	ナデ、口縁部横ナデ、線状斥痕あり
74	SI09	土師器	皿	12.3	2.6	(7.4)	85%	80%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
75	SI09	土師器	皿	(13.0)	2.8	-	10%	20%	ナデ、口縁部横ナデ
76	SI09	土師器	皿	(12.8)	2.8	-	25%	70%	ナデ、口縁部横ナデ
77	SI09	土師器	皿	(14.2)	2.7	(8.0)	25%	20%	ナデ、口縁部横ナデ
78	SI09	土師器	皿	(13.4)	3.2	(9.0)	50%	75%	ナデ、口縁部横ナデ
79	SI09	土師器	皿	(12.9)	2.6	(8.2)	35%	25%	ナデ、口縁部横ナデ

遺物番号	遺構番号	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口縁部残存率	底部残存率	特記事項
80	S109	土師器	皿	-	-	-	8%	15%	ナデ、口縁部横ナデ
81	S109	土師器	脚	-	-	-	-	-	ナデ、明褐色の煤付着
82	S109	須恵質土器	甕	-	-	-	-	-	横ナデ、外面平行タタキ・拓本、内面当て痕、内外面に自然釉
83	S109	須恵質土器	すり鉢	-	-	(13.0)	-	35%	横ナデ、底部静止糸切り・板状圧痕
84	S109	青磁	碗	-	-	-	-	-	龍泉窯系II-b 施釉、縮蓮弁、削り出し高台
85	S109	青磁	碗	-	-	-	-	5%	龍泉窯系I-4 施釉、削り出し高台、内面にヘラ描き文
86	S109	青磁	碗	(14.8)	-	-	10%	-	龍泉窯系I-4 施釉、ヘラによる片切り彫り
87	S109	青白磁	小蓋	6.1	1.4	-	100%	100%	施釉、菊花文を型押し
88	S109	土師器	蓋	(8.0)	1.2	-	25%	-	ナデ、口縁部横ナデ
94	S110	土師器	小皿	8.7	1.9	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
95	S110	土師器	小皿	8.1	1.6	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
96	S110	土師器	小皿	9.0	1.7	-	100%	90%	ナデ、口縁部横ナデ、油煤付着
97	S110	土師器	小皿	9.0	1.7	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
98	S110	土師器	小皿	9.0	1.5	-	85%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
99	S110	土師器	小皿	8.6	1.5	-	60%	65%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
100	S110	土師器	小皿	8.6	2.0	-	65%	80%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
101	S110	土師器	小皿	8.4	1.6	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
102	S110	土師器	小皿	8.2	1.7	-	50%	50%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
103	S110	土師器	小皿	8.6	1.5	7.9	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、内面工具当て痕
104	S110	土師器	小皿	8.6	1.5	7.9	65%	65%	ナデ、口縁部横ナデ、内面二重沈線
105	S110	土師器	皿	(13.0)	3.2	(7.4)	50%	50%	ナデ、口縁部横ナデ
106	S110	土師器	皿	(12.8)	2.7	-	35%	35%	摩滅により調整不明
107	S110	須恵質土器	すり鉢	-	-	(11.4)	20%	-	回転ナデ、底部静止糸切り?・板状圧痕
108	S110	青磁	碗	-	-	-	-	10%	龍泉窯系I類 施釉
109	S110	青磁	碗	-	-	(6.6)	-	15%	龍泉窯系 施釉、線刻による施文
110	S110	白磁	皿	(12.0)	2.6	(8.0)	20%	15%	IX-1類 施釉
111	S110	青磁	碗	-	-	-	10%	-	龍泉窯系II-b 施釉、蓮弁
112	S110	青磁	碗	-	-	-	10%	-	龍泉窯系II-a 施釉、縮蓮弁
113	S111	土師器	小皿	8.0	1.4	4.9	95%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
114	S111	土師器	小皿	8.6	1.6	(5.0)	60%	60%	ナデ、口縁部横ナデ
115	S111	土師器	小皿	8.8	2.0	4.9	95%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
116	S111	土師器	小皿	8.9	1.8	-	85%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
117	S111	土師器	皿	(12.0)	3.0	7.8	50%	50%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり、内面工具によるナデ
118	S111	土師器	皿	(12.8)	2.9	6.5	25%	25%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
119	S111	土師器	皿	12.3	2.7	7.7	75%	85%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
120	S111	須恵質土器	甕	(24.6)	-	-	50%	-	回転ナデ、外面平行タタキ・拓本、自然釉、内面粘土結痕
121	S111	須恵質土器	すり鉢	-	-	-	-	15%	回転ナデ
122	S111	青磁	碗	-	-	5.9	-	65%	龍泉窯系II-a 施釉、削り出し蓮弁、削り出し高台
123	S111	白磁	合子の身?	-	-	(6.4)	-	25%	施釉、内面型押し文
124	S111	青磁	皿	-	-	(5.0)	-	35%	阿安窯系I-1b 施釉、回転ヘラ削り、内面にヘラ描き文+御日文
125	S111	須恵質土器	甕	-	-	(11.0)	-	25%	回転ナデ、底部ナデ調整
126	S113	土師器	皿	(12.8)	2.3	(9.0)	15%	15%	摩滅により調整不明、粘土結痕
127	S113	土師器	皿	(13.7)	(2.9)	-	35%	40%	ナデ、口縁部横ナデ

遺物番号	遺構番号	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口縁部残存率	底部残存率	特記事項
128	SI13	須恵質土器	大甕	(79.8)	-	-	5%	-	横ナデ + 工具ナデ、外面平行タタキ・拓本、内面粘土研痕
129	SI14	土師器	小皿	8.6	1.1	(7.4)	85%	90%	ナデ、口縁部横ナデ
130	SI14	土師器	小皿	9.0	1.5	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、棒状片痕
131	SI14	土師器	皿	12.9	2.7	6.6	85%	95%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
132	SI14	土師器	皿	13.0	2.9	7.5	75%	90%	ナデ、口縁部横ナデ
133	SI14	土師器	皿	(12.6)	2.7	-	30%	30%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
134	SI14	須恵質土器	すり鉢	(34.0)	13.0	(11.0)	20%	50%	回転ナデ、回転ヘラ削り
140	SI15	土師器	皿	(12.2)	-	-	15%	-	ナデ、口縁部横ナデ
141	SI15	灰釉陶器	壺類	-	-	-	-	-	回転ナデ、施釉
142	SI16	土師器	皿	-	-	-	15%	10%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
143	SI16	須恵質土器	すり鉢	-	-	(12.8)	25%	-	回転ナデ、底部工具ナデ
144	SK26	須恵器	有台杯	-	-	(7.4)	-	25%	回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ、外面自然釉付着著しい
145	SI19	土師器	小皿	(8.5)	-	-	15%	-	横ナデ
146	SD02	須恵質土器	鉢	(19.7)	-	-	15%	-	回転ナデ
147	SI04	須恵質土器	すり鉢	-	-	-	10%	-	回転ナデ
148	SD03	珠洲系	甕	(43.2)	-	-	20%	-	横ナデ、平行タタキ・拓本
149	SD03	珠洲系	甕	-	-	(15.0)	-	30%	平行タタキ・拓本、内面ナデ・当て具痕
150	SD03	須恵質土器	すり鉢	(29.0)	-	-	20%	-	回転ナデ
151	SD03	須恵質土器	甕	(9.7)	-	-	5%	-	回転ナデ、肩部に波状文
152	SX03	土師器	小皿	8.1	1.6	-	25%	25%	ナデ、口縁部横ナデ、底部穿孔(径5mm)あり
153	SX03	土師器	小皿	(8.2)	1.3	-	45%	55%	ナデ、口縁部横ナデ
154	SX03	土師器	小皿	(8.9)	1.9	-	65%	95%	ナデ、口縁部横ナデ
155	SX03	土師器	小皿	(8.5)	1.8	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
156	SX03	土師器	小皿	(8.2)	1.7	-	45%	70%	ナデ、口縁部横ナデ
157	SX03	土師器	皿	(13.0)	2.7	(9.6)	60%	65%	ナデ、口縁部横ナデ
158	SX03	土師器	皿	13.4	2.9	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕・板状片痕あり
159	SX03	青磁	小皿	(10.6)	1.9	(6.0)	25%	-	同安楽系I-1a 施釉、回転ヘラ削り
160	SX03	珠洲系	甕・口縁部	-	-	-	-	-	横ナデ、平行タタキ・拓本、内面ナデ・当て具痕
161	SX03	須恵質土器	すり鉢	(29.0)	-	-	20%	-	回転ナデ、粘土研痕
162	SX03	珠洲系	片口すり鉢	-	-	-	10%	-	回転ナデ
163	SX03	須恵質土器	碗	(19.7)	8.0	(10.2)	20%	20%	回転ナデ、底部静止系切り・拓本 内面施文(巴文)あり
164	SX09 (SK23)	青磁	碗	-	-	5.8	-	90%	鹿泉窯系(類) 施釉、削り出し高台、底部露胎
165	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.6	1.5	(4.3)	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
166	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.8	1.6	-	95%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
167	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.9	1.9	-	40%	80%	ナデ、口縁部横ナデ
168	SX09 (SK23)	土師器	小皿	9.4	1.9	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ・浅い沈線状の段、線状片痕
169	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.4	1.7	-	95%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
170	SX09 (SK23)	土師器	小皿	9.0	1.9	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
171	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.4	1.8	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ

遺物番号	遺構番号	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口縁部残存率	底 部残存率	特 記 事 項
172	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.8	2.0	-	85%	95%	ナデ、口縁部横ナデ
173	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.6	1.8	-	60%	80%	ナデ、口縁部横ナデ
174	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.7	1.8	-	85%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、黒褐色の煤状炭化物付着
175	SX09 (SK23)	土師器	小皿	9.0	2.2	-	75%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
176	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.7	1.8	-	60%	75%	ナデ、口縁部横ナデ
177	SX09 (SK23)	土師器	小皿	8.6	1.9	-	40%	60%	ナデ、口縁部横ナデ
178	SX09 (SK23)	土師器	皿	(13.4)	3.9	-	50%	50%	ナデ、口縁部横ナデ
179	SX09 (SK23)	土師器	皿	13.4	3.2	(8.0)	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
180	SX09 (SK23)	土師器	杯	14.0	3.3	8.4	65%	60%	ナデ、口縁部横ナデ
181	SX09 (SK23)	土師器	皿	(14.0)	3.0	8.6	40%	70%	ナデ、口縁部横ナデ、浅い沈線状の段、線状圧痕
182	SX09 (SK23)	土師器	皿	(14.4)	3.1	(8.0)	30%	40%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
183	SX09 (SK23)	珠洲系	深鉢	(28.3)	13.6	(9.2)	-	10%	回転ナデ
184	SX09 (SK23)	須恵器	壺類	-	-	-	-	-	襷描波状文(3段)、波状文門をヘラ状横ナデ、肩部逸弁座
185	P347	須恵質土器	すり鉢	-	-	(14.4)	-	15%	回転ナデ、底部糸切り・板状圧痕・拓本
186	P106	須恵器	杯	-	-	(7.3)	-	25%	横ナデ、底部回転ヘラ切り
187	P375	土師器	小皿	8.2	1.9	-	65%	75%	ナデ、口縁部横ナデ、指頭痕あり
188	P349	土師器	小皿	8.6	1.5	-	100%	100%	ナデ、口縁部横ナデ
189	X20 - Y22	珠洲系?	片口鉢	18.2	9.1	9.4	85%	100%	輪積み後回転ナデ、底部板状圧痕
190	I層	須恵器	右台杯	-	-	(8.8)	-	100%	回転ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ナデ・空印「×」
191	I層	須恵器	右台杯	(11.0)	4.0	(7.2)	15%	45%	回転ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ナデ・空印「×」
192	X18 - Y18	土師器	土鍾?	-	-	-	-	-	ナデ、外面板状圧痕(転がして成形?)
196	X20 - Y05	白磁	碗	(15.0)	5.5	7.0	20%	50%	IV-1a 旋軸、回転ヘラ削り、削り出し高台

第8表 梅原胡摩堂遺跡 26 地区鉄製品計測表

遺物番号	銅体番号	遺構番号	種 類	器 種	正面幅 (cm)	側面幅 (cm)	縦 長 (cm)	重 量 (g)
17	T08	SI08	鉄製品	釘?	1.5	2.0	3.3	4.2
47	T10	SI01	鉄製品	刀子	2.8	1.6	22.6	59.4
48	T11	SI01	鉄製品	刀子	1.8	0.9	13.4	10.8
56	T09	SI06	鉄製品	釘	0.8	0.9	3.2	1.8
58	T14	SI07	鉄製品	鉄砕	3.3	2.0	3.0	21.2
89	T12	SI09	鉄製品	鍋	14.0	-	5.5	98.4
90	T13	SI09	鉄製品	鍋	11.6	-	3.1	62.8
91	T15	SI09	鉄製品	鉄砕	3.9	2.9	3.0	43.8
92	T05	SI09	鉄製品	釘	1.6	1.7	5.3	9.2
93	T16	SI09	鉄製品	鉄砕	9.3	5.3	7.8	308.8
135	T06	SI14	鉄製品	釘	1.0	1.0	2.4	3.0
136	T04A	SI14	鉄製品	釘	0.8	0.5	2.1	1.4

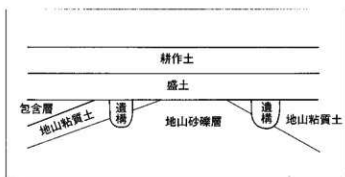
遺物番号	個体番号	遺構番号	種類	器種	正面幅 (cm)	側面幅 (cm)	縦長 (cm)	重量 (g)
137	T04B	SI14	鉄製品	釘	0.6	0.7	3.2	1.4
138	T07	SI14	鉄製品	鉄砕	4.4	2.1	3.2	34.4
139	T18	SI14	鉄製品	網?	3.8	-	5.7	27.6
193	T01	X18 - Y18	鉄製品	釘	1.4	1.1	4.5	7.2
194	T02	X18 - Y18	鉄製品	釘	0.9	0.6	4.0	2.6
195	T03	X18 - Y18	鉄製品	釘	0.6	0.4	5.5	2.4

7. 神成遺跡 11 地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第 11 図)

11 地区は神成遺跡のほぼ中央にあたり、海拔は 73.2m ~ 73.6m を測る。地形は南西から北東に向けて緩やかに傾斜している。

土層は地山 (黄褐色粘質土)、遺物包含層 (黒褐色粘質土)、前回ほ場整備時の盛土 (茶褐色粘質土)、現在の耕作土の順に堆積している。地表から地山面までの深さは約 90 ~ 110cm である。調査区西側には遺物包含層が遺存しているが、東側は近代の電柱等、多くの攪乱を受けている。



第 11 図 神成遺跡 11 地区の基本層序

(2) 遺構の概要

掘立柱建物 1 棟、土坑、溝、柱穴を検出した。

SB01 (第 55 図、図版 24)

調査区のほぼ中央、X1 ~ 5、Y10 ~ 15 に位置する。暗渠により柱穴の一部が切られているが、南北 4 間、東西 4 間の総柱建物である。床面積は 95 m² であり、主軸は真北から 3° 西にふれる。柱間は南北方向が約 2.5m、東西方向が約 2.2m である。柱穴は直径約 40cm 前後の円形を呈し、深さは 30cm、埋土は黒色土が上体である。いずれの柱穴も柱痕は確認できなかった。P18 から土師器・碗が出土している。東西方向の P22 ~ 25 列の柱穴は他よりも浅く、底であった可能性がある。

P55 (第 55 図、図版 24)

SB01 内にある P55 からは、漆器碗 2 枚と、建築部材が出土した。建築部材は一部被熱しており、柱穴に対し斜めにささったような状態で出土した。その下に鶴の絵が描かれた漆器碗が、建築部材のほぞを受けるような状態で出土し、朱漆の碗はすぐ隣から正位置でほぼ完形で出土した。柱穴は袋状に掘り込まれており、碗 2 点は柱穴の最奥に位置していた。特異な出土状況から、建物に関連する祭祀行為が予想される。

P57 (図版 24)

SB01 内の P55 の北に位置する。直径約 30cm の円形を呈し、深さは約 30cm であり、埋土に柱痕が残っていた。柱痕は柱となった木材の樹皮のみが残り、中は腐敗したようで、しまりのないほそほそとした黒褐色土で覆われていた。

SK03 (第 57 図、図版 25)

調査区中央より東寄り、X5Y21 付近に位置する円形の土坑である。直径は約 1.4m、深さは 10cm と浅い。出土遺物はない。

SK04、05 (第57図、図版25)

SK04は東西50～60cm、南北3m、深さ10cmの隅丸方形の土坑である。SK05は北側が調査区外に延びるため全容は不明であるが、東西60cm、南北の検出長3m、深さ20cmの隅丸長方形の土坑であり、SK04を切っている。埋土は黒褐色土を中心とする。出土遺物はない。

SX01、02 (第56図、図版25)

調査区の南側、X3Y21付近に位置する。SX01、02ともに東西4m南北4.6mの大屋上坑である。平面形は方形を呈し、深さは30cm。埋土は黒色土と黒褐色土に地山が混じる。SX01の東端は暗渠に切られる。また、南側でSX02を切る。SX02はSX01とほぼ同一の形態である。埋土は黒色土に地山が混じる。出土遺物はない。遺構の性格は不明である。

SD01 (第56図、図版26)

調査区の中央からやや西寄り、X1～9、Y8～9付近に位置する。幅約2m、検出面からの深さは約70cmであり、断面形は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色土と地山砂質土が互層をなしており、下層には黒褐色砂質土に礫が混じる。8～9世紀代の須恵器・杯が出土している。隣接するSB01よりも古い段階の遺構と考えられる。

SD02 (第56図、図版26)

X3～9、Y6～7付近に位置する。SD01のすぐ西を並行して流れる。幅約50cm、深さ約30cmで、断面形は逆三角形を呈する。埋土は黒褐色砂質土を中心に4層に分けられる。

SD04、06 (第57図、図版26)

調査区の東側、X3～7、Y22～26に位置する。幅約50cm前後、深さ約20cmを測る周溝状の遺構である。一辺約7mの隅丸方形に廻る。北辺と南辺の溝が東側に延びている。埋土は黒褐色粘質土が中心である。溝の中心付近は用水跡に攪乱を受けており、いくつかの柱穴を検出したものの、周溝内になんらかの遺構があったかは不明である。南辺から西辺にかけてSD06が並行している。SD06はSD04に切られており、検出した全長は9mである。

(3) 遺物の概要 (第88図、図版58)

出土遺物には、須恵器、土師器、珠洲がある。

SB01-P18

1は土師器・皿である。底部に糸切り痕が見られる。

P57

2、3は木製品・漆器碗である。2は内外面に朱色漆を施し、高台は約7mmである。3は黒色漆の内面に朱色漆で鶴の文様を描いている。4は木製品で、ほぞのついた建築部材である。加工した跡があり、被熱して一部炭化している。

SD01

5、6、8は須恵器である。5は無台杯の、6は有台杯の底部である。7は甕の口縁部である。

SD04

7は須恵器・甕の体部である。

SD06

9は珠洲・甕の体部である。内面に当て具痕、外面にタタキ目が見られる。

包含層

10、11は須恵器・甕の体部である。

12～14は土師器である。12は椀の底部、13は柱状高台の皿、14は皿である。

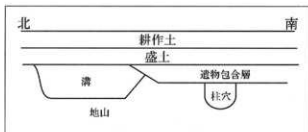
15は珠洲・鹿の体部である。16は珠洲・すり鉢の口縁部である。17は珠洲・すり鉢の底部である。

(片田亜紀)

8. 神成遺跡 12 地区の概要

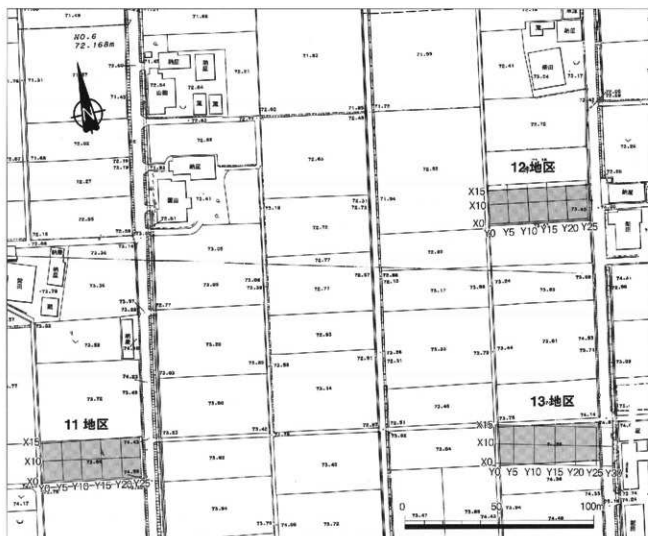
(1) 地形と基本層序 (第12図)

神成遺跡は山田川左岸の上位段丘上に広がっている。今回調査を行った12地区は遺跡の北東部に位置し、海拔は72.5～73.0mを測る。調査区全体の削平が著しく、遺構面まで削平が及んでいる。旧地形が北側から南側に向けて傾斜するため、包含層は南側で若干残存しているが、北側は削平を受け残存していない。また、東西方向では本調査区中央から中心に西側と東側が緩やかに傾斜する。



第12図 神成遺跡12地区の基本層序

包含層中から出土した遺物は、弥生土器と須恵器が主体である。と帰属時期が比較的集中している。土



第13図 神成遺跡11～13地区の調査区劃 (1:2,000)

層は地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、盛土（暗褐色粘質土）、現代の耕作上の順に堆積している。地表から地山までの深さは20～30cmである。

(2) 遺構の概要

主な遺構として、竪穴式住居2棟、溝5条、土坑4基、周溝状遺構2基、多数のピットを検出した。

SI01（第59図、図版28）

調査区東側、X1～5、Y21～24に位置する。平面形は隅丸方形であり、長軸は北東から南西方向で5.0m、短軸は北西から南東方向で4.0mを測る。深さは約25cmを測り、床面は平坦で壁面は若干傾斜をもち立ち上がる。埋土は、黒色粘質土を中心に3層に分かれる。周溝は確認できなかった。遺構のほぼ中央にP1、P2が並列する。ピットは直径20～25cmで、深さは床面から約35cmを測る。埋土は黒褐色粘質土で、炭化物を含む。土層断面観察により床面から掘り込まれているため、住居に伴う柱穴の可能性がある。また、住居内で検出したSK01・02・03は浅く、検出時の平面形状も不明確なため、黒色土がしみ状に堆積したものとする。住居内埋土および床面からは、多量の弥生土器が出土した。そのほとんどが細片であるが、概ね弥生時代終末期に比定されるものとする。

SX01（第60図、図版30）

調査区北西側、X4～9、Y0～4に位置する。溝状を呈し、残存幅5.6mを測る。遺構のほとんどが調査区外に延びるため詳細は不明である。埋土は黒色粘質土を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。

SX02（第60図、図版30）

調査区東側、X2～9、Y13～23に位置する。最大幅10.0m、最小幅8.4mを測る溝状を呈し、半円形に廻る。上端幅8～10.0mを測るのに対し、下端幅は50cm～1.0mと極端に狭い。深さは約1.0mを測り、底面は溝状に若干深くなる。埋土は黒色粘質土を中心に4層堆積している。1層および4層からまとまって弥生時代終末期に帰属する遺物が出土した。それらの遺物は完形となるものも多く出土したことから、一括廃棄あるいは祭祀などを行った可能性がある。北側は調査区外に延びるため平面形など詳細は不明である。なお、時間的制約や後続するほ場整備事業にかかる掘削深度の制限などから、本遺構はトレンチ調査とし、上層断面確認および部分的な遺物出土状況確認にとどめた。遺構の性格は不明である。また、SX01も断面形状や、埋土が類似することなどから同じような性格の遺構であると考えられる。

SD02（第61図、図版29）

調査区西側、X2～9、Y4～11に位置する。幅1.0～2.0m、深さ25cmを測る周溝状を呈し、西側でSD05に切れ、北側は調査区外に延びるため詳細は不明であるが、円形に廻ると考えられる。深さ25cmを測り、断面形状は外側の立ち上がりは緩やかであり、内側は若干傾斜をもち立ち上がる。埋土は黒色粘質土である。溝内側の平坦部は直径約10.0mを測る。平坦部には住居に伴うピット（柱穴）は確認されなかったが平地式住居の可能性はある。出土遺物は周溝内から弥生土器の細片が少量出土した。概ね弥生時代終末期に比定されるものとする。

SD05（第61図、図版29）

調査区西側、X0～9、Y2～7に位置する。最大幅3.6m、最小幅0.7mを測る不整形な溝で、若干蛇行する。断面形状は緩やかに立ち上がり比較的浅い。埋土は黒褐色粘質土と暗オリーブ褐色砂質土で、粗砂を含む。ほぼ中央には楕円形のピットが並んで存在する。これは波状の凹凸部であり、掘り割り状の道路跡と考えられる。溝内に存在する凹凸部はX7以北からは検出されなかった。削平を受けたため遺存していないか、当初から存在しなかったかは不明である。また、路面の基礎部分である路床は削平を受けているためか確

認できなかった。溝およびピット内からは弥生土器、土師器と考えられる上師質の細片が出上したが、流れ込みと考えられる。また、その他に須恵器・甕胴部片が出土したことから少なくとも古代以降の掘り割り状の道路跡である可能性がある。いずれにせよ、出土遺物は細片であり帰属時期を見出すことはできないため、明確な敷設・使用時期は不明である。

(3) 遺物の概要

遺物は主に SI01・SX01・SX02 から出上した。遺物の主体は弥生土器であり、その時間幅は弥生時代終末期に収まる。遺物の出土量は SX02 が最も多く、溝資料でありながらも一括性が高いことが出土状況から推察でき、当該期の指標となりうる土器といえる。

SI01 (第 89 図、図版 59)

1～3 は弥生土器である。1 は壺の口縁部である。口縁部は厚みを持ちながら外反し、端部は面をもつ。内外面ともミガキが施され、内面の一部および外面には、摩滅により希薄ではあるが赤彩が若干遺存する。口縁部接合部にて破損する。

2 は甕の口縁部から胴部である。有段有文口縁で、口縁帯には 6 条の擬凹線文が施されている。口縁部はやや直立し、端部は外反し先細りする。胴部外面はハケ、内面はケズリが施されている。3 は甕である。有段無文口縁である。口縁端部は若干外反し先細りする。胴部は最大径を中位にもち、底部は径が小さい丸みを帯びた平底を呈す。胴部外面は縦位から斜位のハケ、内面はケズリが施されている。胴部下半部に煤が付着する。

SX01 (第 89 図、図版 59)

4～7 は弥生土器である。4・5 は壺の口縁部である。有段無文口縁である。口縁帯にはナデが施され、端部は若干外反し丸くおさまる。胴部内面はケズリが施されている。5 の口縁部内面には指頸圧痕が残る。6 は高杯の脚部片である。外面はミガキで、赤彩が施されている。受部には不明瞭ではあるがハケが見られる。

7 は壺の口縁部から胴部上位である。口縁部は長く、やや丸みを帯びて直線的に立ち上がり、端部は先細りする。胴部は半球状を呈し、胴部最大径部には粘土紐を貼り付けた幅 2 cm の凸帯が廻る。凸帯は中央の稜によって上下に区分される。最大胴径 (凸帯部) 13.5 cm を測り、凸帯上下端部および中央の稜にはヘラ状工具による刻みが等間隔に施されている。胴部外面はハケのち横位のミガキが施され、口縁部外面および凸帯部分はミガキ、内面はナデが施されている。外面全体には赤彩が施されている。

SX02 (第 89～92 図、図版 59～62)

8～54 は弥生土器である。8～17 は有段有文口縁をもつ甕である。口縁帯には 3～7 条の擬凹線文が施されるが、摩滅が著しくすべての条数が確認できないものも含まれる。口縁部は直立ぎみに立ち上がるものと、外側に開くものに大きく分けられる。また、端部は丸くおさまるものと、先細りとなるものがある。口縁部の形態と端部の形態に相関関係は見出せない。口縁部内面は明確に段を有する 16 のようなものはほとんど確認できず、段をなさずならかな「く」の字状を呈するものが大半を占める。胴部の調整は確認できるもので外面はハケ、内面はケズリが施される。

18～24 は有段無文口縁をもつ甕である。口縁部の形態は多種多様で、端部が横方向に引き出される 18、有段部を明確に作り出さない 19、口縁帯が幅広く、ハケが認められる 20、有段部の稜がやや強い 21、有段部の稜がやや弱い 22、有段部のつくりがあまく、大きく外反する 23、口縁部に厚みをもち、丸みを帯びた 24 などが認められる。体部の調整は確認できる個体から推察すると、外面はハケ、内面はケズリが基本であると考えられるが、24 のみ外面もケズリが施される。

25は甕の口縁部から胴部上位である。口縁部は緩やかに外反し、端部は面取りする。口縁部はナデ、胴部外面は横位のハケ、内面は縦位のハケのちナデが施されている。26は甕の口縁部である。口縁部は「コ」の字状を呈し外反する。口縁端部は尖る。頸部外面はハケのちナデが施される。胴部外面はハケ、内面はナデが施される。27は甕の口縁部である。口縁部は「コ」の字状を呈し、口縁端部は面取りする。摩滅のため詳細は不明であるが頸部内面にはケズリ痕が残る。28は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、緩やかに立ち上がる。胴部は丸みを帯び、底部は径が小さい若干丸みを帯びた平底を呈す。口縁部内面はナデ、外面はハケのちナデが施される。胴部外面はハケ、内面はケズリが施される。外面胴部全体と口縁部の一部に煤が付着する。29は甕の口縁部から胴部である。口縁部は「コ」の字状を呈し、端部は端反し面取りする。胴部は若干丸みを帯びる。口縁部内外面ともにナデ、胴部外面はハケ、内面は横位のケズリが施されている。胴部外面に煤が付着する。

30は甕の胴部で口縁部と底部を欠損する。胴部内面はケズリ、外面はハケが施されている。外面の一部に黒斑が残る。31は甕の底部片である。丸底を呈し、底部外面はハケ、内面下方はナデ、上方はケズリが施される。32は甕の底部片である。底部は平坦で上げ底を呈す。底部外面はハケ、内面底面付近はケズリ、それ以外はハケが施される。33は甕の底部で平底を呈し、比較的小さい。外面はハケのちナデ、内面はケズリが施されている。外面には煤が付着している。34は甕の胴部から底部である。胴部は若干丸みを帯び、外面はハケ、内面はケズリが施されている。底部は平底を呈する。

35は小壺である。口縁部は屈曲して開き、端部は面取りする。胴部は球状を呈し、口縁部から胴部外面全体および口縁部内面はミガキ、胴部内面はナデが施されている。外面全体に赤彩が施されている。

36は壺の口縁部である。有段口縁であり、内外面ともに丁寧な横位のミガキが施されている。37は壺の口縁部である。口縁部は若干開いて立ち上がり、口縁部外面は有段状を呈するが、内面は段をなさずならぬ「く」の字状を呈する。口縁部内外面および体部外面はハケのちミガキであり、頸部内面はハケ、胴部内面はナデである。口縁部内面および外面全体のミガキ範囲のみ赤彩が施されている。38は壺の口縁部である。有段無文口縁であり、有段部上下端部にヘラ状工具による斜方向の刻みが施されている。口縁部および頸部内面はナデ、頸部外面はハケが施されている。

39は台付壺の胴部である。胴部は丸みを帯び、球状を呈す。外面はハケ、内面は頸部がハケ、胴部にナデが施されている。40は壺の胴部である。胴部は球状を呈し、外面はハケ、内面はハケのちナデが施されている。頸部と胴部のつなぎ目は明瞭で、指頭圧痕が残る。41は壺である。口縁部は直線的に延び、端部は若干外反して面取りする。胴部は若干丸みを帯び、底部は径が小さく丸みを帯びた平底を呈す。口縁部はナデ、胴部外面はハケ、底部外面付近および内面はケズリが施されている。42は壺である。有段無文口縁であり、口縁部は若干開いて立ち上がる。口縁部にはナデが施され、端部は若干外反し丸くおさまる。口縁部には赤彩が施される。胴部は丸く、黒斑が見られる。外面にはハケ、内面はハケのちナデが施される。接合部は明瞭であり、指頭圧痕が残る。底部は平底を呈し、中央が若干くぼむ。43は壺の口縁部である。外面および内面には赤彩が施されているが、肩部内面までは及んでいない。口縁部には段を有し、二重口縁状を呈する。内外面ともに横位の丁寧なミガキが施される。口縁端部はやや丸みを帯び、煤が付着する。大型の器台脚部片とも考えられるが、その場合脚部内面を赤彩していることになり、また受け部に相当する部分に赤彩が及んでいないこととなる。

44は甕の底部である。底部は平底を呈し、外面はハケ、内面はナデが施されている。

45は鉢である。口縁部は開きながら立ち上がり、口縁端部は若干丸くおさまる。底部には径約1cmの孔を焼成前に穿孔している。摩滅のため調整は不明瞭であるが、胴部内面はナデが施されている。外面上

方はハケが施され、ハケの中央を横ナデにより消している。下方は縦位のナデが施されている。46は鉢である。底部は丸みを帯びる。外面は口縁部と底部はナデ、胴部上半はハケのちナデ、胴部中位から底部まではハケ、内面はナデが施されている。

47は高杯の脚部である。脚部内面にはしほり痕、下部にはハケが施されている。外面は摩滅のため調整は不明である。杯部と脚部のつなぎ目にて剥離している。48は高杯の杯部である。口縁部は開いて立ち上がり、端部は若干面取りする。全体的に摩滅が著しいが、内外面ともにミガキが施される。49は高杯の脚部片である。裾部は反らずに直線的に延び、端部は面取りする。外面はミガキ、内面は横位のハケが施されている。外面には若干赤彩の痕跡が残る。脚部上位に直径9mmの円形の孔が4ヶ所穿孔されている。

50は器台である。幅1.1cmの縁帯をもち、端部は上方に延びる。縁帯下端部にヘラ状工具による細かい刻みが施されている。受部内面および外面はミガキ、脚部内面はハケが施され、脚部内面以外は赤彩が施されている。脚部に直径6～7mmの孔が3ヶ所穿孔されている。51は器台である。口縁端部および裾端部は丸くおさまる。大地の決定要素に欠けるが、接地面が大きく、安定性の良い方を脚部として扱った。内面に横・斜位、外面に縦位の強いハケが下方から上方へ施される。52は器台である。口縁端部は若干先細りし、裾端部は丸くおさまる。51と同様に接地面が大きく、安定性の良い方を脚部として扱った。口縁部外面はナデ、その他外面には縦位、裾部は横位のハケ、内面は横・斜位のハケが施されている。やはり外面の縦位ハケは下方から上方へ施される。53は器台の脚部である。裾端部は面取りする。内外面ともにミガキが施されている。部分的に鈍い色調の赤彩が残る。54は装飾器台の垂下帯片で、口縁部および脚部を欠損する。垂下帯端部は丸くおさまる。上位に貼り付けによる体部立ち上がりがあるが形状は不明である。体底部内側にハケが施されている。

包舎層（第92図、図版62）

55～59は弥生土器である。55は寛の口縁部である。有段無文口縁である。口縁帯にはナデが施され、端部は若干外反し先細りする。帰属時期は弥生時代終末期に比定される。56は寛の口縁部である。口縁部は「く」の字状を呈し外反する。口縁端部は若干先細りする。内外面ともにナデが施される。57は寛の口縁部で「く」の字状を呈し外反する。口縁端部は若干丸くおさまる。内外面ともにナデが施される。58は寛の口縁部で「く」の字状を呈し外反する。口縁端部は面取りする。内外面ともにナデが施される。59は鉢である。口縁部は内弯しながら立ち上がる。底部は平底である。外面はハケ、内面はナデである。60は石核である。石質は硬くやや橙色味のある黄褐色をして脆に富む。61は祥符通宝である。鑄造年代は寛弘6年（1009）である。表面は無文である。（岩崎倫子）

9. 神成遺跡13地区の概要

(1) 地形と基本層序（第14図）

神成遺跡13地区の現況における標高は約74.5mである。調査区は耕作土・客土が遺構検出面まで及んでいた。また地山面でも調査区のSD01を挟んで南側に暗渠排水等が見られた。13地区における基本層序は上位から①I a 耕作土 2.5Y3/2 黒褐色上、②I b 旧耕作土 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色上、③I c 客土 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質上、④II 地山 2.5Y5/3 黄褐色粘土（第27図）である。表土は現耕作土、旧耕作土からなり、客土としたものは水による影響を強く受けた堆積物として認識した。現地表面から地山面までの深さは50cmから80cmで、表土除去後の地形は西側に向かって深くなっている。

(2) 遺構の概要 (図版 19)

古墳時代の円形周溝 2 基と中世建物跡 7 棟、溝 5 条、その他時期不明の小穴、2 条の自然流路を検出した。

SZ01 (第 31 図)

調査区中央部から西側 X5～10、Y5～10 にかけて位置する。表土除去後の地山で黒色の落ち込み周溝プランを確認した。周溝の全長は南北で 10.50m、東西で 10.20m を測る。溝幅は 0.73m～0.83m、確認面からの深さは 0.68m～0.72m を測る。溝が調査区南端に達するところで、幅 1.50m の陸橋となっていた。この先南側は調査区外であるため、全貌は確認できない。溝の埋土は黒色粘土からなる。遺物は東側溝内からまともに出て出土した。溝底面直上では赤彩を施した高杯が出土した。

SZ02 (第 32 図)

調査区西側、X5～10、Y4～5 にかけて位置する。SZ01 と同様、表土除去後に黒色土の落ち込みを確認した。溝の全長は南と西が調査区外に伸びているため不明である。溝幅は最大で 2m、遺構確認面からの深さは 0.50m～0.20m を測る。埋土は黒色を基調とした粘土からなる。遺物は数点の土器破片である。

SI07～SI13 (第 30 図)

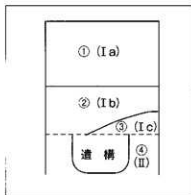
全て表土除去後、黒色土の落ち込みによって確認した。SI08 以外は調査区外に伸びている。遺構規模等の数字は残存値になる。

SI07、SI08 は調査区西側 X10～5、Y4 にかけて位置する。SI07 は長軸 3.3m を測る。SI08 は長軸 4.0m、短軸 3.8m を測り、隅丸方形を呈する。両者とも SZ02 を削っている。埋土は暗オリーブ褐色の粘土からなる。遺物は SI07 から古銭 1 点が出土した。SI09、SI10、SI11 は調査区北側 X10Y4～10 にかけて位置する。残存部での規模の最大は SI09 が 3m で SI10 が 4.60m、SI11 は 4.6m を測る。SI09 および SI10 は壁の立ち上がりがゆるやかである。SI11 は東側が攪乱・流木等によって削られていた。埋土はシルト質粘土である。遺物は出土していない。SI12、SI13 は調査区西側 X10～15、Y10～20 にかけて位置する。残存規模は SI12 が 5m、SI13 が 4.8m である。SI12 は床から緩やかに壁となる。埋土は黄灰色粘土と暗灰色粘土の順に堆積している。遺物は暗灰色粘土の層から中世土師器と陶磁器が出土した。SI13 は埋土中に多量の流木と木片が流れ込んでいた。このため SD03 との切り合い関係および壁が不明である。埋土は上位から暗灰黄色粘土、黄灰色粘土、暗灰黄色粘土の順に堆積している。遺物は出土していない。

SD01～SD07 (第 30 図)

全て表土除去後の黒色土の落ち込みによって確認した。

SD01 は調査区の東西にかけて位置する。現存長 50m、幅 1.50m～0.80m を測る。深さは確認面から 0.30m～0.25m を測る。SD03、04、05 を切っている。埋土は暗灰黄色粘土を基調とする。SD02 は残存長約 3.00m、幅約 1.00m、深さ 0.10m である。SD03、04、05 は X15～5、Y20～15 に位置する。いずれも約 20m 南北に伸びている。SD03 は幅 1.40m、確認面からの深さが 0.30m である。埋土は暗オリーブ褐色粘土からなる。SD04 は SD05 に切られている。幅約 0.5m、深さ 0.3m～0.5m である。SD05 は幅最大 2m、深さ 0.3m を測る。SD04、05 はいずれも埋土は暗オリーブ褐色粘土を基調とし、SD04 は砂粒の幅状堆積となっている。SD06、SD07 は調査区 X10、Y10～20 にかけて位置する。埋土の状態から自然流路と捉えられた。調査区 X5～15、Y10～20 の範囲は増水等による氾濫を受けていたと思われる。その



第 14 図 神成遺跡 12 地区の基本層序

ほか詳細不明の小穴が調査区 X10 Y10、X5Y4、X5Y10 でみられた。遺物は各溝から小破片が致点出土している。

(3) 遺物の概要 (第33図 図版20 第5表)

SZ01 (1~13)

1、3、4は壺である。1は口縁下位に段を有し、ヨコナデが施される。3は口縁が大きく外反し、端部で直立し、断面が三角形となる。体部は内外面ともにハケメ調整される。4はやや小型で、口縁端部が外につまみだされる。内外面ハケメが施されている。2、5は壺である。2は口縁部で、内外面に横ナデがなされ、内面に粘土継の接合部を押さえた痕がみられる。5は口縁~頸部間に段を有する。内外面横ナデされている。6は埴である。口縁部は横ナデ、体部は内外面ともにハケメが施されている。7、8は高杯の杯部でいずれも赤彩が施されている。7は内外面みがかれ、脚部付近で「く」の字状に屈曲する。8は内外面ともにミガキがなされる。9~11は高杯の脚部である。9は裾が広く、外面はミガキがなされ、赤彩を施している。10の軸部内は内面から杯部へ穿孔されている。11は外面縦ミガキ、内面ハケメが施される。12、13は器台である。12は外面横ナデのち赤彩を施している。13は外面縦ミガキ、内面ハケメが施されている。以上これらはすべて、SZ01 溝内東側でまとまって出土した。

SI12 (14、15)

14は、中世土師器・小皿である。口縁部は横ナデされる。15は白磁・碗である。内外面施釉され、外面に浅い段を有する。

SI07 (23)

宋銭「治平通宝」である。初鑄年は1064年である。

P023 (16)

高杯の脚部である。外面横ミガキ、内面ハケメ調整がなされる。外面は赤彩を施している。

SD01 (18、19)

18は須恵器・碗である。内外面に回転ナデを施す。19は施軸陶器である。底部は回転ヘラ切り、貼付高台を有する。

SD03 (20)

中世土師器・皿である。内外面横ナデされる。体部は被熱されている。

SD05 (21)

21は須恵器の無台杯で、回転ナデがなされる。底面は回転ヘラ削りによって切り離される。8世紀中頃と思われる。

SD06 (22)

中世土師器・皿である。非ロクロ成形で、口縁部に油煙が付着している。

SK05 (17)

片口のすり鉢である。ロクロ成形で底部は静止糸切りにて離される。内面に焼け焦げがある。

(小柳リラコ)

第9表 神成遺跡13地区出土遺物計測表

個体番号	遺構番号	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	口縁部		特記事項
							底径	残存率	
223	SZ01		壺・口縁部	(16.0)	-	-	15%	-	横ハケメ、内面ナデ、ハケメ
222	SZ01		壺・口縁部	(17.0)	-	-	10%	-	横ナデ、ハケメ、内面掘日工具痕
219	SZ01		壺・口縁部	(18.8)	-	-	55%	-	回転ナデ、ハケメ、内面ナデ

個体番号	遺構番号	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口縁部残存率	肩部残存率	特記事項
124	SZ01		甕Dか?	(16.8)	-	-	30%	-	横ナデ、ハケメ、内面削りあり
125	SZ01		甕(有段?)	(16.2)	-	-	30%	-	ナデ
120	SZ01		埴	(9.9)	-	-	25%	-	横ナデ、ハケメ
220	SZ01	赤彩土器	高杯・杯部	(18.2)	-	-	20%	-	ミガキ後表裏赤彩
126	SZ01	赤彩土器	高杯・杯部	(20.1)	-	-	-	20%	横ミガキ、口縁部内面ハケメ
221	SZ01	赤彩土器	高杯・脚部	-	-	(13.2)	-	5%	ミガキ、内面横ナデ
121	SZ01		台付甕?脚部	-	-	-	15%	-	ミガキ、内面削り後ミガキ・穴部螺旋状の筋跡
218	SZ01		高杯・脚部	-	-	-	-	-	ミガキ、接合部ナデ
122	SZ01		器台・脚部	-	-	-	-	-	外面赤彩
123	SZ01		器台	-	-	(11.2)	10%	-	?
131	SI12	土師器	小皿	8.7	1.5	6.8	25%	25%	ナデ、口縁部横ナデ
132	SI12	白磁	碗	(14.4)	-	-	10%	-	施釉、外面に沈線状の浅い段あり
127	P023	赤彩土器	高杯・脚部	-	-	(10.7)	-	65%	?
134	SK05	土師質土器	擂鉢	(28.6)	10.4	(11.3)	25%	70%	横ナデ、底部ヘラ削り後ナデ、内面被熱?による焼焦げ部あり
135	SD01	須恵器	碗	(11.9)	-	-	10%	-	回転ナデ
136	SD01	施釉陶器	碗	-	-	(4.7)	65%	-	回転ナデ、施釉、底部回転ヘラ切り後回転ナデ、貼付高台
138	SD03	土師器	皿	(6.8)	-	-	10%	-	ナデ、口縁部横ナデ
140	SD05	須恵器	杯	(13.5)	(3.5)	(8.7)	45%	35%	回転ナデ、底部ヘラ切り・板状片痕
141	SD06	土師器	小皿	9.7	2.2	4.7	40%	50%	ナデ、口縁部壁付着
-	SI07	鉄製品	古銭	-	-	-	-	-	拓本

IV ま と め

宗守遺跡 4 地区

1. 検出した 2 棟の掘立柱建物跡は調査区外に延びるため、建物の規模など全体の様相は判然とし難い。SB01・SB02 は主軸方向がほぼ平行して重複し、また短軸方向の間数が同じことなどから、建て替えてあると考えられる。ただし両者には切り合いがなく、前後関係は不明である。
2. 柱穴からの遺物の出土量は少なく、その中でも縄文土器などの流れ込みの遺物が相対的に多い。SB03-P3 から出土した土師器、包含層中の土師器・須恵器の年代から判断すると、掘立柱建物跡の帰属時期は 8 世紀後半に比定されることが考えられる。

久戸遺跡 1 地区

1. 久戸遺跡 1 地区は、北側で遺物包含層が遺存しており、柱穴などの遺構の遺存状態も良好であった。検出したピットは 200 以上であるが、掘立柱建物を構成する柱穴列は確認できなかった。また出土遺物は、ほとんどが古代のものであった。
2. 調査区東から西にのびる溝は 2 地区でも検出しており、今年度調査で検出した総延長は 100m を超すが、ほぼ直線的に延び、断面形状も一定している。周辺の遺構との位置関係などからも、区画溝などの意図的な作り方を考えさせる。

久戸遺跡 2 地区

1. 調査区の中央に位置する SB01 は平面積が広く、他の建物と比較して大型である。また、SB01 を囲うように SD01・02 が存在し、これらの溝を境として他の建物が存在する。さらに、SD01 は SB01 を中心とした建物に付随する区画溝の可能性がある。SD01 からは須恵器・土師器皿・珠洲などが出土したが、須恵器は流れ込みで、出土遺物の上限である土師器皿・珠洲の 12 世紀後半から 13 世紀前半がこの溝の帰属時期であると考えられる。SD01 が建物群に付随する施設であるならば建物の帰属時期は同時期であることがいえる。
2. 本調査区にて検出した掘立柱建物跡のうち明確に建物となるものは 5 棟 (SB01～05) で、すべて総柱建物である。5 棟の建物の主軸は真北に対し東へ $15 \sim 21^\circ$ と近似した値を示す。また、柱間、柱穴の大きさと深度、埋上が類似することなどから、これらの建物の時期差はほとんどないと考えられる。SB02 と 05 は重複しており時期差が存在するが、上記の類似点から、時間幅が少ない建て替えてあると考えられる。また、本調査区の西側で行われた調査でも総柱建物が 2 棟検出されている (1996 財団法人富山県文化振興財団)。本調査区の建物と比較すると、柱間、柱穴の大きさと深度、埋土など類似点が多い。建物の主軸、帰属年代についても同様の値を示す。このことから、本調査区から若干距離は離れているが、中世の村落である散居、もしくは、同時期の小集落同士であった可能性が考えられる。

梅原胡摩堂遺跡 25 地区

本調査区では、8 世紀前半から 9 世紀、10 世紀の古代遺構、12 世紀末ごろから 13 世紀代の中世遺構を確認した。中世主体の梅原胡摩堂遺跡において、古代期の遺構、集落跡を確認したのは 26 地区とと

も今回が初例となる。周辺の古代の集落跡は、北側の在房遺跡において7世紀・9世紀、西側の梅原落戸遺跡において9世紀前半の堅穴建物等を確認しているが、8世紀代の建物跡を確認したのは南砺市内でも初例となる。周辺の集落の変遷は、古代には山田川左岸から西に移動し、中世期にはさらに南側に移動している。

梅原胡摩堂遺跡 26 地区

1. 発見した古代堅穴建物は調査区の北半に位置している。また SI02、03、04、08 の4棟は北西部、SI12、20 の2棟は北東部にあり、それぞれの建物は重複することなく所在している。すべて建物の南東隅にカマドをもつ。このうちカマドの袖を確認できたものは SI02、SI04、SI08 の3棟で、煙道を確認したのは SI04 の1棟であった。SI02、SI04、SI08 の3棟は燃焼部ないし周囲の小穴にカマド構築材等がみられ、住所廃絶にともなう儀礼行為があったと思われる。貼床をほどこしているものは SI02、SI04、SI12 の3棟である。貼床の低位は落ち込みがある。出土遺物はまず長胴甕があげられる。特に SI04、08 出土の長胴甕は丸底でロクロ技法による成形・調整を施すなどの特色から、いわゆる北陸型と称されるもので8世紀中頃から9世紀前半期のもものと判断される。SI12には須恵器が比較的多く、3点の無台杯はいずれも8世紀中頃のもと思われ、北西部の4棟に比べやや古い要素である。北西部の儀礼的な痕跡をもつグループと北東部の1棟とはやや時間差があり、本地区における古代建物の東から西への変遷ともとれる。

2. 本地区の中世期においてはまず堅穴状土坑と掘立柱建物との関連があげられる。SI01は家屋構造の「土間」空間を想定できる。SI09、SI14、SI15はその位置と主軸からSB02大型建物の付属施設である可能性がある。SI09は鉄滓が検出され、鉄加工などの作業空間であったと考えられる。

次に建物と溝道標の流路との関わりがあげられる。なおSD03については調査区中央付近で切り替えられている。これを北流路と南流路とに分けて整理してみる。①SD03北流路とSI02、SI09、SI14、SI15 ②SD03南流路とSB04、SB05 ③大溝SD04とSI01、SI06、SI07、SB03 ④SD02とSB09(畑跡) 以上4つのグループとなる。SD02とSD03の関係から少なくとも④のSB09は①の大型建物よりも先行していたと思われるが、位置的な認識はあったことと考えられる。このほか中世の包含層で検出した遺構としてSX03の礫集中遺構がある。覆土の状態などから埋葬施設を想定したが、同様の遺構として平成6年報告の梅原胡摩堂遺跡 A2 地区 2458 号石組遺構(1994 財団法人富山県文化振興財団)などがあり、比較検討など今後の課題である。

神成遺跡 11 地区

1. 神成遺跡 11 地区は、全般的に遺物包含層が遺存しており、掘立柱建物や溝などの遺構を検出した。掘立柱建物内の柱穴から漆器碗と建築部材が出土し、建物の廃絶時に伴う祭祀ではないかと思われる。ほかの柱穴出土の土師器・椀などから、建物の時期は12世紀代と考えられる。
2. 調査区の東側では、電柱の埋設穴や用水、暗渠などの後世の擾乱を多く受けているため、遺構の全容や詳しい性格、時期は不明だが概ね中世に帰属すると考えられる。神成遺跡では昨年以前の調査や今年度調査の12、13地区で弥生時代、古墳時代、古代の遺構を多く検出したが、この11地区ではほとんど検出していない。神成遺跡では東側から開拓が始まり、時期が下るにつれ、集落の中心を西へと移していったようである。

神成遺跡 12 地区

1. 出土遺物の帰属時期は、包含層中から出土した遺物は弥生時代終末期と古代、遺構から出土した遺物は弥生時代終末期に大別でき、帰属時期に偏りがある。
2. 遺跡全体を概観すると、SX01・02、SD02、SI01 といった主要遺構の帰属時期は概ね弥生時代終末期に比定されるものと考ええる。その時期以降の遺物が流れ込みなどで混入していなかったことなどから一括性が高い。SX01・02、SD02 は比較的等間隔において並列して存在し、遺構の帰属時期がほぼ同時期であるため並存していたか、あるいは各遺構の配置を考慮し構築した可能性が指摘できる。

神成遺跡 13 地区

神成遺跡 13 地区では、古墳時代と中世の 2 時期の遺構を検出した。円形の周溝は、南側の陸橋部分が調査区外となっているため、溝の形態が不明だが、陸橋幅と全長とのバランスから、南側はそれほど延びないのではないかと考えられ、いわゆる軌立貝式の古墳を想定する。主体部は削平され不明であるが、出土遺物から富山県における古墳出現期土器群の 5～6 段階相当と思われる。

参考文献

- 石川県埋蔵文化財センター 1986 『漆町遺跡Ⅰ』
- 石川県埋蔵文化財センター 1989 『漆町遺跡Ⅱ』
- 大島町教育委員会 2000 『八尾 C 遺跡』
- 金田章裕 1993 『医王山麓の平野における中世の景観』 『医王は語る』
- 久々忠義 2003 『富山県考古学会創立 50 周年記シンポジウム富山平野の出現期古墳 基調報告
古墳出現期の上器について』 『大境 第 23 号』 富山考古学会
- 財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所 1998
『五社遺跡発掘調査報告 - 能越自動車建設に伴う埋蔵文化財発掘報告』
- 福光町教育委員会 1999 『梅原胡摩堂遺跡Ⅲ 梅原出村遺跡群Ⅲ』
- 福光町教育委員会 2001 『在房遺跡Ⅰ』
- 福光町教育委員会 2002 『在房遺跡Ⅱ』
- 福光町教育委員会 2003 『在房遺跡Ⅲ、久戸Ⅱ遺跡Ⅰ』
- 婦中町教育委員会 2000 『県営担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書』
— 婦中南部地区・千里地区 —
- 舟橋村教育委員会 2000 『浦口遺跡発掘調査報告 (3)』
- 北陸古代土器研究会 1993 『北陸古代土器研究第 3 号』
- 北陸古代土器研究会 1994 『北陸古代土器研究第 4 号』
- 北陸古代土器研究会 1995 『北陸古代土器研究第 5 号』
- 北陸古代土器研究会 1997 『北陸古代土器研究第 6 号』
- 北陸古代土器研究会 1997 『北陸古代土器研究第 7 号』
- 細辻貞澄 2003 『任海宮田遺跡出土の上錘について 2』 『紀要 富山考古学研究 第 6 号』
- 財団法人 富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所
- 吉岡康暢 1991 『日本海域の上器・陶磁』 〔古代編Ⅱ〕 六興出版

図版凡例



焼土範囲



須恵器、珠洲断面



青磁断面

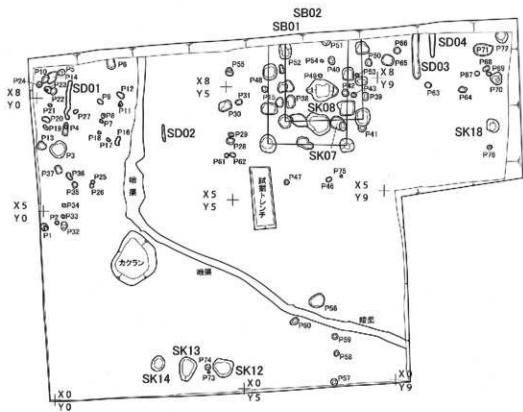


土師器、中世土師器断面



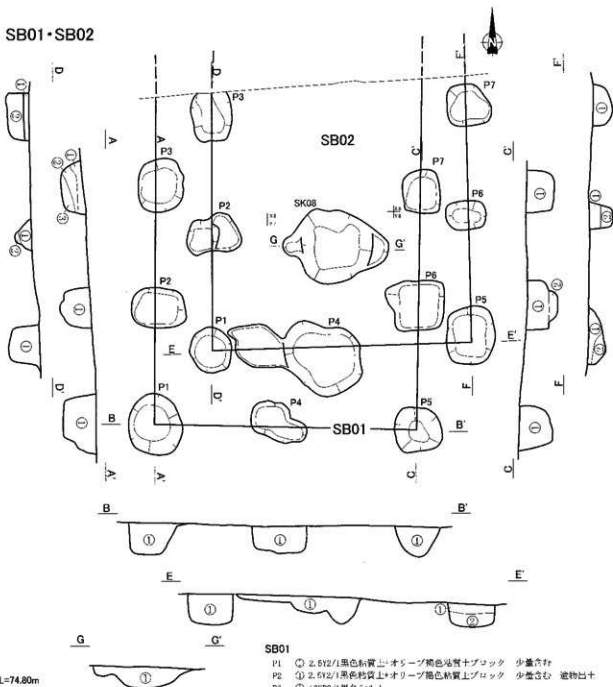
赤彩部位

遺構・遺物図版



第15図 宗守遺跡4地区 平面図 (S=1:200)

SB01・SB02



L=74.80m

SB01

- P1 ① 2.5Y2/1黒色粘質土+オリブ褐色粘質土ブロック 少量含む
- P2 ① 2.5Y2/1黒色粘質土+オリブ褐色粘質土ブロック 少量含む 遺物出土
- P3 ① .0YR2/1黒色シルト
- ② .0YR2/1黒色粘質土
- ③ .0YR2/2黒褐色粘質土+黄褐色粘質土ブロック5%含む
- P4 ① .0YR2/2黒褐色シルト+明褐色粘質土ブロック少量含む
- P5 ① 2.5Y2/1黒色粘質土+オリブ褐色粘質土ブロック 少量含む 灰分含む
- P6 ① 2.5Y2/1黒色粘質土+黄褐色粘質土ブロック含む
- ② 2.5Y2/1黒色粘質土+灰色粘質土ブロック含む
- P7 ① .0YR2/1黒色粘質土+褐色ブロック横線含む

SB02

- P1 ① 2.5Y2/1黒色粘質土+オリブ褐色粘質土ブロック 5%含む
- P2 ① 2.5Y2/1黒色粘質土
- ② 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
- ③ 7.5YR1.7/1黒色粘質土+黄褐色粘質土ブロック 少量含む
- ④ 10YR.7/1黒色粘質土+黄褐色粘質土ブロック 少量含む
- P3 ① 10YR2/1黒色粘質土+黄褐色粘質土ブロック10%含む
- P4 ① 10YR2/2黒褐色粘質土+黄褐色粘質土ブロック20%含む
- ② 2.5Y2/1黒色粘質土+黄褐色粘質土ブロック10%含む
- P5 ① 10YR5/3/1+黄褐色粘質土
- ② 5Y2/2オリブ 黒色粘質土
- P7 ① 2.5Y2/1黒色粘質土

- SK08 ① .0YR2/2黒褐色粘質土+ 黄褐色粘質土ブロック 30%含む

第16図 宗守遺跡4地区の遺構(1) (S=1:60)



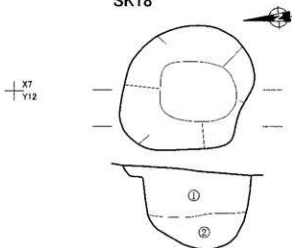
SK07



SK07

① 2.5Y3/1黒褐色粘質土 黄褐色粘質土8%含む

SK18



SK18

① 2.5Y2/1黒色粘質土
② 10YR1.7/1黒色粘質土

SD01



SD01

① 7.5YR2/1黒色粘質土
黄褐色粘質土ブロック10%含む

SD02



SD02

① 2.5Y2/1黒色シルト

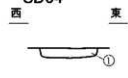
SD03



SD03

① 10YR2/1黒色粘質土
黄褐色粘質土ブロック20%含む

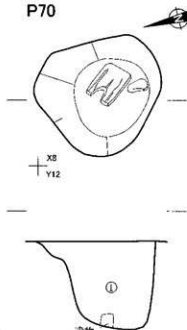
SD04



SD04

① 10YR2/1黒色粘質土
黄褐色粘質土ブロック20%含む

P70

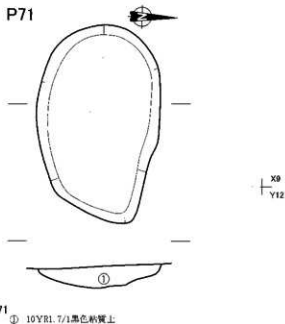


P70

① 10YR3/1黒褐色粘質土

L=74.700m

P71

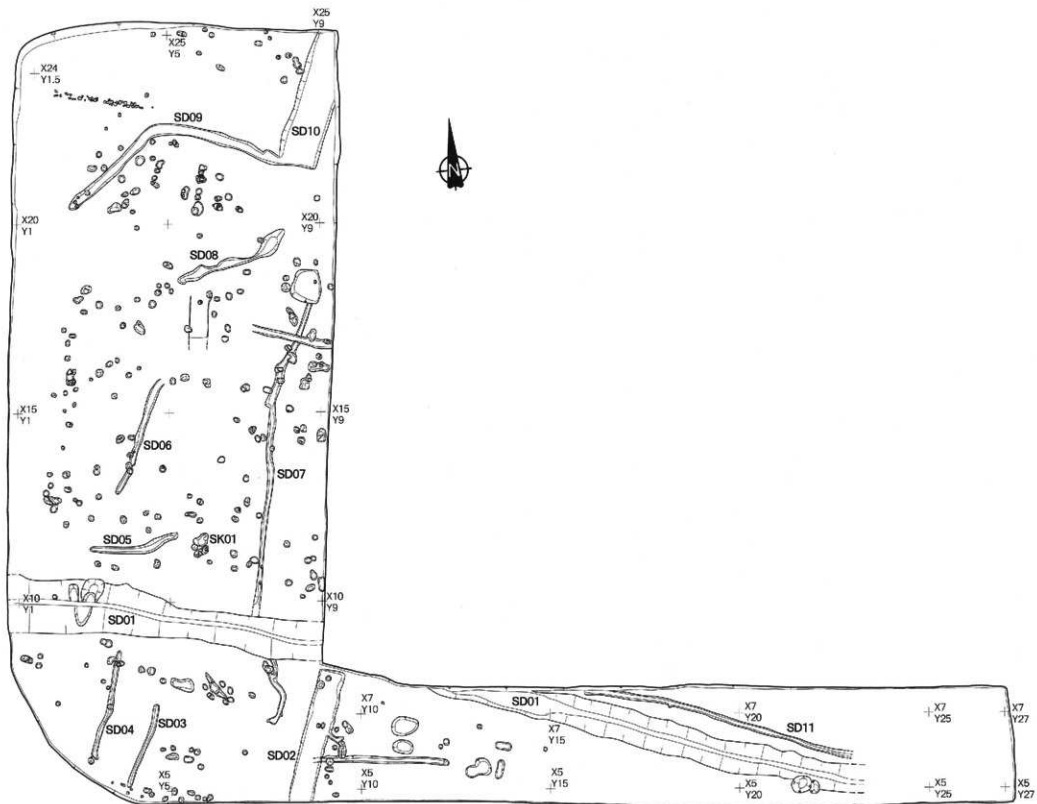


P71

① 10YR1.7/1黒色粘質土



第17図 宗守遺跡4地区の遺構(2) (S=1:20)



第18图 久戸遺跡1地区 平面图 (S=1:200)

L=71.30m 北 南

SD01



- SD01 ①10YR1.7/1黒色シルト+地山シルト5%
 ②10YR2.2黒褐色シルト
 ③②+地山30%
 ④10YR2.1黒色シルト+地山シルト30%
 ⑤④+地山30%

- ⑥②+地山5%
 ⑦②+地山砂質土15%
 ⑧10YR2.1褐色粘質土+地山粘質土20%
 ⑨10YR2.2黒褐色シルト+地山砂質土25%
 ⑩10YR2.1黒色シルト+地山砂質土30%

L=71.40m 西 東

SD02



SD02 ①10YR2.1黒色シルト+地山シルト1%

L=71.30m 西 東 西 東

SD06



- SD06 ①10YR2.1黒色シルト+地山5%
 SD07 ①10YR2.2黒褐色シルト+地山5%

SD07



SD08

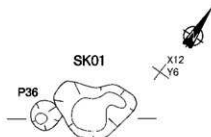


- SD08 ①10YR2.2黒褐色シルト
 SD09 ①10YR2.1黒色シルト+地山シルト5%

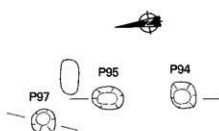
SD09



X17
Y3

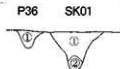


- P36 ①10YR2.1黒色シルト+地山30%
 SK01 ①10YR2.2黒褐色シルト+地山5%
 ②10YR2.1黒色シルト+地山1%

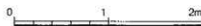
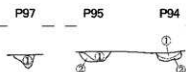


- P97 ①10YR2.1黒色シルト+地山5%
 P95 ①10YR2.1黒色シルト
 ②①+地山10%
 P94 ①10YR2.1+地山3%
 ②①+地山30%

L=71.30m

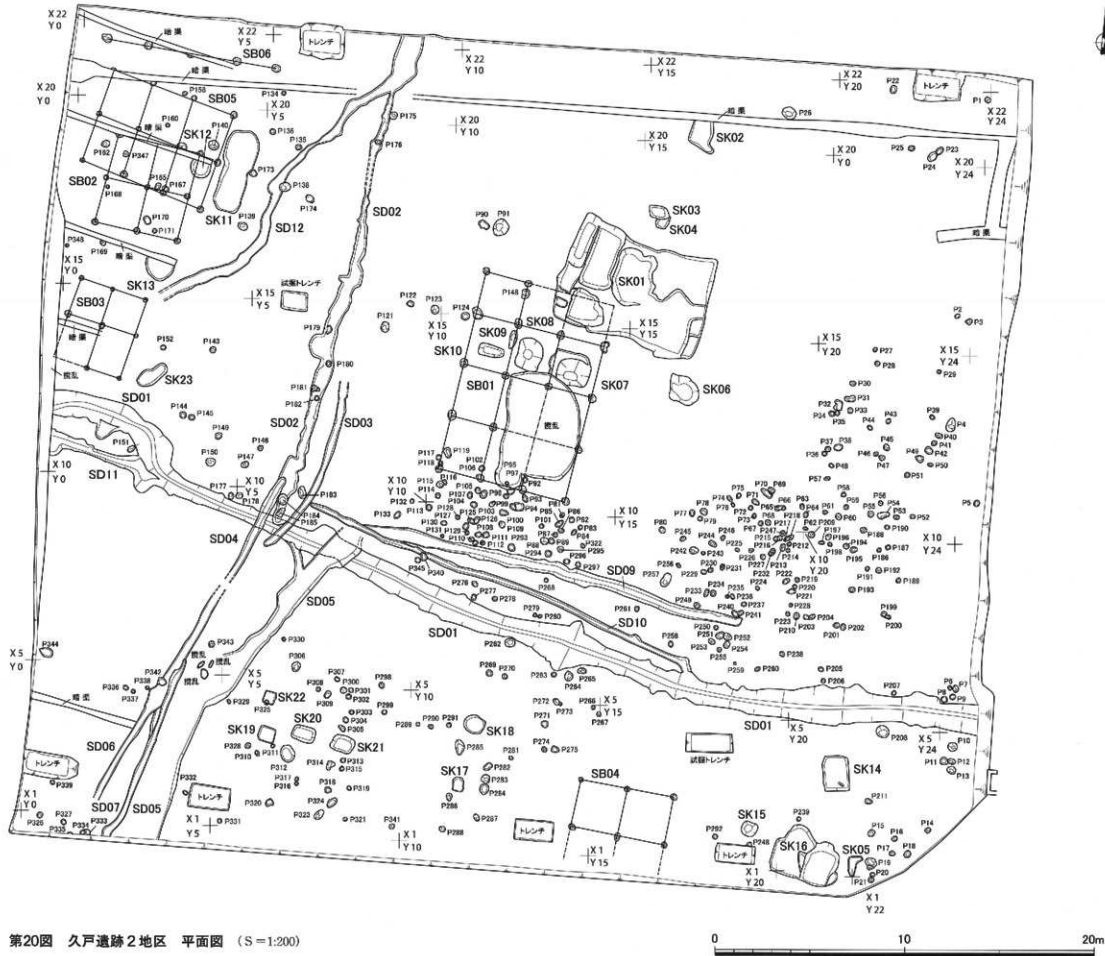


L=71.40m



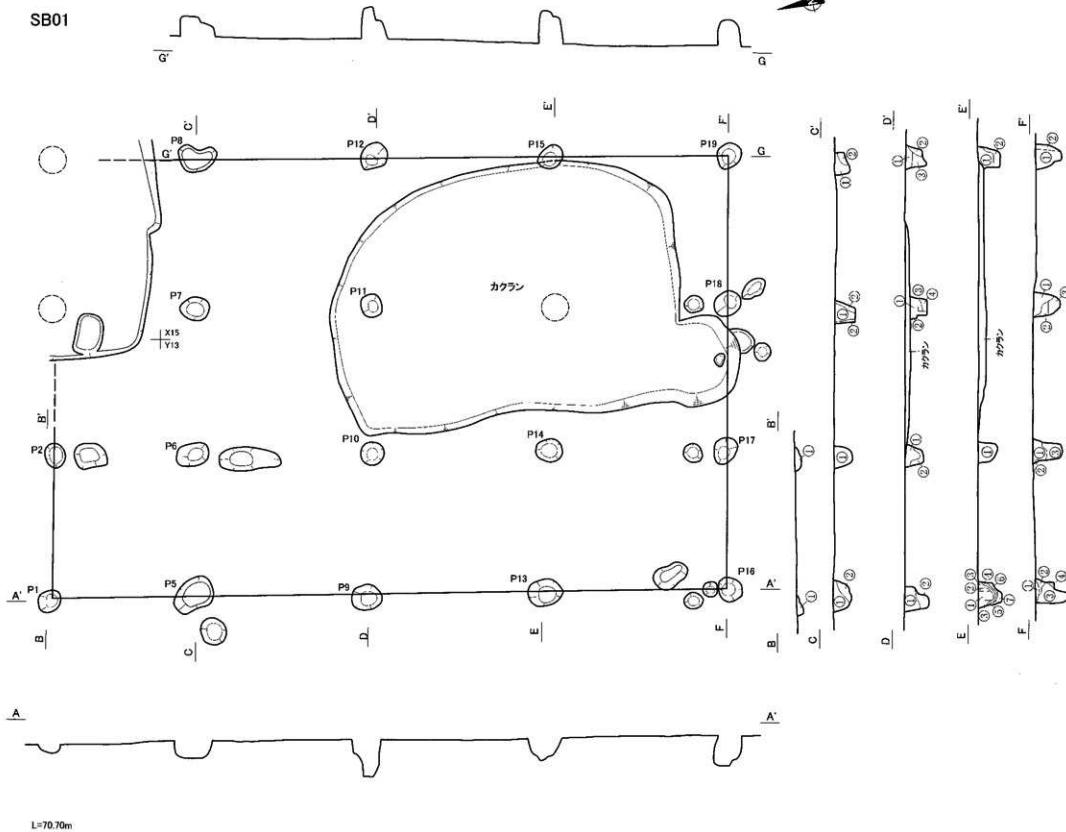
第19図 久戸遺跡1地区の遺構 (S=1:40)





第20図 久戸遺跡2地区 平面図 (S=1:200)

SB01

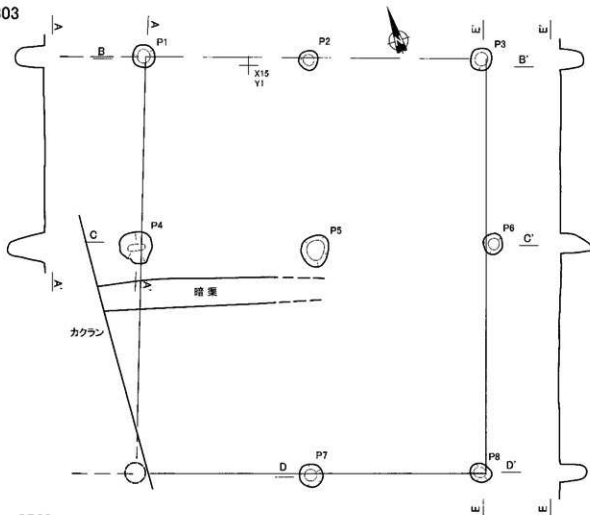


SB01

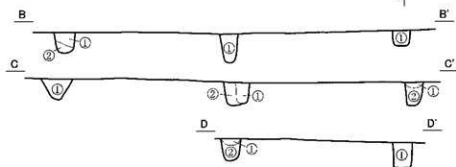
- P1 ① 10YR3/1黒褐色シルト+地山しみ状20% 炭化物産出に含む
 P2 ① 10YR3/1黒褐色シルト+地山しみ状30% 炭化物産出に含む
 P3 ① 10YR2/1黒色シルト+地山5%
 P4 ① 10YR2/1黒褐色粘質土+地山しみ状10%
 P6 ① 10YR2/1黒色シルト+地山ブロック状10%
 P7 ① 10YR2/1黒色シルト
 ② 10YR2/1黒色粘質土 地山ブロック状30%
 P8 ① 10YR2/1黒色シルト 地山10%
 ② 10YR2/1黒色シルト+地山30%
 P9 ① 10YR2/2黒褐色シルト+地山20%
 ② 10YR2/1黒色粘質土
 P10 ① 10YR2/1黒褐色粘質土+地山30% 炭分含む
 ② 10YR2/2黒褐色粘質土 炭分含む
 P11 ① 10YR2/1粘質土 炭分含む
 ② 10YR2/3粘質土+地山50% 炭分含む
 ③ ①+地山70%
 ④ ①+地山30%
 P12 ① 10YR2/1黒褐色粘質土+10YR4/6ブロック状40%
 ② 10YR2/3粘褐色粘質土+地山ブロック状40%
 ③ 10YR3/1黒褐色粘質土+地山ブロック状10%
 P13 ① 10YR2/1黒色シルト+地山しみ状10%
 ② 10YR2/1黒褐色シルト+地山しみ状20%
 ③ 10YR2/1粘褐色シルト+地山しみ状10%
 ④ 10YR2/1黒色シルト+地山に準同
 ⑤ 10YR2/2黒褐色シルト
 ⑥ 10YR2/3黒褐色シルト
 ⑦ 10YR1.7/1黒色シルト+地山ブロック状10%
 P14 ① 10YR2/1黒褐色シルト+地山ブロック状5%
 P15 ① 10YR2/1黒色シルト 炭分含む
 ② 10YR2/2黒褐色粘質土+地山30%+黄褐色粘土ブロック状10%
 P16 ① 10YR3/1粘褐色シルト 炭分含む
 ② 10YR2/3粘褐色シルト+褐色粘土ブロック状40%炭分含む
 ③ 10YR2/1黒褐色粘質土+地山10% 炭分微量に含む
 ④ 10YR1.6褐色粘質土
 P17 ① 10YR2/2黒褐色シルト+黄褐色粘質土ブロック状3% 炭分微量に含む
 ② 10YR2/1黒色シルト+地山しみ状10% 炭分含む
 ③ 10YR2/1黒褐色粘質土+黄褐色粘質土ブロック状30%
 P18 ① 10YR2/1黒褐色シルト 炭分含む
 ② 10YR2/1黒褐色粘質土 地山ブロック状10% 炭分含む
 ③ 10YR2/1黒色粘質土 炭分多量に含む
 P19 ① 10YR2/1黒色シルト+地山ブロック状10%炭分微量
 ② 10YR2/1黒褐色シルト+地山ブロック状10%

第21図 久戸遺跡2地区の遺構(1) (S=1:60)

SB03



SB03

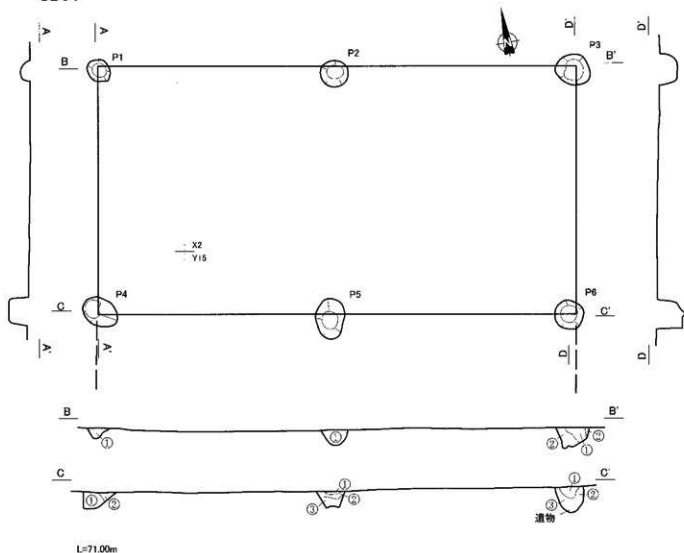


L=70.70m

SB03

- P1 ① 10YR2/1茶色粘質土+地山シミア20% 鉄分多量を含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土+地山50% 鉄分含む
- P2 ① 10YR2/1茶色粘質土+地山10% 鉄分含む
- P3 ① 10YR3/1黒褐色シルト+地山10% 鉄分含む
- P4 ① 10YR3/1黒褐色シルト+地山30% 鉄分含む
- P5 ① 10YR2/1茶色粘質土 鉄分多量を含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土+地山30% 鉄分多量を含む
- P6 ① 10YR2/1黒色シルト 鉄分多量を含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分多量を含む
- P7 ① 10YR2/1黒色シルト+地山10% 鉄分含む
- P8 ① 10YR3/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分含む
- ② 10YR2/2黒褐色粘質土 鉄分含む

SB04



SB04

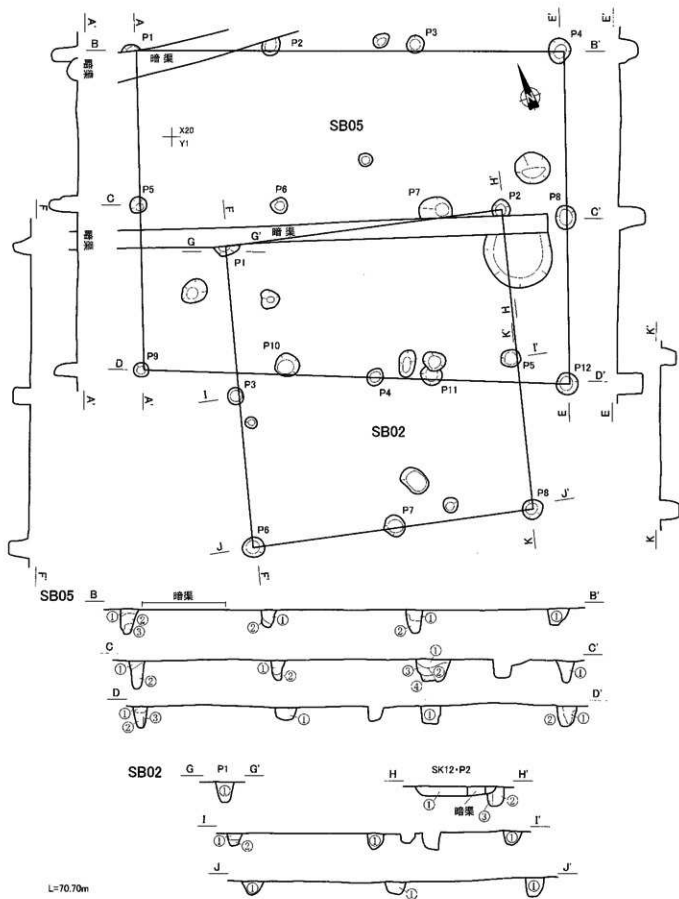
- P1 ① 10YR2/1 黒色シルト+地山10%
- P2 ① 10YR7/1 灰色シルト+地山+ブコック状5%
- P3 ① 10YR2/1 黒色シルト+地山20%
- P4 ① 10YR3/1 赤褐色シルト+地山+ブロック状5%
- P5 ① 10YR2/1 灰色シルト+地山+緑泥3%
- ② ①-2. 5Y4/1 黄褐色シルト+地山120%
- P6 ① 10YR2/1 黒色シルト+地山30%
- ② ①-地山90%
- ③ 10YR3/3 暗褐色シルト+地山110%+2. 5Y4/1 黄褐色シルト
- P6 ① 10YR2/1 灰色シルト+地山+ブコック状10%
- ② 2. 5Y4/1 黄褐色シルト+10YR3/3 暗褐色シルト+地山+ブコック状10%
- ③ ①-地山10%+ブコック状

遺物



第23図 久戸遺跡 2 地区の遺構(3) (S=1:40)

SB02・SB05



第24図 久戸遺跡2地区の遺構(4) (S=1:60)

0 3m

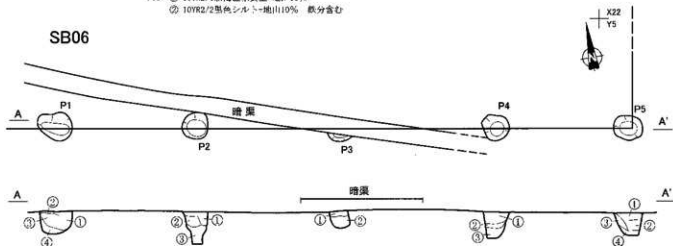
SB02

- P1 ① 10YR3/2黒褐色粘質土+地山10% 鉄分含む
- P2 ① 10YR2/1黒色粘質土 鉄分多量に含む (S K12埋土)
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- ③ 10YR2/2黒褐色粘質土+地山30% 鉄分多量に含む
- P3 ① 10YR2/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分多量に含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分含む
- P4 ① 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- P5 ① 10YR3/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分含む
- P6 ① 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む 炭化物含む
- P7 ① 10YR2/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分多量に含む
- P8 ① 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分含む

SB05

- P1 ① 7.5Y2/1黒色シルト+地山5% 鉄分含む
- ② 10YR3/1黒色粘質土+地山10% 鉄分含む
- ③ 10YR2/1黒色粘質土
- P2 ① 2.5Y2/1黒色シルト+地山10% 鉄分含む
- ② 2.5Y3/2黒褐色粘質土+地山(青色粘土)20% 鉄分含む
- P3 ① 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- ② 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- P4 ① 10YR3/1黒褐色粘質土+地山40% 鉄分含む
- P5 ① 10YR2/1黒褐色粘質土+地山30% 鉄分含む
- ② 10YR2/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分含む
- P6 ① 10YR3/1黒褐色粘質土+地山5% 鉄分含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分含む
- P7 ① 10YR2/1黒褐色粘質土 しまりあり+地山粘状5% 鉄分含む 炭水化物含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土+地山40% 鉄分多量に含む
- ③ 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分含む 炭水化物含む
- ④ ⑤+地山50% 炭水化物含む 鉄分含む
- P8 ① 10YR3/1黒褐色粘質土
- P9 ① 10YR3/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分含む
- ② 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- ③ 10YR3/2黒褐色粘質土 鉄分含む
- P10 ① 10YR3/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分多量に含む
- P11 ① 10YR3/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分含む
- P12 ① 10YR2/1黒褐色粘質土+地山10% 鉄分含む
- ② 10YR2/2黒色シルト+地山10% 鉄分含む

SB06



SB06

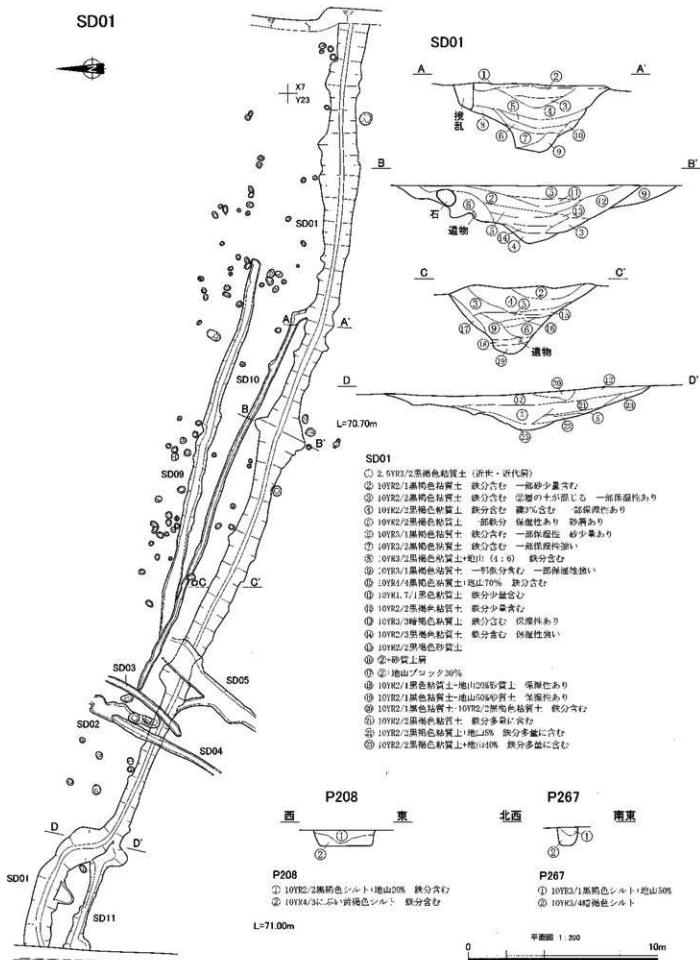
- P1 ① 10YR2/1黒色粘質土+地山20% 鉄分多量に含む
- ② 10YR2/1黒色シルト+地山10% 鉄分含む
- ③ 10YR3/1黒褐色粘質土+地山30% 鉄分含む
- ④ 10YR3/2黒褐色粘質土 鉄分含む
- P2 ① 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分含む
- ③ 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- P3 ① 10YR2/1黒褐色粘質土
- ② ①+地山ブロック状40%
- P4 ① 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分含む
- ③ 10YR3/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- P5 ① 10YR2/1黒褐色粘質土 鉄分多量に含む
- ② 10YR3/1黒褐色粘質土+地山20%
- ③ 10YR3/1黒褐色粘質土+地山10%
- ④ 10YR3/2黒褐色粘質土+地山10%

L=70.70m



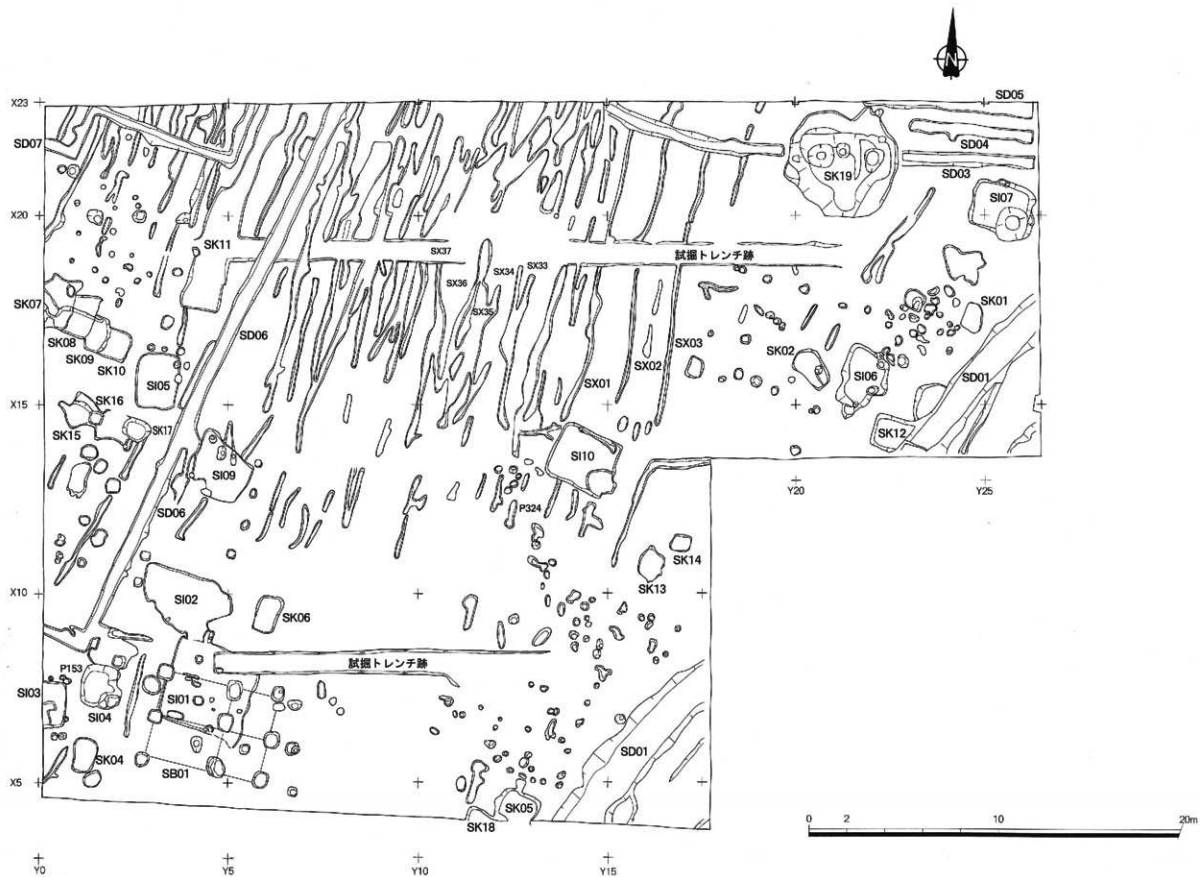
第25図 久戸遺跡2地区の遺構(5) (S=1:60)

SD01

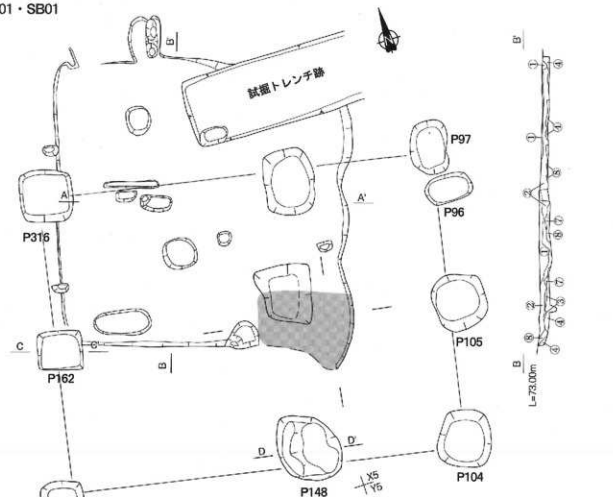


第26図 久戸遺跡2地区の遺構(6) (S=1:200・S=1:40)





第27図 梅原胡摩堂遺跡25地区 平面図 (S=1:200)

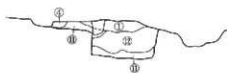


SI01

- ① 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+鉄分+4/2暗灰黄色土5%
- ② 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+4/2暗灰黄色土10%
- ③ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+4/2暗灰黄色土5%
- ④ 2.5Y2/2暗灰黄色土(やや粘質)+鉄分=地山
- ⑤ 2.5Y2/1黒色粘質土+鉄分
- ⑥ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+④20%
- ⑦ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+④5%
- ⑧ 2.5Y2/2暗灰黄色粘土+鉄分+2/1黒色土10%=粘床

SI01カマド

L=73.00m 西 L=73.00m 北 南



SI01カマド

- ① 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色粘質土+焼土20%
- ② 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色粘質土+焼土10%
- ③ ②+2/1黒色土10%
- ④ 2.5Y3暗オリーブ褐色土(やや粘質)+焼土5%
- ⑤ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色土(やや粘質)+焼土10%+③5%
- ⑥ 2.5Y3暗オリーブ褐色土(やや粘質)+③5%
- ⑦ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+②20%+鉄分
- ⑧ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色土+②5%+焼土5%
- ⑨ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色土+②20%
- ⑩ 2.5Y2/2暗灰黄色粘土=地山
- ⑪ 2.5Y4/2暗灰黄色粘土=地山
- ⑫ 2.5Y2/1黒色粘質土+②20%+鉄分

P162

- ① 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+鉄分+4/2暗灰黄色土5%
- ② 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+鉄分+4/2暗灰黄色土10%
- ③ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+鉄分
- ④ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+4/2暗灰黄色土20%

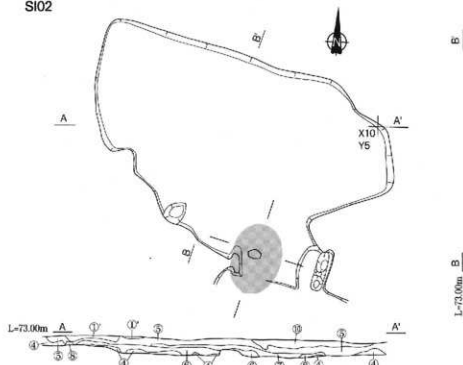
P148

- ① 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+⑧20%+鉄分
- ② 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+⑧30%ブロック状
- ③ 2.5Y2/1黒色粘質土+⑧5%+焼土混
- ④ 2.5Y2/1黒色粘質土+⑧20%
- ⑤ 2.5Y2/1黒色粘質土+⑧10%
- ⑥ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土=地山

第28図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(1) (S=1:40・S=1:60)



SI02



SI02

- ① 黄土-灰褐色土
- ② 2.5Y2/1黒色土+4.5% = 包含層
- ③ 2.5Y2/1黒色土 - 遺構埋土
- ④ 2.5Y3/1黒褐色土+③-腐植層
- ⑤ 2.5Y4/2暗灰黄色土-地山
- ⑥ 2.5Y2/1黒色土, 鉄分
- ⑦ ⑤+4.0%
- ⑧ ⑤+4.5%
- ⑨ ②, 鉄分, 5.2暗灰黄色土10%
- ⑩ ②, 鉄分, 5.2暗灰黄色土15%
- ⑪ 2.5Y4/1 ~ 3/1黒褐色粘質土, 鉄分

SI02カマド

L=73.00m 南



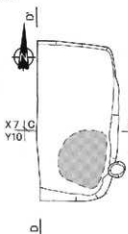
L=73.00m 西



SI02カマド

- ① 2.5Y3/1黒褐色土+5.2暗灰黄色土10%+2/1黒色土5%+焼土5%
- ② 2.5Y5/1黄灰色粘質土+鉄分+焼土5%
- ③ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色粘質土+5.2暗灰黄色土10%+焼土10%+炭10%
- ④ 2.5Y5/4黄褐色粘質土+炭5%+焼土20%
- ⑤ 2.5Y5/1黄灰色粘質土+鉄分-地山
- ⑥ 2.5Y2/1黒色粘質土, 焼土30%
- ⑦ 2.5Y2/1黒色粘質土, 焼土5%
- ⑧ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色粘質土, 鉄分+5.2暗灰黄色土10%

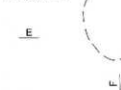
SI03



L=73.00m C



SI03カマド



L=73.00m E



SI03カマド

- ① 2.5Y2/1黒色土, 焼土30%
- ② 2.5Y2/1黒色土+焼土20%
- ③ 2.5Y2/1黒色土+焼土10%
- ④ 2.5Y4/2暗灰黄色土(やや粘質)-地山
- ⑤ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+④+焼土30%
- ⑥ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土(やや粘質)+2/1黒色土20%

SI03

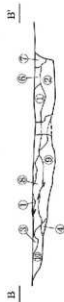
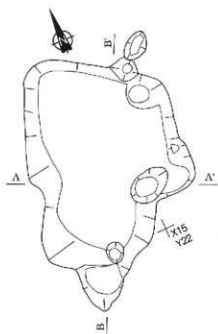
- ① 2.5Y2/1黒褐色土+⑤5%, 炭少量
- ② 2.5Y2/1黒褐色土(やや粘質)-⑤10%
- ③ 2.5Y2/1黒褐色土(やや粘質)-⑤20%
- ④ ⑤+5.0%+焼土少量
- ⑤ 2.5Y4/2暗灰黄色土(やや粘質)-地山
- ⑥ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土+2/1黒色土10%
- ⑦ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土+焼土20%
- ⑧ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)
- ⑨ 2.5Y2/1黒褐色土(やや粘質)
- ⑩ ⑤+5.20%
- ⑪ 包含層
- ⑫ 焼土

カマド



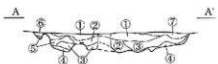
第29図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(2) (S=1:40・S=1:60)

SI06

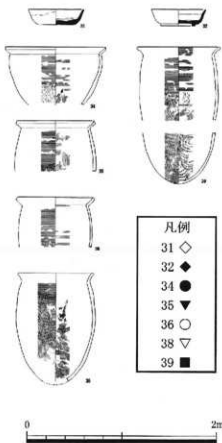
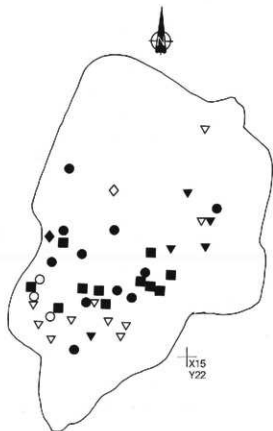


SI06

- ① ⑥-3/3暗オリブ褐色土30% + 焼土20%
- ② ⑥-3/3暗オリブ褐色土30% + 焼土5%
- ③ 2.5Y2/1黒色粘質土+3/2暗灰黄色土10%
- ④ 2.5Y2/1黒色粘質土+3/2暗灰黄色土3%
- ⑤ 2.5Y2/1黒色粘質土+3/2暗灰黄色土20%
- ⑥ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色土(やや粘質)
- ⑦ ⑥-5/2暗灰黄色土5%
- ⑧ ⑥-焼土5% + 3/3暗オリブ褐色土20%
- ⑨ ⑧-炭
- ⑩ ⑥-3/3暗オリブ褐色土20%



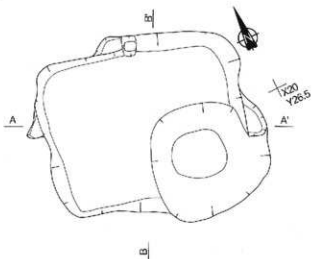
SI06遺物出土状況



凡例	
31	◇
32	●
34	●
35	▼
36	○
38	▽
39	■

第30図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(3) (S=1:40, 1:60)

SI07



L-73.00m

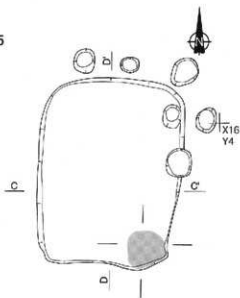
SI07

- ① N20黒色土=カクラン層
- ② 基本土層の②=包含層
- ③ S+7.5%・炭少量混じる=上面が検出面
- ④ S+7.5%
- ⑤ S+7.10%
- ⑥ 2.5Y4/1黄灰色粘質土
- ⑦ 2.5Y4/2暗灰黄色土=地山
- ⑧ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)
- ⑨ S+7.20%

L=73.00m



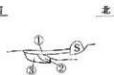
SI05



L=73.00m

SI05カマド

L-73.00m



L-73.00m



SI05カマド

- ① 2.5Y4/2暗灰黄色土(やや粘質)+焼土10%+炭少量
- ② 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土(やや粘質)+炭
- ③ 2.5Y4/2暗灰黄色土(やや粘質)+炭

L=73.00m



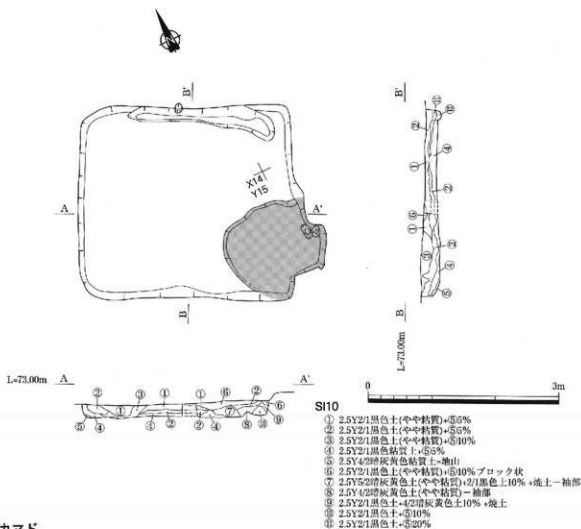
SI05

- ① S-4/3オリーブ褐色土20%
- ② S-3/3暗オリーブ褐色土10%
- ③ 2.5Y4/2暗灰黄色土=地山
- ④ 2.5Y3/1黒褐色土+4/3オリーブ褐色土10%
- ⑤ 2.5Y2/1黒色土
- ⑥ S-3/5%

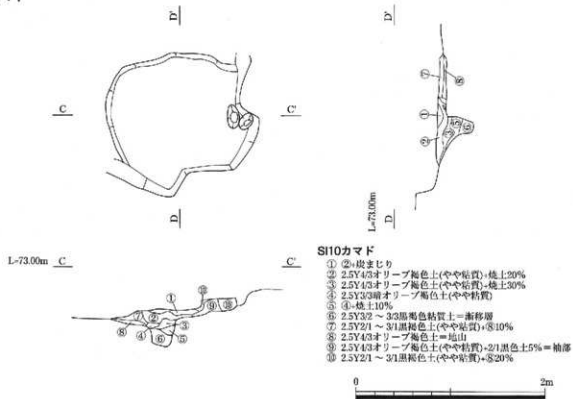


第31図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(4) (S=1:40・S=1:60)

SI10

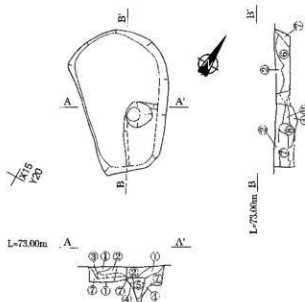


SI10カマド



第32図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(5) (S=1:40・S=1:60)

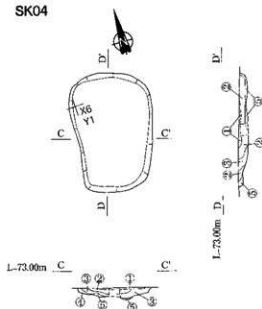
SK02



SK02

- ① 2.5Y3/1黒褐色土(やや粘質)+④10%
- ② 2.5Y3/1黒褐色土(やや粘質)+④20%
- ③ 2.5Y3/1黒褐色土(やや粘質)+④5%
- ④ 2.5Y4/2暗灰黄色土=地山
- ⑤ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+③10%
- ⑥ 2.5Y2/1黒色土+⑦20%+④10%
- ⑦ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土(やや粘質)=薪炭層
- ⑧ ①,2/1黒色土10%

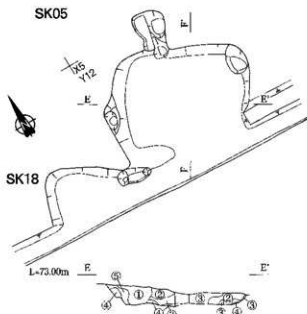
SK04



SK04

- ① 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+鉄分
- ② ①+⑤5%
- ③ ①+⑤10%
- ④ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土(やや粘質)+2/1黒色土10%
- ⑤ 2.5Y4/2暗灰黄色土=地山

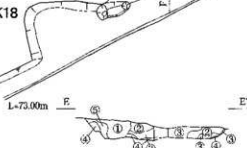
SK05



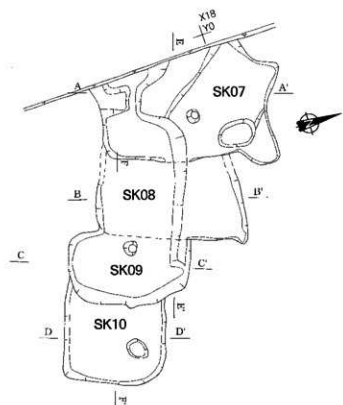
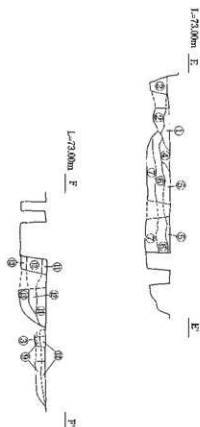
SK05

- ① ③+④5%
- ② ③+④10%
- ③ ③+④10%+灰
- ④ 2.5Y4/2暗灰黄色土=地山
- ⑤ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)

SK18

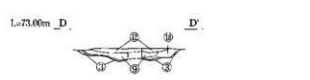
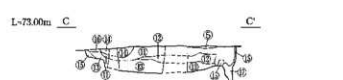
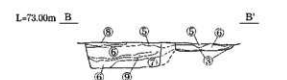
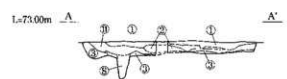


第33図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(6) (S=1.60)



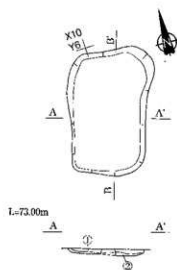
SK07 ~ SK10

- ① 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色土、③5%・鉄分と少量のレキ混じる
- ② ②=③5%・鉄分
- ③ 2.5Y4/2暗灰黄色土(やや粘質)=地山
- ④ ②=③5%
- ⑤ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)
- ⑥ ⑤=③10%ブロック状・鉄分
- ⑦ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色土(やや粘質)+③5%
- ⑧ ②=③20%
- ⑨ ⑤=30暗オリーブ褐色土5%
- ⑩ 2.5Y2/1黒色土
- ⑪ ⑤=④10%ブロック状
- ⑫ ⑤=④5%
- ⑬ 2.5Y3/1 ~ 3/2黒褐色土(やや粘質)
- ⑭ 2.5Y2/1 ~ 3/1黒褐色土(やや粘質)+③5%・鉄分
- ⑮ 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土=地山
- ⑯ ②=鉄分
- ⑰ ⑤=④20%ブロック状
- ⑱ ⑤=30暗オリーブ褐色土1.5%・③5%



第34図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(7) (S=1:60)

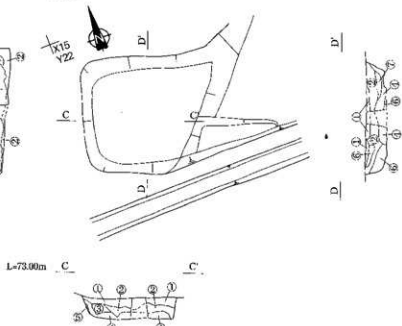
SK06



SK06

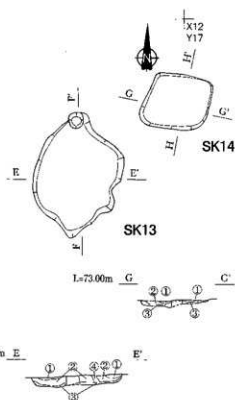
- ① 2.5Y2/1黒色粘質土+5.2暗灰黄色土5%
 ② 2.5Y3/2～5/1暗灰黄色粘質土=地山
 ③ ①+鉄分

SK12



SK12

- ① 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+4.2暗灰黄色土10%
 ② 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+4.2暗灰黄色土20%+焼土・炭
 ③ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+4.2暗灰黄色土5%
 ④ 2.5Y2/1～3/1黒褐色粘質土
 ⑤ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土→漸移層
 ⑥ 2.5Y2/1～3/1黒褐色粘質土+4.2暗灰黄色土5%
 ⑦ 2.5Y2/1黒色土(やや粘質)+4.2暗灰黄色土20%

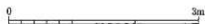


SK13

- ① 2.5Y2/1黒色土+③5%
 ② 2.5Y2/1黒色土+③10%
 ③ 2.5Y4/2暗灰黄色土=地山
 ④ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土
 ⑤ 2.5Y2/1黒色土+③20%

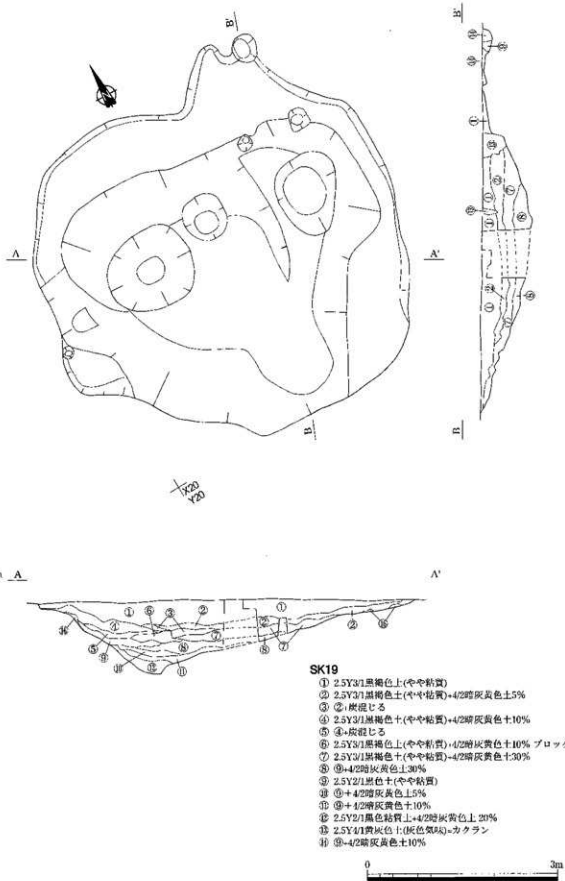
SK14

- ① 2.5Y2/1黒色土+③20%+焼土少量
 ② ③+焼土大量に混じる
 ③ 2.5Y4/2暗灰黄色土=地山

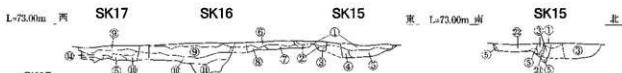


第35図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(8) (S=1:60)

SK19



第36図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(9) (S=1:60)

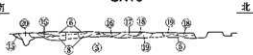


SK15

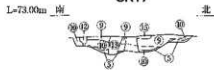
- ① ④+⑤10%
- ② ④+⑤5% +炭
- ③ ④+⑤5%
- ④ ①+炭
- ⑤ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土=地山
- ⑥ ④+⑤5% +炭少量
- ⑦ ④+⑤5% -鉄分
- ⑧ ④+⑤10% +焼土
- ⑨ ④+⑤5%
- ⑩ ④+⑤10%
- ⑪ 2.5Y2/1 黒色粘質土+④10% +炭
- ⑫ ④+③暗オリーブ褐色土10%
- ⑬ 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)
- ⑭ 2.5Y2/1 黒色粘質土+④5%
- ⑮ 2.5Y2/1 黒色土上
- ⑯ ④+⑤10%
- ⑰ 2.5Y3/1 ~ 2/1 黒褐色土+鉄分
- ⑱ ④+⑤10%
- ⑲ ④+⑤5%
- ⑳ 2.5Y2/1 黒色粘質土+⑤10%
- ㉑ ④+⑤10%
- ㉒ 2.5Y2/1 ~ 3/1 黒褐色土+3/3暗オリーブ褐色土20%

L=73.00m 南

SK16

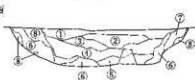


SK17



SD01

L=73.00m 北西



SD03

L=73.00m 南



SD07

L=73.00m 西



SD03

- ① 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)+4/2暗灰黄色土10%ブロック状
- ② 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)+3/3暗オリーブ褐色土20%
- ③ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土(やや粘質)=赤褐色

SD01

- ① 2.5Y3/1 黒褐色土(やや粘質) (やや茶色)
- ② 2.5Y3/1 黒褐色土(やや粘質)+2.5Y4/3 オリーブ褐色土5%
- ③ 2.5Y3/2 黒褐色土(やや粘質)+2.5Y4/3 オリーブ褐色土5%
- ④ 2.5Y3/1 黒褐色土(やや粘質)+2.5Y4/3 オリーブ褐色土5% +炭、小石少量
- ⑤ 2.5Y2/1 黒色粘質土+2.5Y4/3 オリーブ褐色土10% +炭
- ⑥ 2.5Y3/1 黒褐色粘質土+2.5Y4/3 オリーブ褐色土30%
- ⑦ ⑤+2.5Y3/1 赤褐色土20%
- ⑧ 2.5Y4/3 オリーブ褐色土(やや粘質)=地山

SD07

- ① 2.5Y3/1 黒褐色土+③5%
- ② 2.5Y3/1 黒褐色土+④10%
- ③ 2.5Y3/1 黒褐色土+③20%
- ④ 2.5Y3/2 暗灰黄色土=地山

SD06

L=73.00m 西



SD06 (X10)

L=73.00m 南



SD06

- ① ②+⑤5%
- ② 2.5Y2/1 黒色土
- ③ ②+⑤30%
- ④ ②+⑤10% (2/1ブロック状)
- ⑤ ②+⑤30%
- ⑥ 2.5Y4/2 暗灰黄色土=地山

SD06 (X10)

- ① 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)+4/2暗灰黄色土+5%
- ② 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)+4/2暗灰黄色土+5%
- ③ 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)+4/2暗灰黄色土+10%

L=73.00m 南



L=73.00m 南



L=73.00m 南



L=73.00m 東

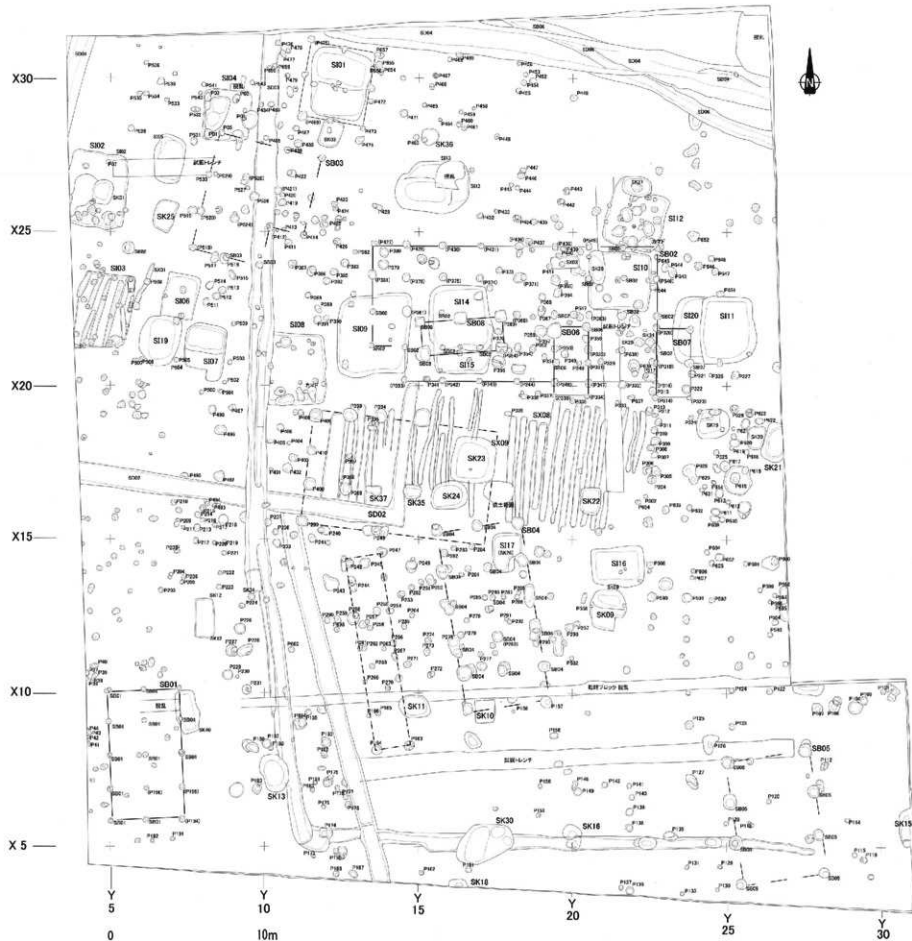


SX33 ~ 37

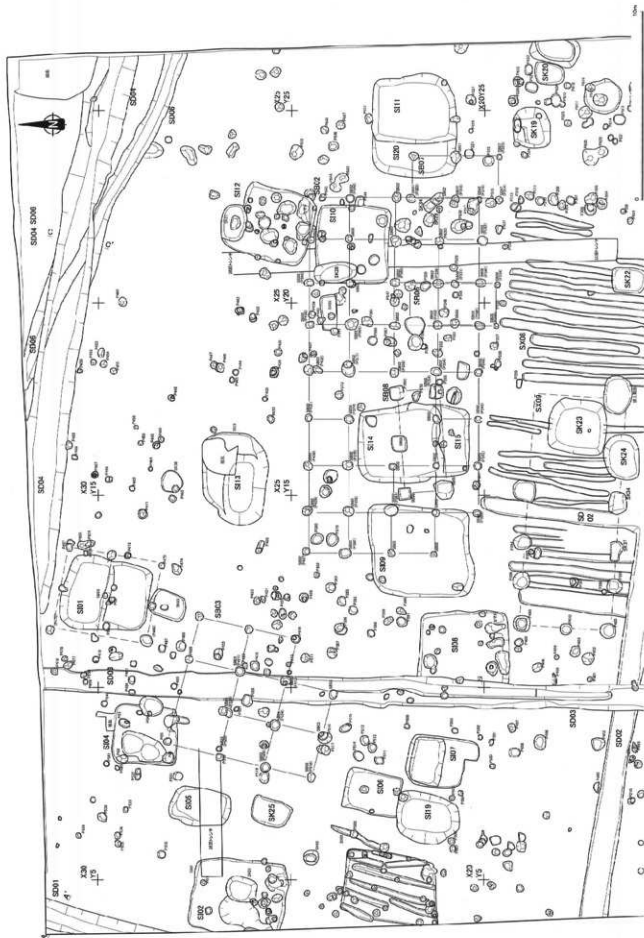
- ① 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)+鉄分+③5%
- ② 2.5Y2/1 黒色土(やや粘質)+鉄分+③10%
- ③ 2.5Y4/2 暗灰黄色土



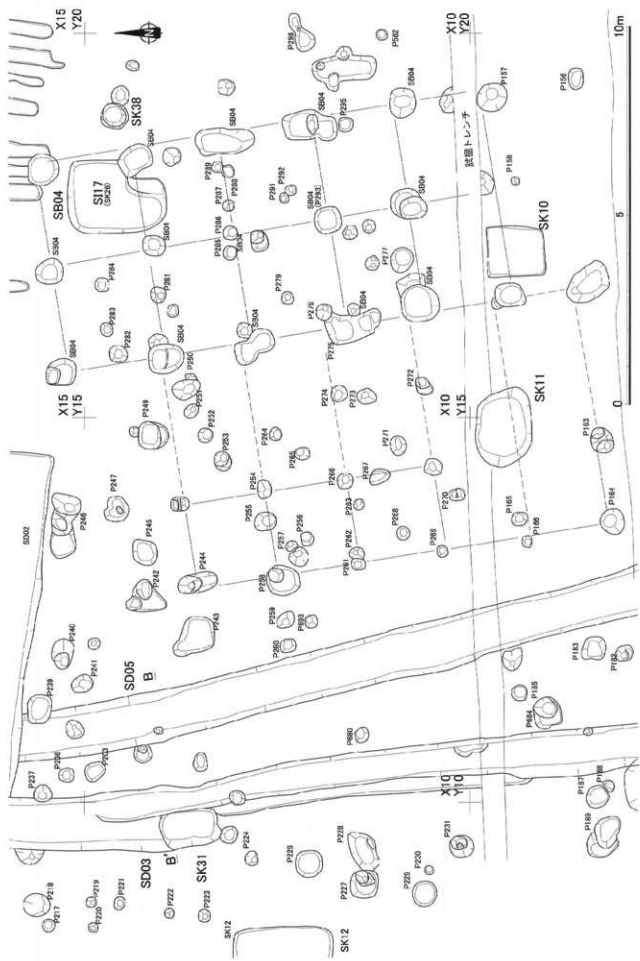
第37図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(10) (S=1:60)



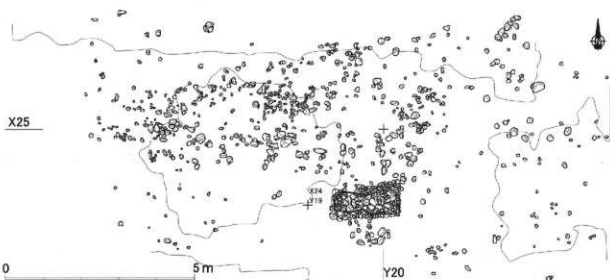
第38図 梅原胡摩堂遺跡26地区 平面図 (S=1:250)



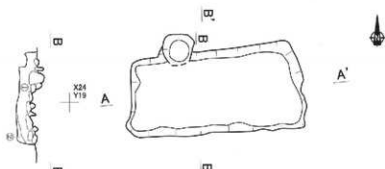
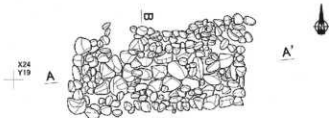
第39図 栴原胡摩堂遺跡26地区の遺構(1) (S-1:200)



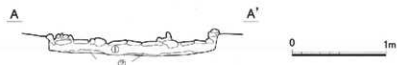
第40図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(2) (S=1:100)



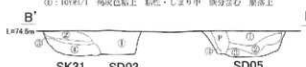
SX03



- ①: 19VK2/1 黒色土 粘液中・しまり弱
 目録記述の上に加山砂混じる
 ②: 19VK1.7/1 黒色土 粘液中・しまり弱 高硬質



- ①: 2.5K3/1 黒褐色粘土 粘性・しまり強 鉄分多く含む
 ②: 2.5K3/2 黒褐色土 粘性・しまり中 砂褐色土を含む
 ③: 2.5K4/2 暗褐色粘質土 粘液中・しまり弱 崖部ブロック混じり
 ④: 19VK1/1 暗褐色粘土 粘性・しまり中 鉄分含む 崖部土



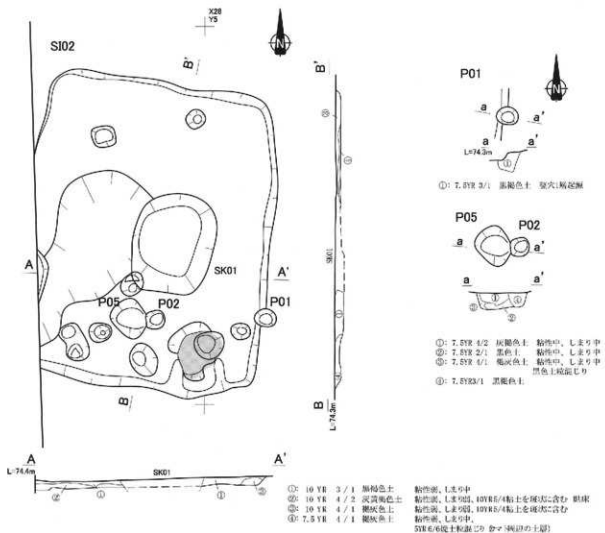
- ①: 19VK1/1 黒褐色土 粘性・しまり中
 ②: 19VK1/2 暗褐色土 粘性・しまり中
 ③: 19VK2/1 暗褐色粘質土 粘性・しまり中
 ④: 19VK2/2 黒褐色土 粘性・しまり中



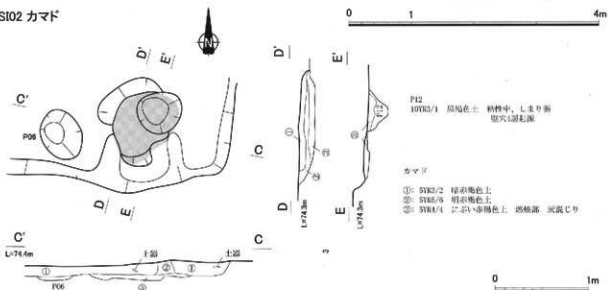
- ①: 19VK4/2 灰黄色土 粘液中
 ②: 19VK3/1 灰褐色土 粘性・しまり中 基本層序層粘結 小礫混じり
 ③: 19VK2/2 黒褐色土 粘性・しまり中 崖部砂子含む
 ④: 19VK4/3 濃い灰褐色土 粘液中・しまり強 黒色土粒・山砂粒
 ⑤: 2.5K3/2 黒褐色土 粘液中・しまり弱 崖部シルト混じり
 ⑥: 2.5K3/2 暗褐色土 粘性・しまり中 崖部ブロック混じり
 ⑦: 2.5K3/2 暗褐色土 粘性・しまり中 崖部土
 ⑧: 2.5K3/2 黒褐色土 粘性・しまり中 崖部土粒が中に入る
 ⑨: ⑨=SD04, ⑩=SD06

- ①: 19VK2/1 白色土 粘性・しまり中
 ②: 19VK1/1 黒褐色土 粘性・しまり中
 ③: 19VK4/1 黒褐色土 粘性・しまり強 崖部ブロック混じり

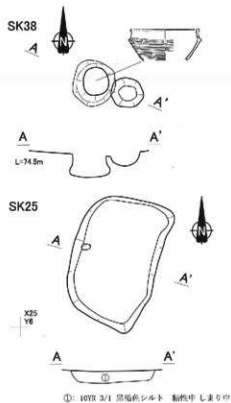
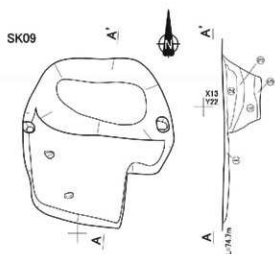
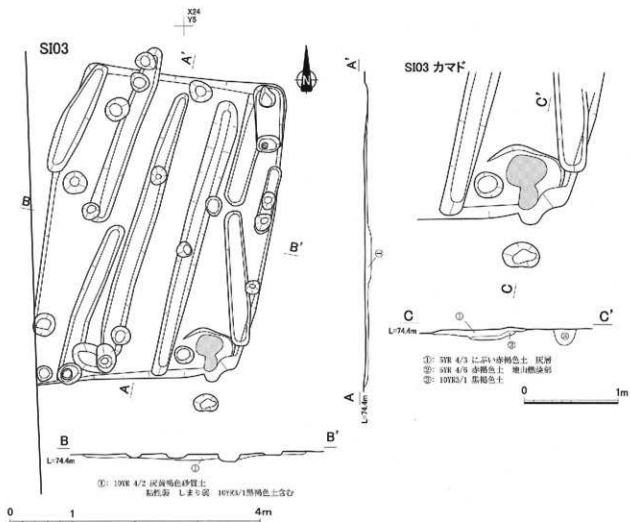
第41図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(3) (S=1:30, 1:40, 1:100)



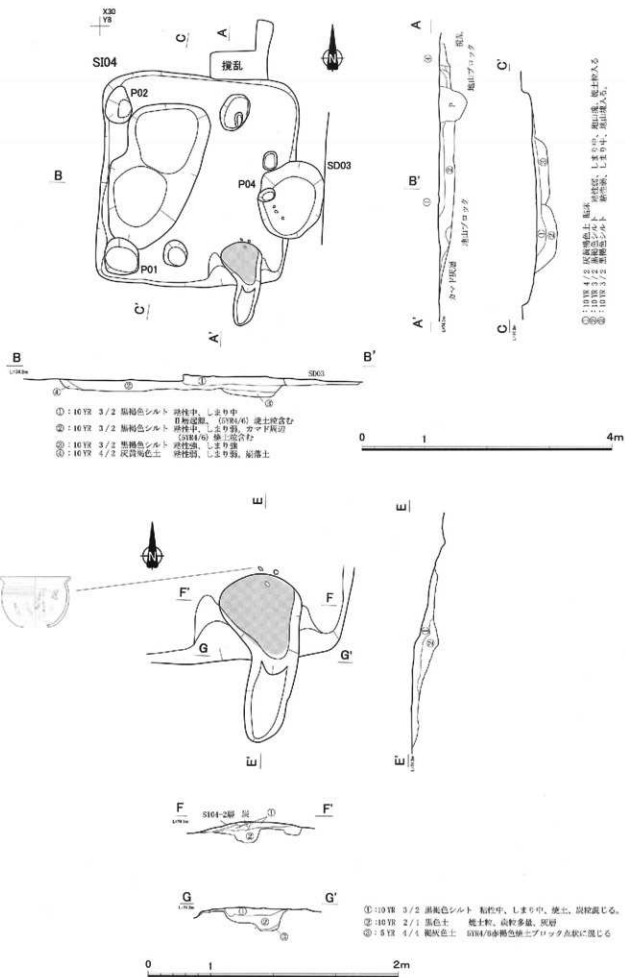
SI02 カマド



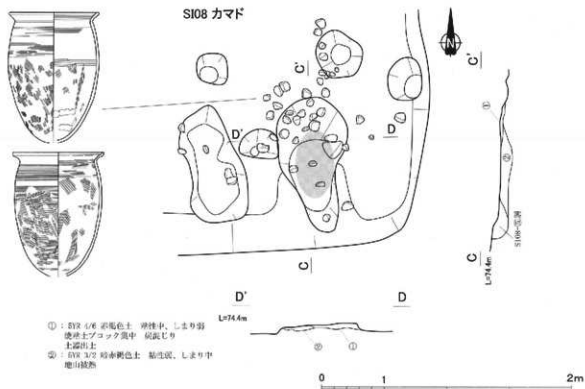
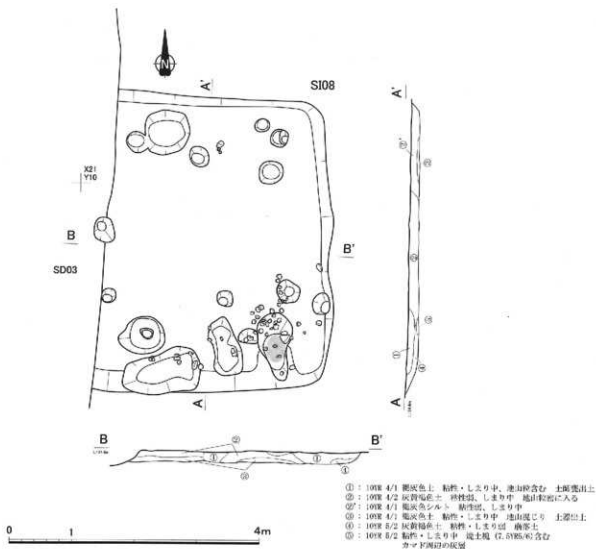
第42図 梅原胡麻堂遺跡26地区の遺構(4) (S=1:40, 1:60)



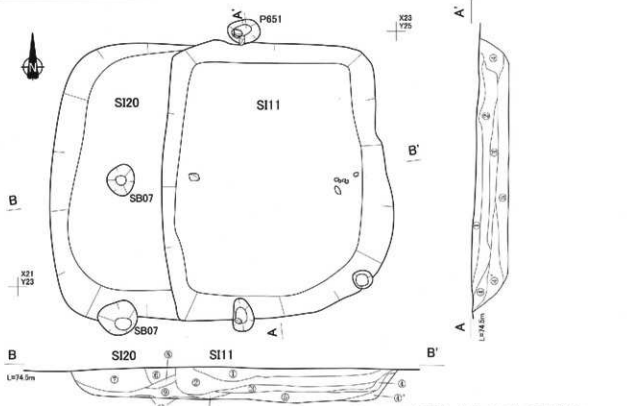
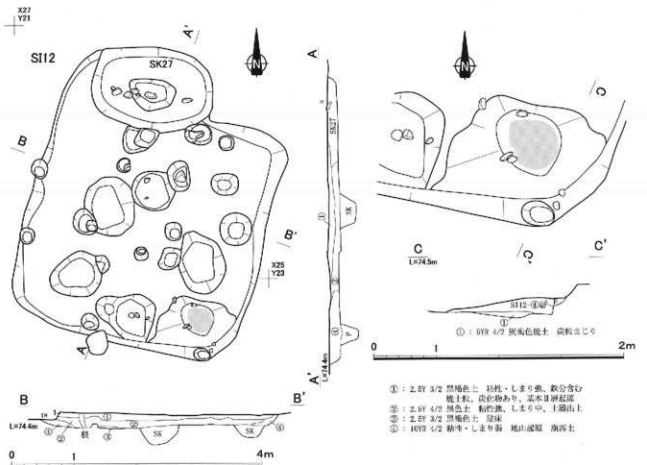
第43図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(5) (S=1:40, 1:60)



第44図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(6) (S=1:30, 1:60)

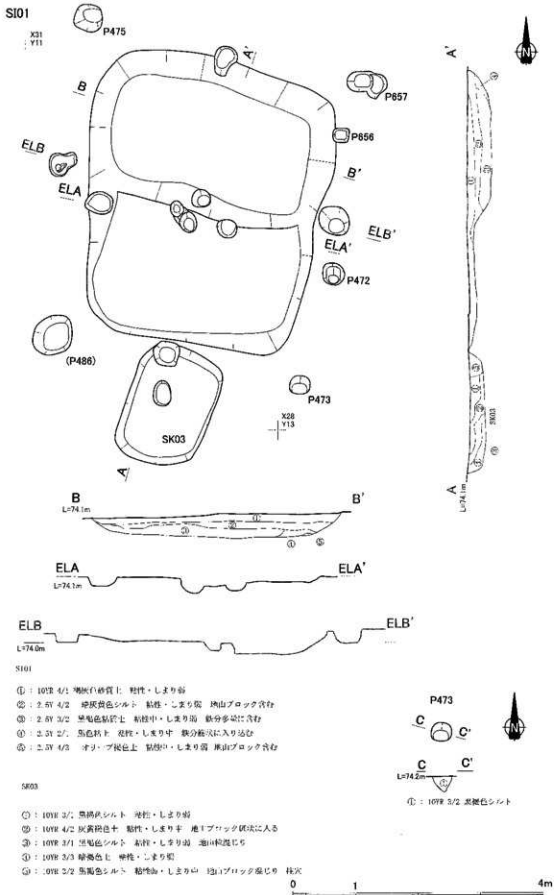


第45図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(7) (S=1:30, 1:60)

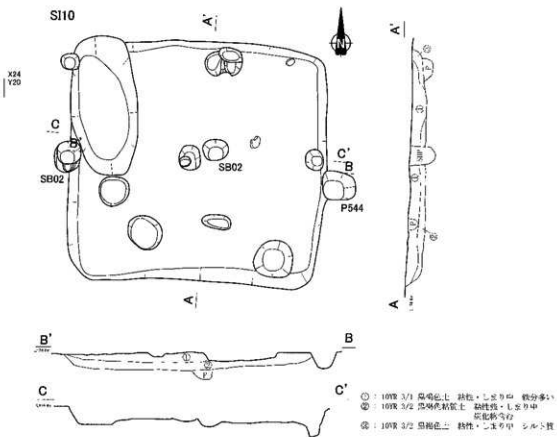
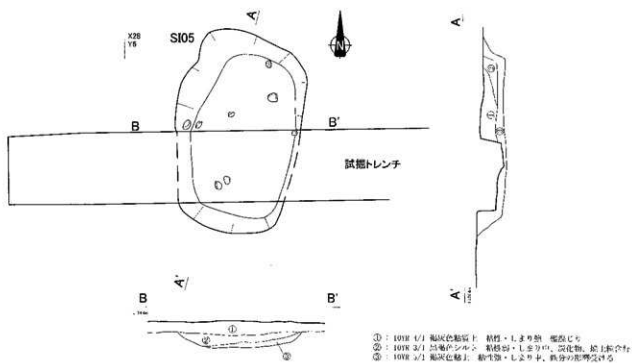


- ① : 2.5V 5/3 黄褐色土 粘粒・しまり中
 ② : 2.5V 4/3 オリーブ褐色土 粘粒・しまり弱 褐色粘土含む
 ③ : 2.5V 5/3 黄褐色土 粘粒強、しまり中
 ④ : 2.5V 4/1 黄褐色土 粘粒・しまり中 ③層の粘土を含む
 ⑤ : 10V1 4/4 粘土土 粘粒・しまり弱 炭化粉・焼土塊が均質に混じる

第46図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(8) (S=1:30, 1:60)

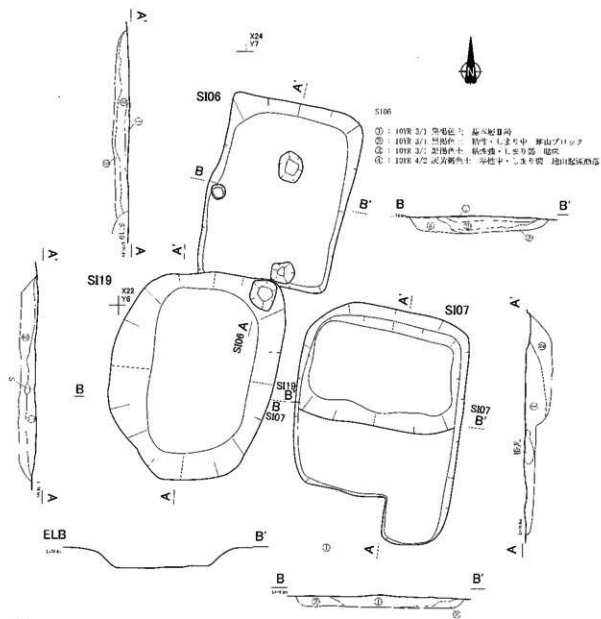


第47図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(9) (S=1:60)



0 1 4m

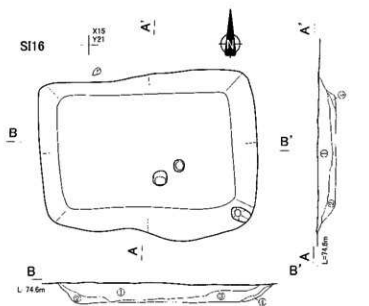
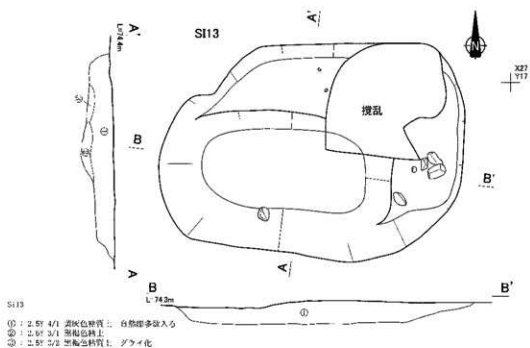
第48図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(10) (S=1:60)



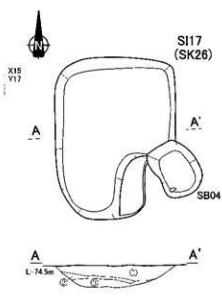
SI19
 ①: 109E 2/2 穿地柱: 柱中・しまり中 崖山ブロック裏面に入る
 ②: 109E 2/2 穿地柱: 柱中・しまり中 崖山ブロック裏面に入る

SI07
 ①: 109E 2/1 穿地柱: 柱中・しまり中 基本配直列 均し柱
 ②: 109E 2/2 穿地柱: 柱中・しまり中 崖山ブロック

第49図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(11) (S=1:60)



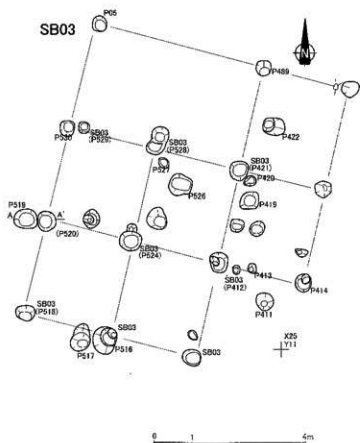
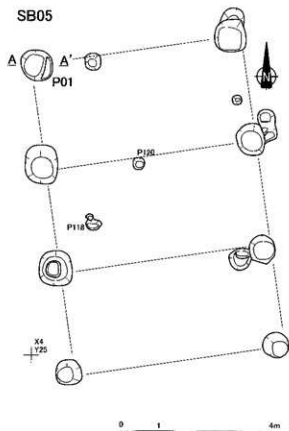
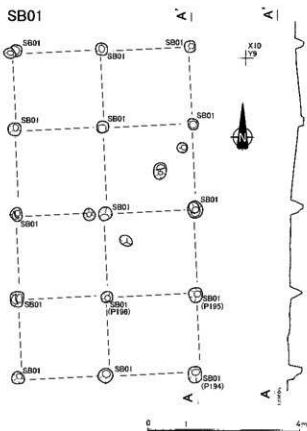
- SI16
- ① : 10F1 3/1 赤褐色土、粘性・しまり手、砂礫、鉄分含有
 - ② : 10F1 3/2 赤褐色土、粘性手・しまり手、灰沢地色 (10F15/2) シルトブロック
 - ③ : 10F1 3/2 赤褐色土、粘性・しまり手、2のシルトブロック多量
 - ④ : 10F2 4/1 灰灰色土、粘性・しまり手、シルトブロック



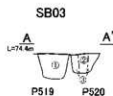
- SI17 (SK26)
- ① : 10F1 4/1 灰灰色土、粘性・しまり手、片層砂
 - ② : 10F1 4/4 2の赤・黄褐色土、粘性に基いた深じり状
 - ③ : 10F2 2/1 赤色土、粘性・しまり手、SK26



第51図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(13) (S=1:60)

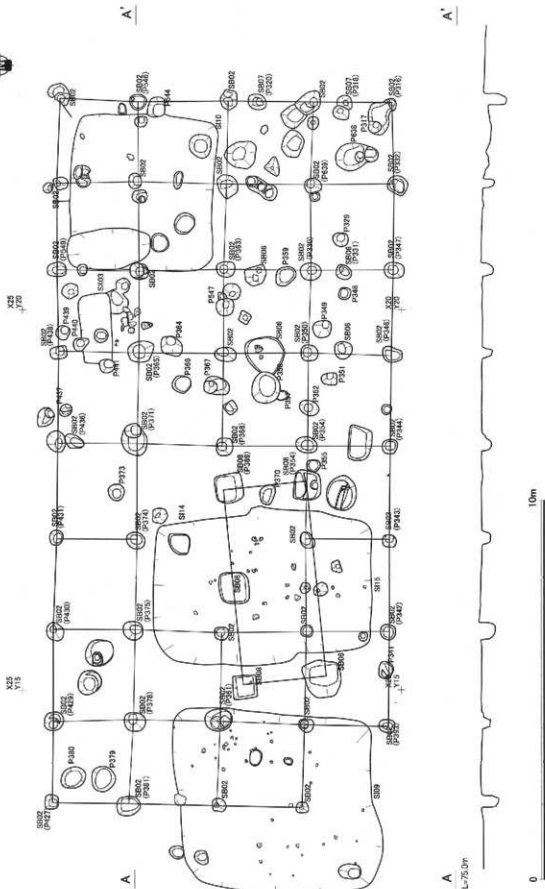


- ①: 10R3/3 暗褐色土 砂性・しまり少
- ②: 10R3/3 灰褐色土 砂性・しまり少
- ③: 10R3/1 黒褐色土 粘性・しまり中

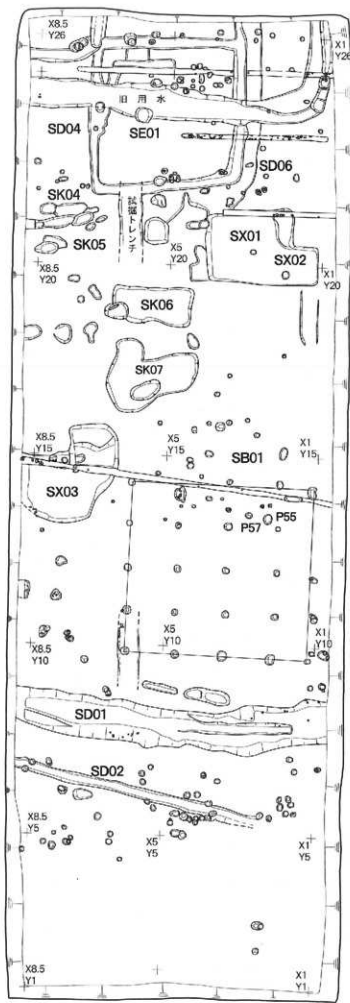


- ①: 10R3/2 灰褐色土 丸石・しまり少
- ②: 10R3/2 黒褐色土 粘性・しまり少
- ③: 10R4/3 灰褐色土 粘性・しまり中

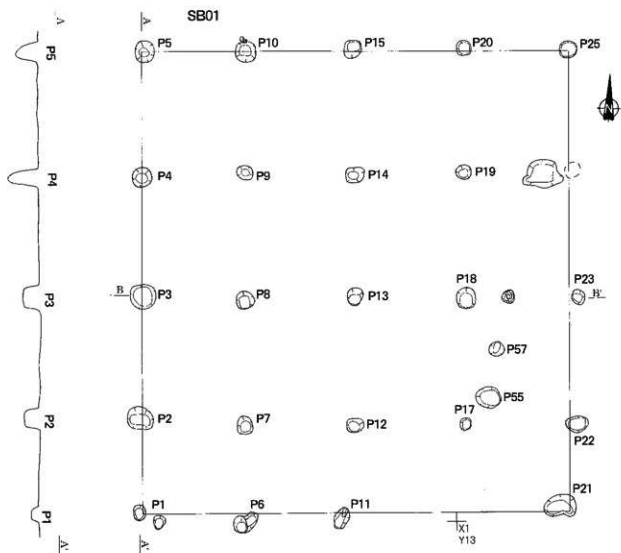
第52図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(14) (S=1:60, 1:100)



第53図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(15) (S=1:100)



第54図 神成遺跡11地区平面図 (S=1:200)



SB01

- P3 ① 10YR2/1黒色シルト+地山5% 1~2cm大の礫混じる
 P6 ① 10YR2/1黒色シルト 粗砂、礫混じる
 P13 ① 10YR1.7/1黒色シルト+地山砂質土5%
 P18 ① 10YR1.7/1黒色シルト+地山砂質土5%
 P58 ① 10YR2/1黒色シルト+地山砂質土25%
 P23 ① 10YR1.7/1黒色シルト+地山砂質土20%
 ② 10YR1.7/1黒色シルト



- P55 ① 10YR2/2黒褐色シルト
粗砂、3~10cm大の礫多く
混じる
② 2.5Y2/1黒色シルト+
地山砂質土20%

IX2
IX13
L=73.60m

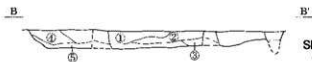
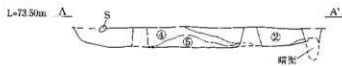
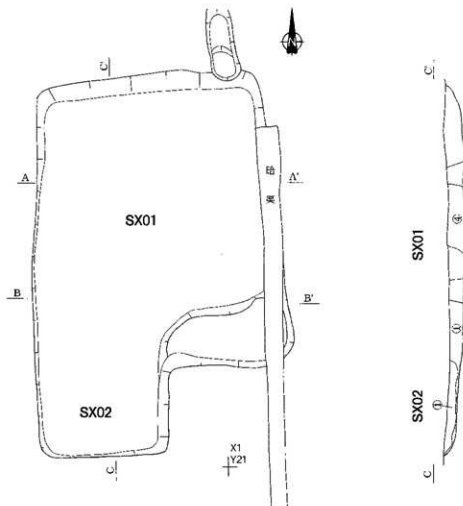


(L:80) 4m
2
(L:40) 2m



第55図 神成遺跡11地区の遺構(1) (SB01はS=1:80、P55は1:40)

SX01

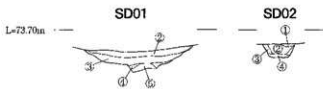


SX01

- ① 10YR2/1黒色シルト+地山30%
- ② 10YR2/1黒色シルト
- ③ 10YR2/1黒色シルト+地山20%
- ④ 地山+10YR2/1黒色シルト15%
- ⑤ 10YR1.7/1黒色シルト

SX02

- ① 10YR2/1黒色シルト+地山40%



SD01

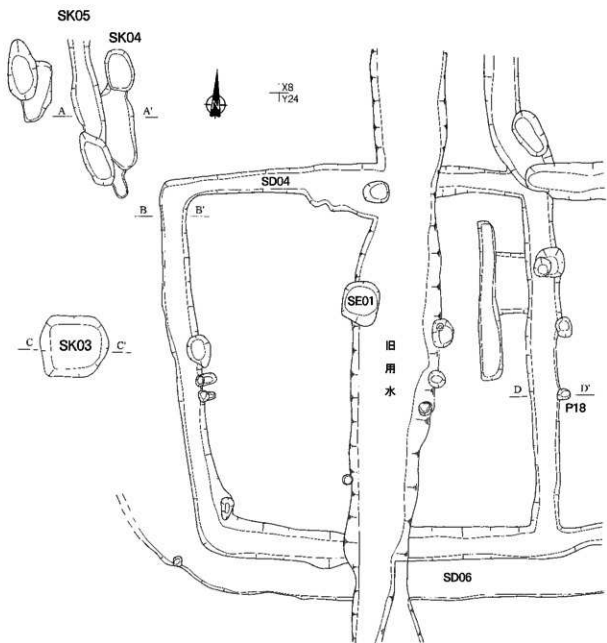
- ① 10YR2/2黒褐色シルト
- ② 2.5Y2/1黒色シルト
- ③ 10YR2/1黒色シルト 粗砂、1~3cm大の礫混じる
- ④ 10YR3/2黒褐色シルト 粗砂、1~3cm大の礫混じる
- ⑤ 5Y3/1黒褐色シルト 粗砂、礫混じる+10Y4/1灰色15%

SD02

- ① 地山+10YR2/2黒褐色シルト
- ② 10YR1.7/1黒色シルト
- ③ 10YR2/2黒褐色シルト+地山砂質土20%
- ④ 10YR2/1黒色シルト+地山砂質土10%
- ⑤ 10YR1.7/1黒色細砂1~3cm大の礫多く混じる



第56図 神成遺跡11地区の遺構(2) (S=1:60)



L=73.50m A SK05・04 A'



B SD04 B'



C SK03 C'



D SD04 P18 D'



SK03 ① 10YR2/1黒色シルト+地山砂質±10%

SK04 ① 10YR2/1黒色シルト+地山40%

SK05 ① 10YR2/1黒色シルト

SD04 ① 2.5Y2/1黒色シルト

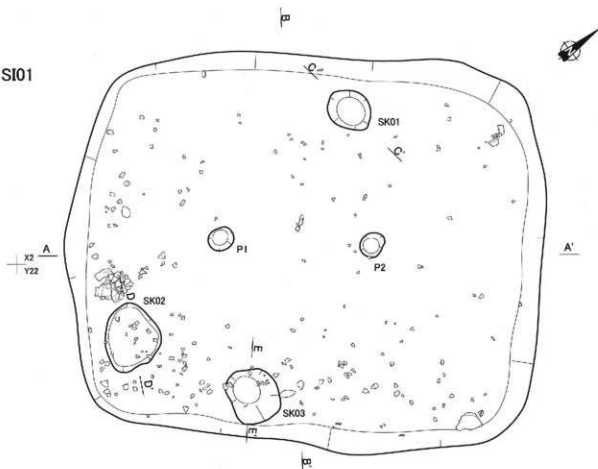
② ①+地山粘質±40%

P18 ① 2.5Y2/1黒色粘質土

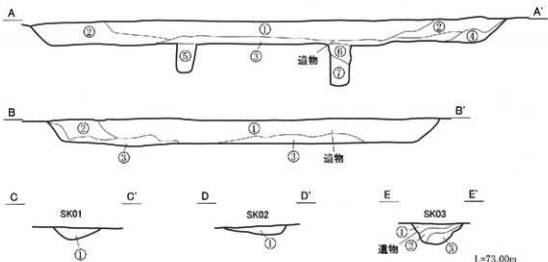
0 1 2 4m

第57図 神成遺跡11地区の遺構(3) (S=1:80)

SI01

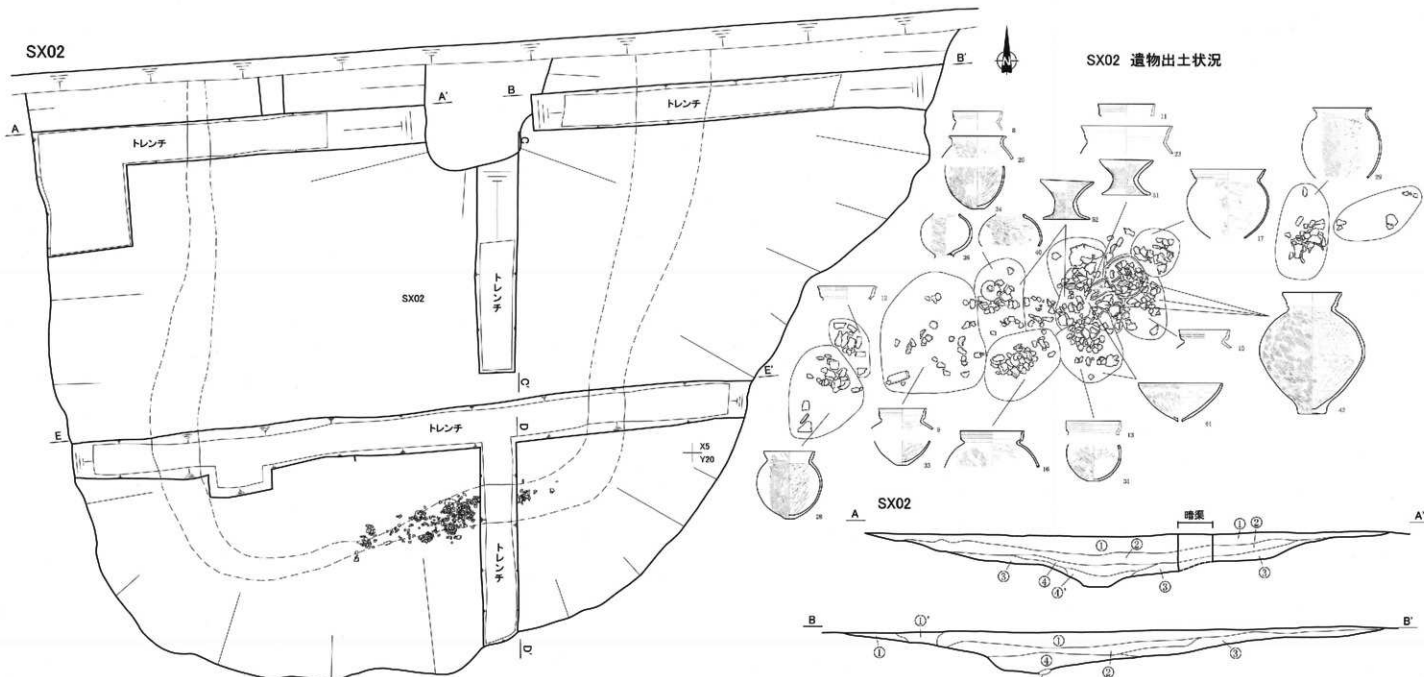


SI01

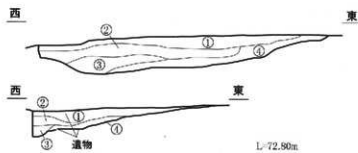


SI01

- ① 10YR1.7/1黒色粘質土・2をブロック状に5% 鉄分含む
 ② 2.5Y3/3暗褐色粘質土 鉄分含む 細砂混じる
 ③ ①+焼山50%
 ④ ②+焼山30%
 P1 ⑤ 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土 炭化物をしみ状に10% 鉄分含む
 P2 ⑥ 2.5Y3/1黒褐色粘質土 炭化物をしみ状に10% 鉄分含む
 ⑦ 2.5Y2/1黒褐色粘質土 鉄分含む
 SK01 ① 2.5Y2/1黒褐色粘質土 鉄分含む
 SK02 ① 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土・2.5Y3/1黒褐色粘質土 鉄分含む
 SK03 ① 2.5Y3/1黒褐色粘質土 炭化物少量・鉄分・遺物含む
 ② 10YR5/3にぶい黄褐色粘質土 鉄分含む
 ③ 10YR5/3にぶい黄褐色粘質土①をしみ状に10% 鉄分・遺物含む



SX01

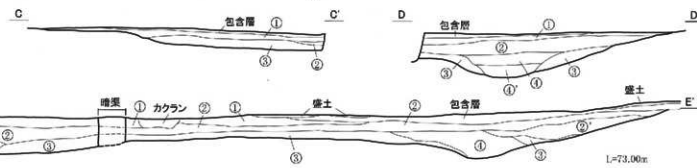


SX01

- ① 10%2/1黒色粘質土 鉄分含む、しまり強い
- ② 5%2/1黒色粘質土 鉄分少量を含む
- ③ 5.5%2/1黒色粘質土 14%砂、骨
- ④ 2-地山50%

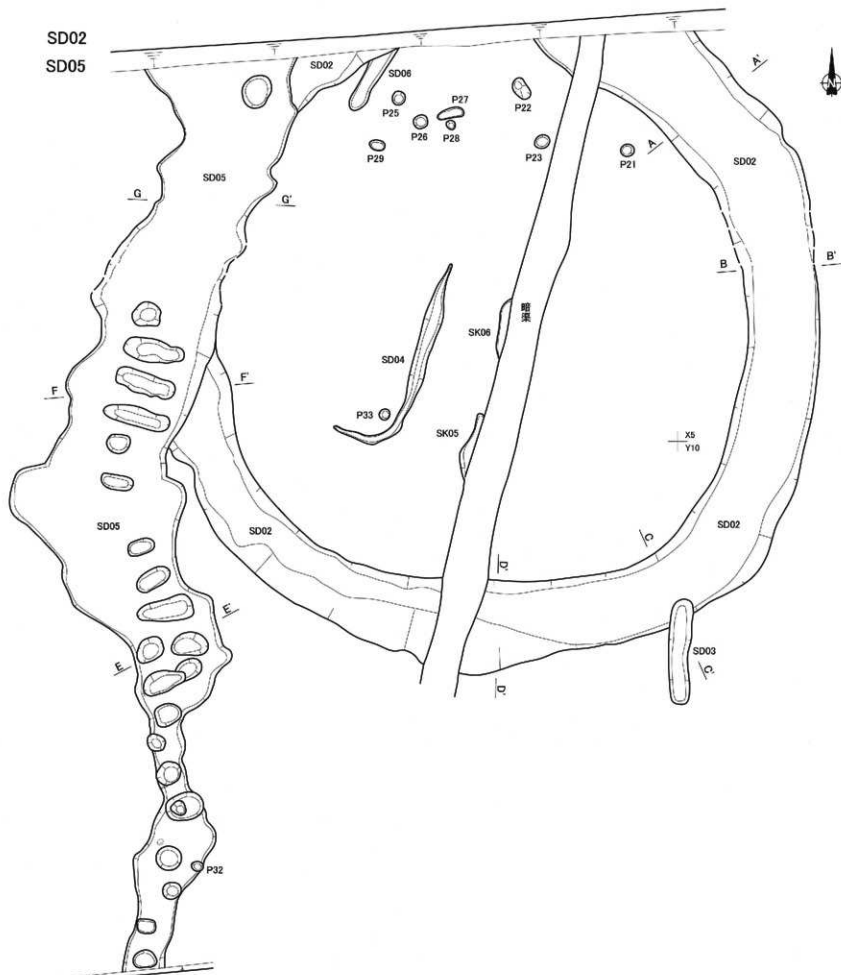
第60図 神成遺跡12地区の遺構(2) (S=1:30, S=1:60, S=1:80)

SX02



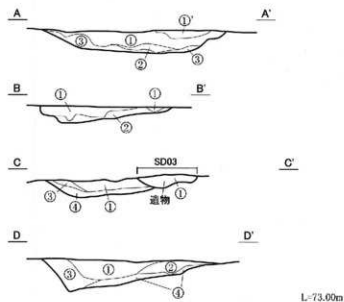
- ① 2.5%3/1黒褐色粘質土 鉄分多量を含む、粘性強い
- ② 2.5%3/1黒褐色粘質土 砂混じる 鉄分多量を含む
- ③ 2.5%2/1黒色粘質土 砂混じる 鉄分少量含む
- ④ 2-2.5%3/2黒褐色粘質土 砂混じる 鉄分少量含む
- ⑤ 2.5%2/1黒色粘質土+60%地山 鉄分多量を含む
- ⑥ 5%2/1黒色粘質土 14%骨一層 わずかに鉄分含む
- ⑦ ⑤+7.5%3/2オリーブ黒色粘質土



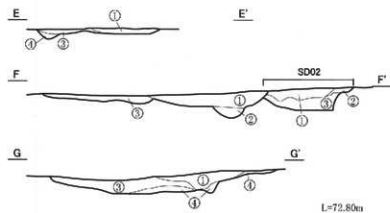


第61図 神成遺跡12地区の遺構(3) (S=1:40, S=1:80)

SD02



SD05



SD02

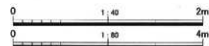
- ① 10YR 7/1 黒色粘質土 鉄分含む
- ①' ①+10R 8/4 褐色粘質土+ブロック状に10%
- ② ①+地山しみ状に50% 鉄分含む
- ③ 2. 6Y 3/1 黒褐色粘質土+地山しみ状に10% 鉄分含む
- ④ 2. 6Y 4/2 暗灰褐色粘質土 鉄分多量を含む

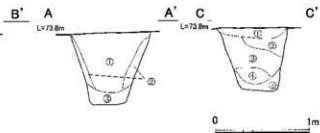
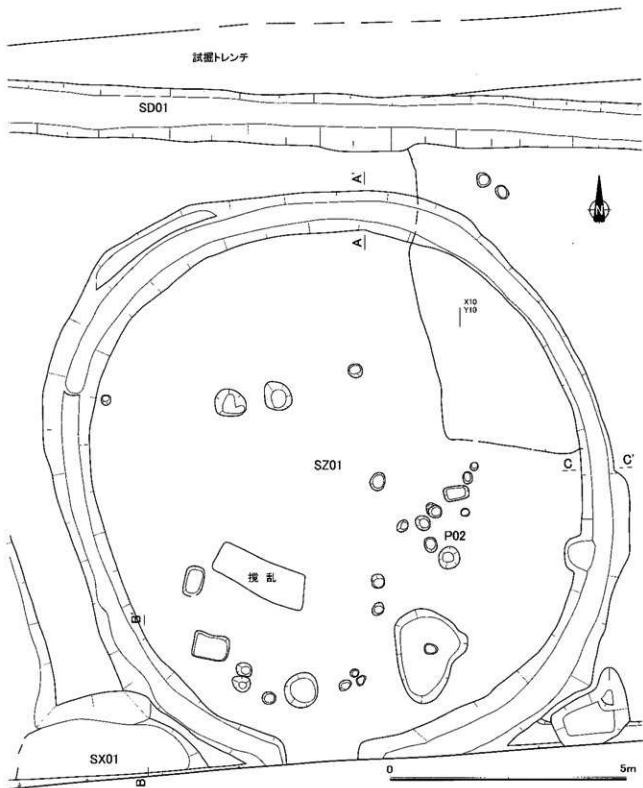
SD03

- ① 10YR 7/1 黒色粘質土+地山5% 鉄分多量を含む

SD05

- ① 10YR 2/3 黒褐色粘質土 鉄分多量に基じる 鉄分含む
- ② 2. 6Y 3/1 黒色粘質土 粗砂状に基じる
- ③ 2. 6Y 3/2 暗オリーブ褐色粘質土 鉄分含む
- ④ ③+地山10%

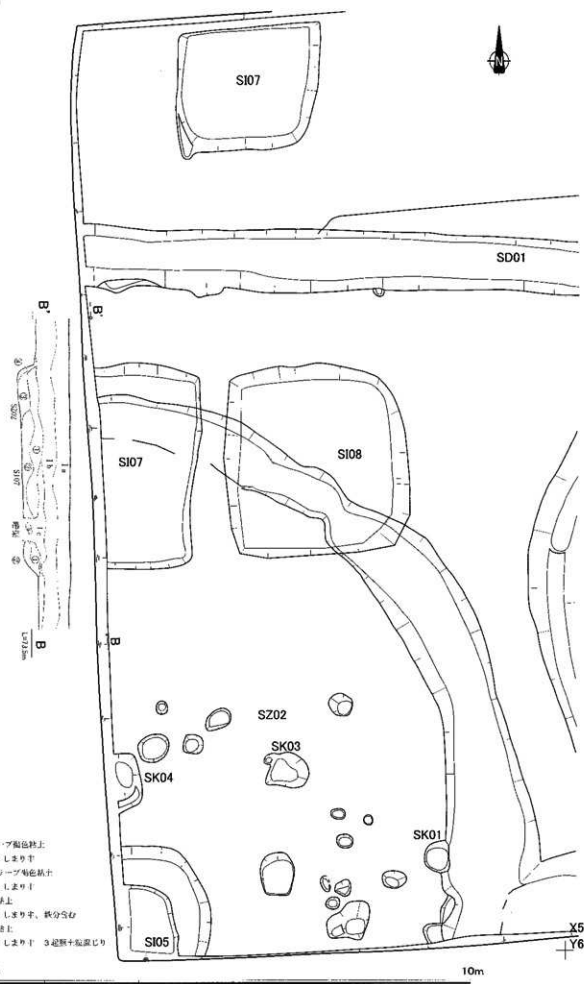




- ①: 2.8Y 5/2 焼成褐色土 瓦片中・L.200mm 残分3枚
- ②: 2.0Y 5/3 黄褐色粘土 粘粒状・L.290mm 堆山ブロック
- ③: 2.0Y 3/1 深褐色土 粘生土・L.280mm 似軟泥コリ定地物上
- ④: 2.5Y 2/1 赤シズル 粘生・L.290mm 定物出土
- ⑤: aH0 5/1 黄褐色シルト
- ⑥: 2.0Y 3/1 黄褐色粘土 粘生・L.290mm
- ⑦: 2.0Y 3/1 黄褐色シルト 粘粒中・L.290mm 1個2枚

第63図 神成遺跡13地区の遺構(1) (S=1:40, 1:80)

Y0

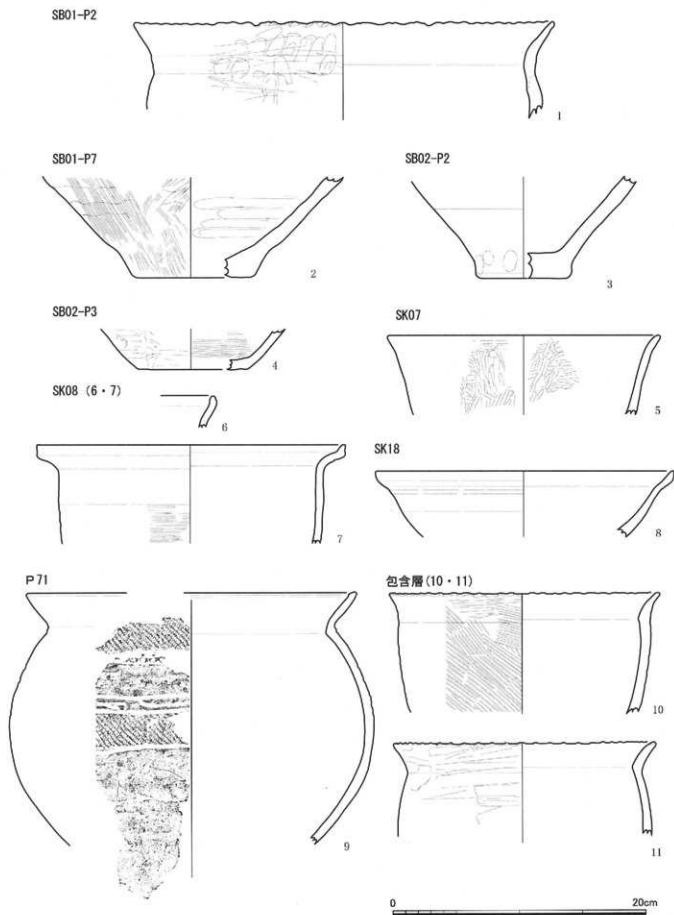


- ①: 2.5Y 4/3 セリ・ブ褐色粘土
副仲壁・シマリテ
- ②: 2.5Y 3/3 粘ネリ・ブ褐色粘土
副仲壁・シマリテ
- ③: 2.5Y 2/1 赤色粘土
副仲壁・シマリテ、灰分含む
- ④: 4Y6/1 赤褐色粘土
副仲壁・シマリテ 3 磁器・瓦類

X5
Y6

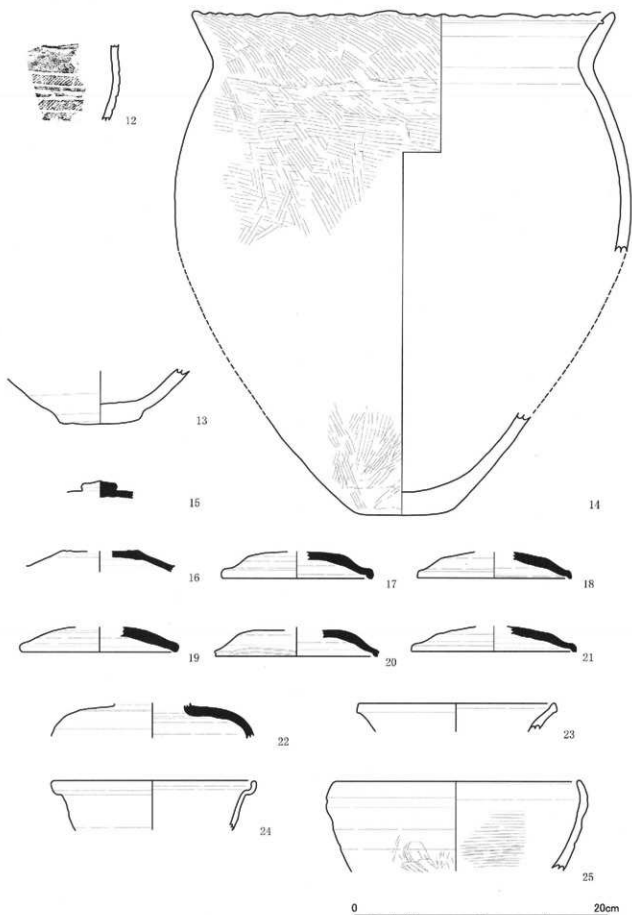
0 10m

第64図 神成遺跡13地区の遺構(2) (S=1:80)

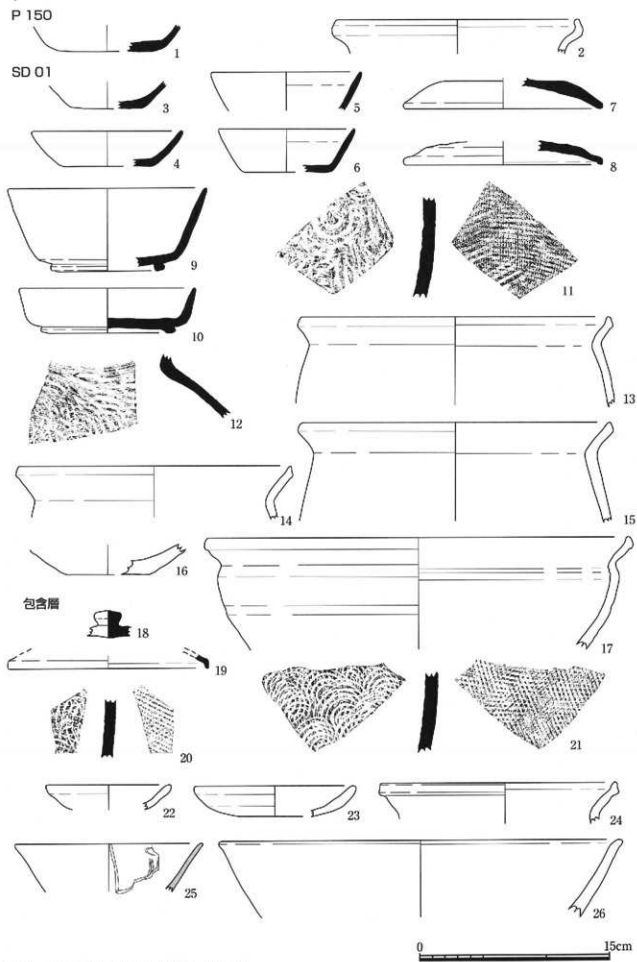


第65図 宗守遺跡4地区の遺物(1) (S-1:3)

包含層 (12~25)



第66図 宗守遺跡4地区の遺物(2) (S-1:3)



第67図 久戸遺跡1地区の遺物 (S=1:3)

SB02-P3



1

SD01 (5~10)

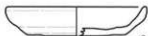


5



7

P208

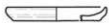


2



8

P267

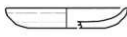


3

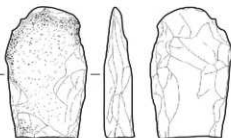


9

SD03



4



6



10

SD05 (11~17)



14



11



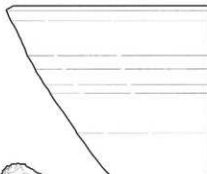
12



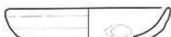
15



16



13



17

SD06



18



SD11

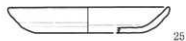
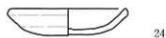
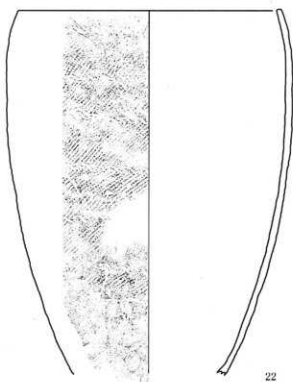
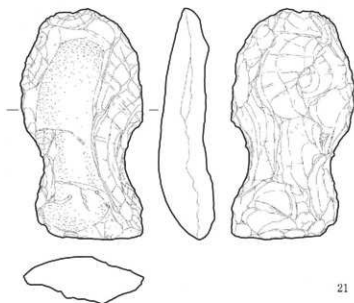
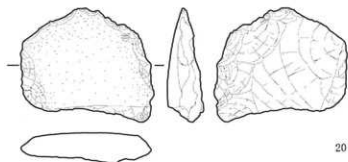


19

第68図 久戸遺跡2地区の遺物(1) (S=1:3)

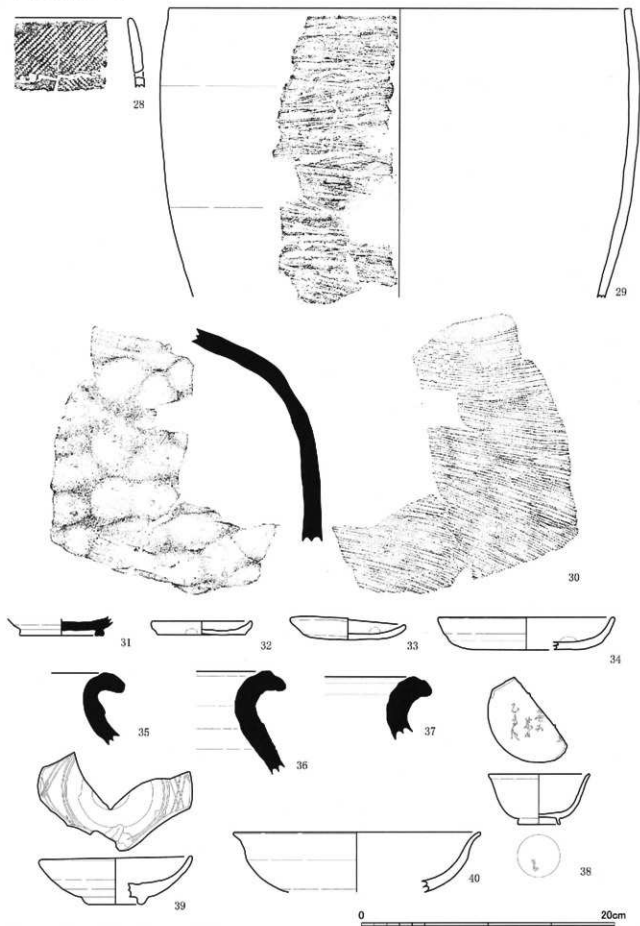
0 20cm

包含層(20~27)



第69図 久戸遺跡2地区の遺物(2) (S-1:3, 22のみ1:4)

近世近代層 (28~40)

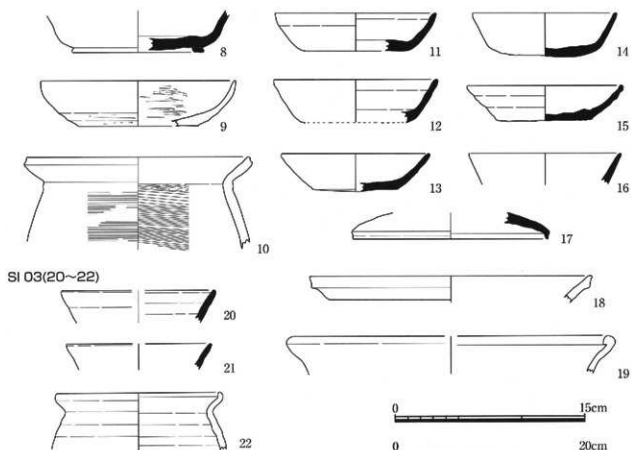


第70図 久戸遺跡2地区の遺物(3) (S-1:3)



SI 01(8~10)

SI 02(11~19)

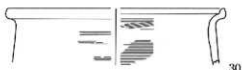
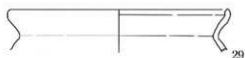


第71図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(1) 6・7 (S=1:4) 1~5、8~22 (S=1:3)

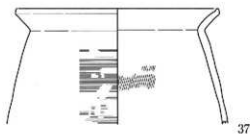
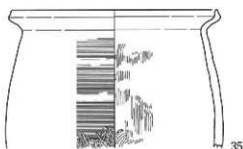
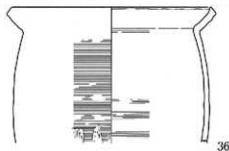
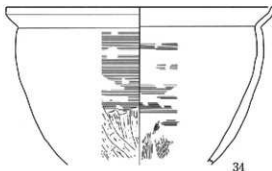
SI 04(23~26)



SI 05(27~30)



SI 06(31~37)

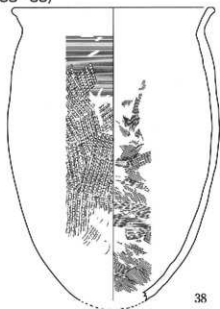


0 15cm

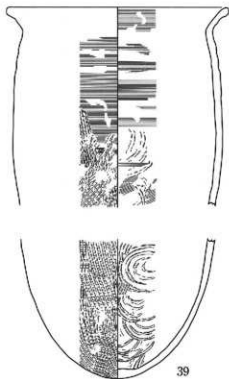
0 20cm

第72図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物② 23~26、30、34~37 (S=1:4) 27~29、31~33 (S=1:3)

SI 06(38・39)

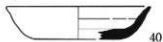


38



39

SI 07(40・41)



40



41

SI 09(42~50)



42



44



49



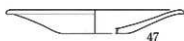
43



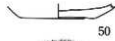
45



46



47



50



48



SI 10(51~55)



51



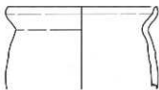
54



52



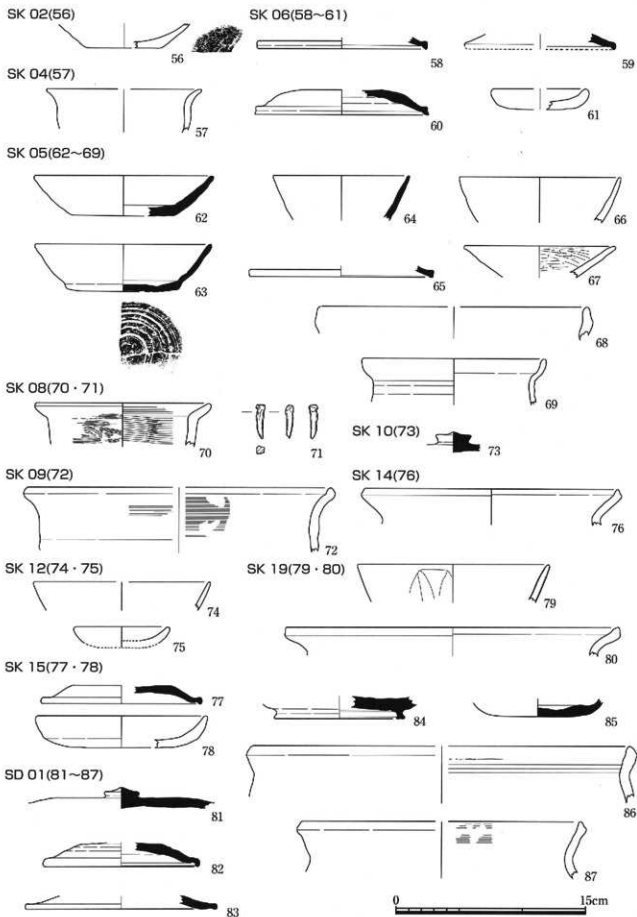
55



53

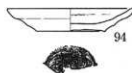
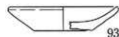
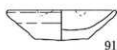
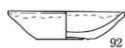
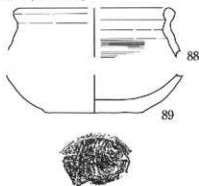


第73図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(3) 38・39・54・55 (S=1:4) 40~53 (S=1:3)



第74図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(4) (S=1:3)

SD 01(88~95)

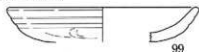


SD 02(96)

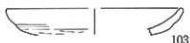
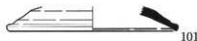


SD 03(97・98)

SD 05(99)

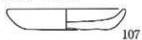


SD 06(100~106)

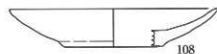


SX 02(112)

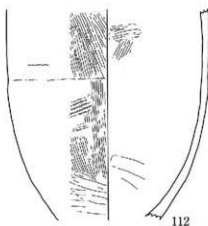
SD 07(107・108)



P 324(110)



P 153(111)

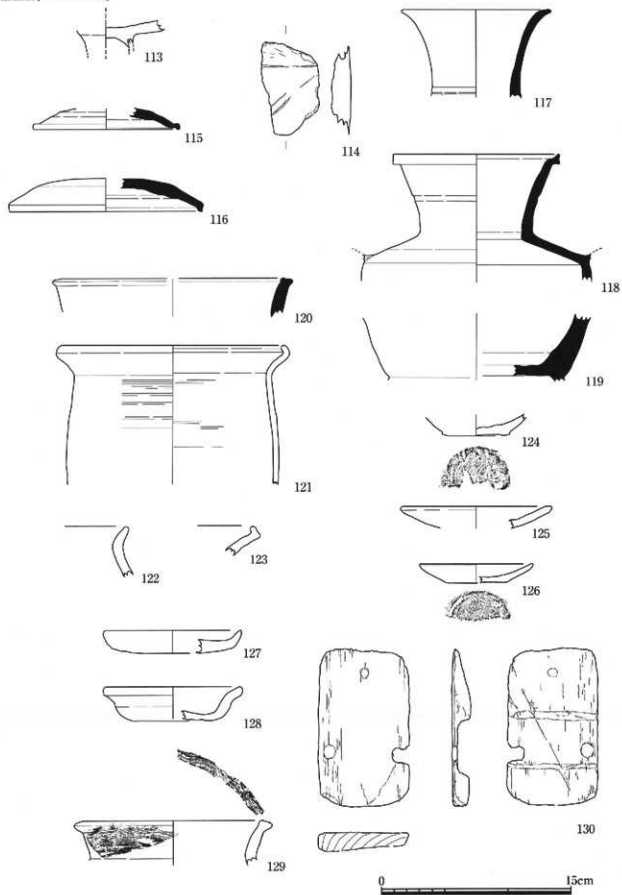


SD 09(109)

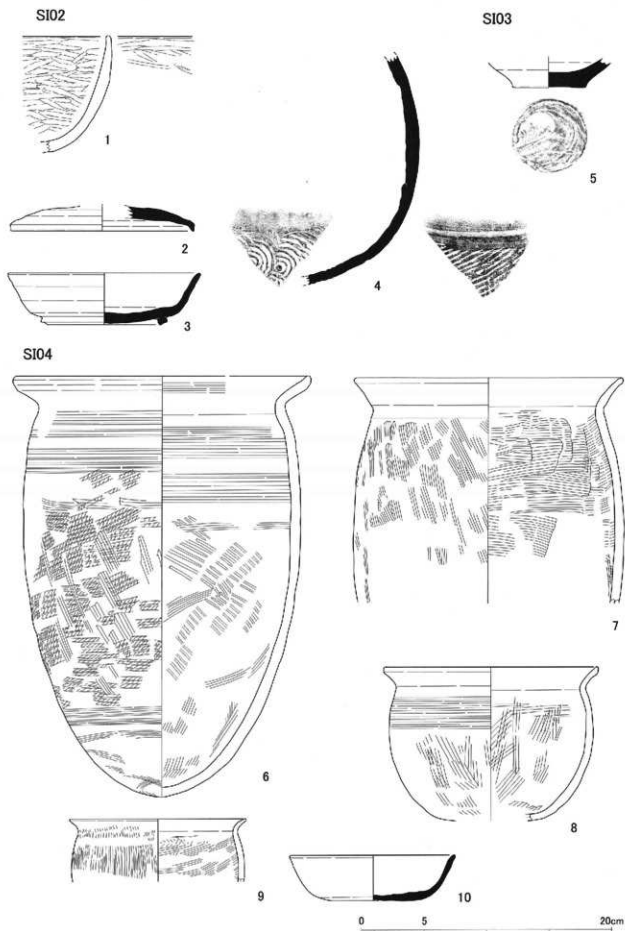


第75図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(5) 112 (S=1:4) その他 (S=1:3)

包含層(113~130)

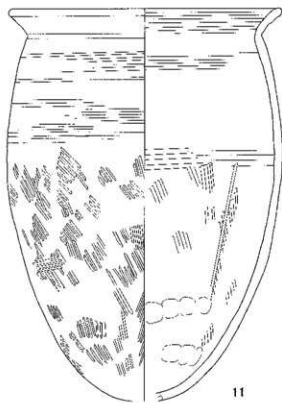


第76図 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(6) (S-1:3)

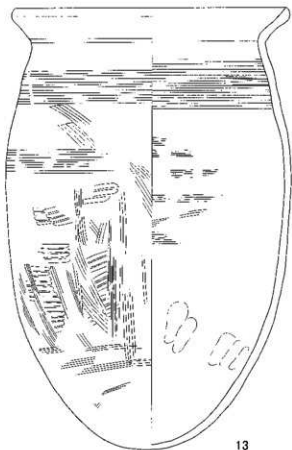


第77図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(1) (S=1:3)

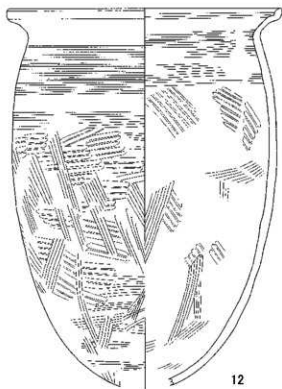
SI08



11



13



12



14



15



16

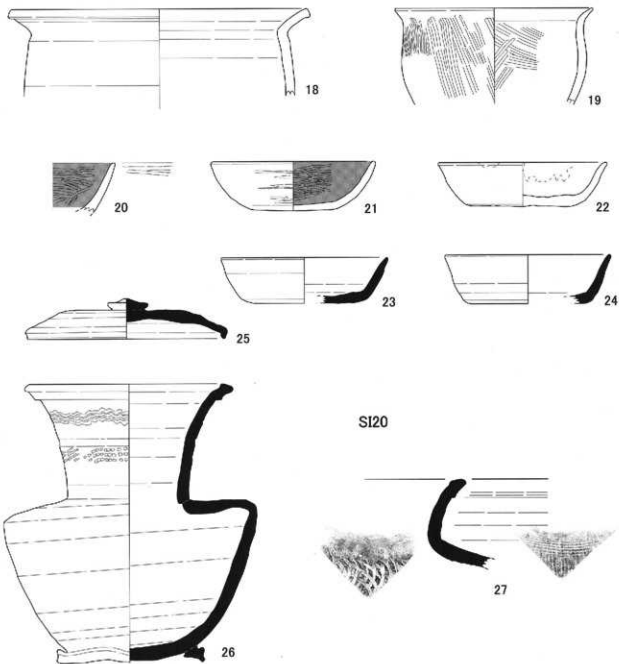


17

0 5 20cm

第78図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(2) (S=1:3)

SI12



SI20

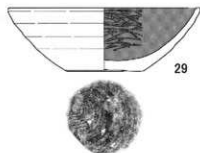


0 5 20cm

第79図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(3) (S=1:3)



SK09



SK15



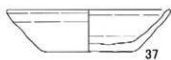
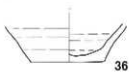
SK16



SK19



SK21



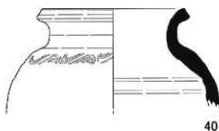
SK22



SK25

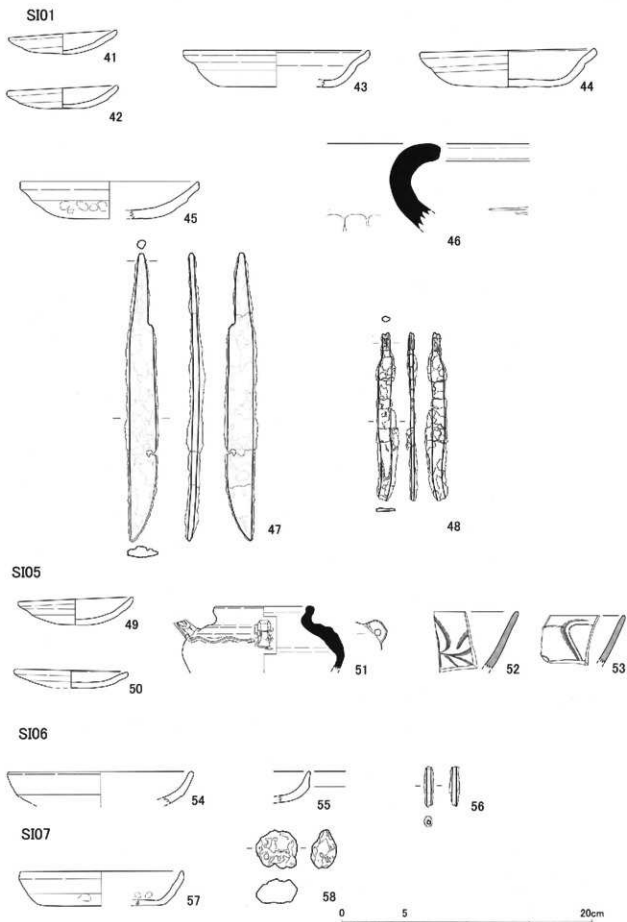


SK31



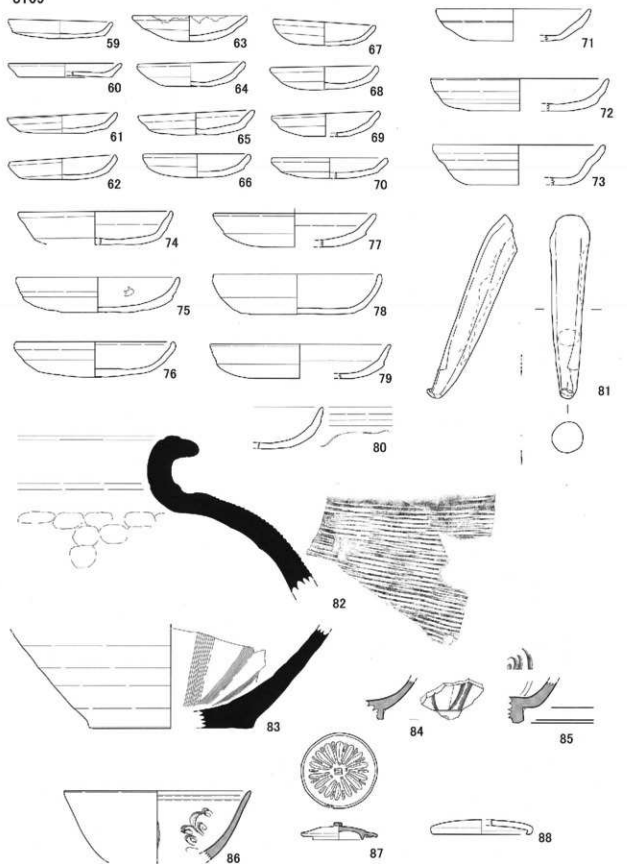
0 5 20cm

第80図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(4) (S=1:3)



第81図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(5) (S=1:3)

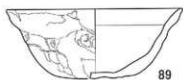
S109



0 5 20cm

第82図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(6) (S=1:3)

SI09



98



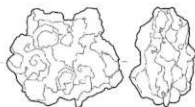
99



91



92



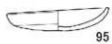
93



SI10



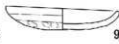
94



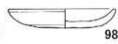
95



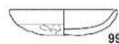
96



97



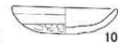
98



99



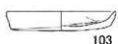
100



101



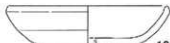
102



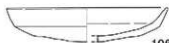
103



104



105



106



107



108



109



110

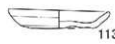


111



112

SI11



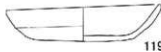
113



114



117



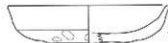
119



115

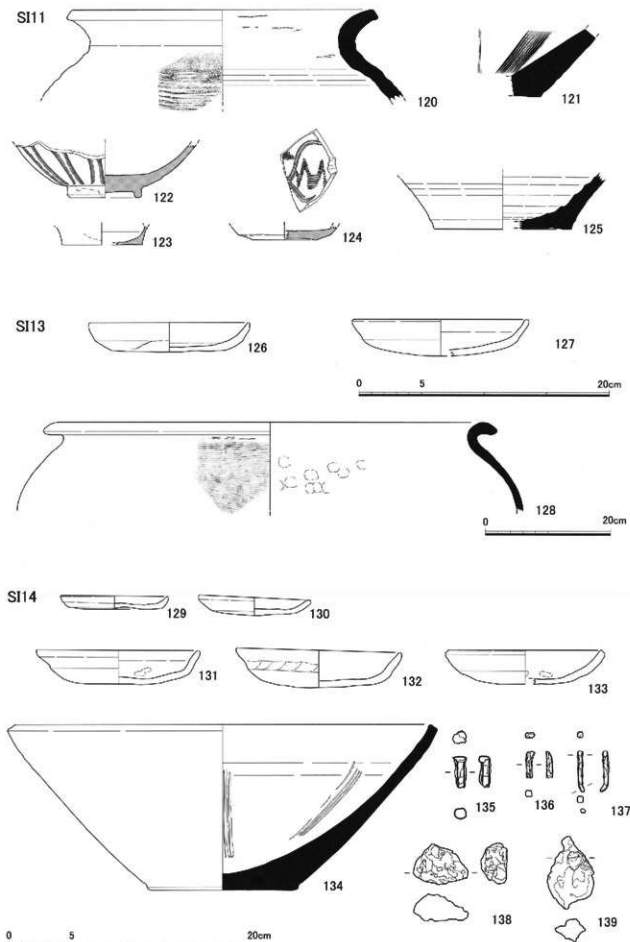


116

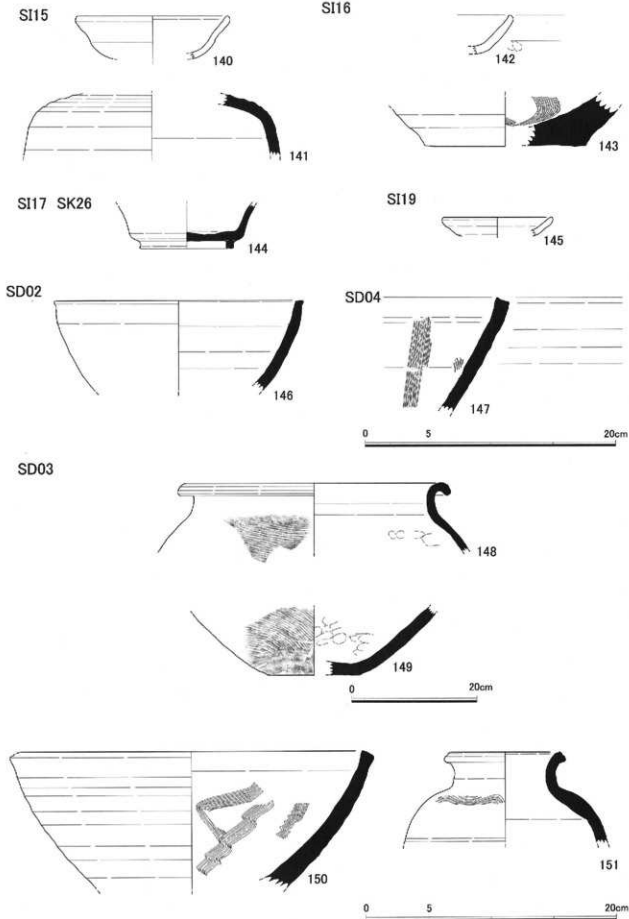


118

0 5 20cm

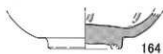
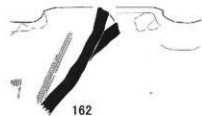
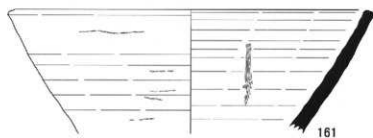
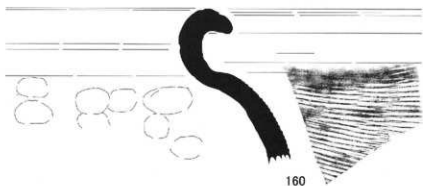
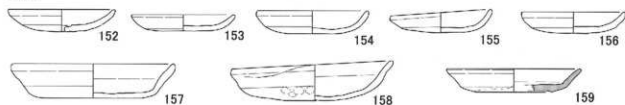


第84図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(8) (S=1:3, 1:6)

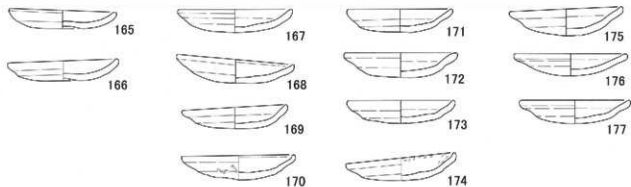


第85図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(9) (S=1:3, 1:6)

SX03



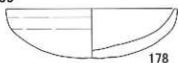
SB09(SK23)



0 5 20cm

第86図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(10) (S=1:3)

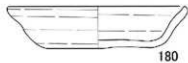
SB09



178



179



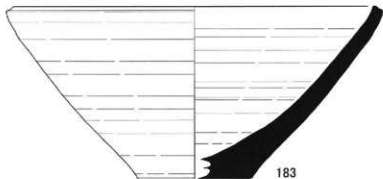
180



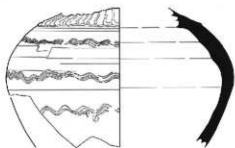
181



182



183



184

P347



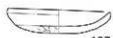
185

P106



186

P375



187

P349



188

X18-Y18



189



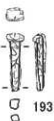
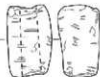
190



191



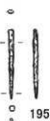
192



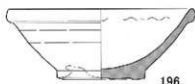
193



194



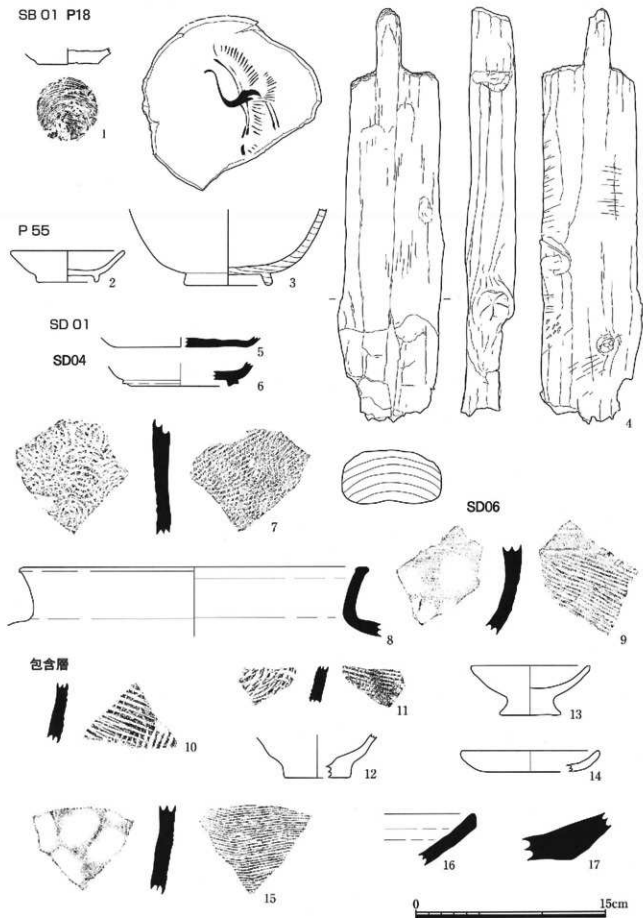
195



196

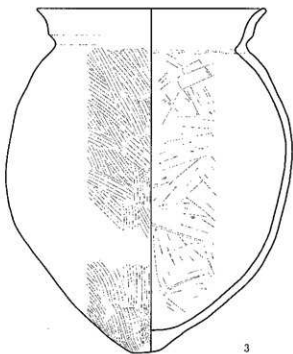
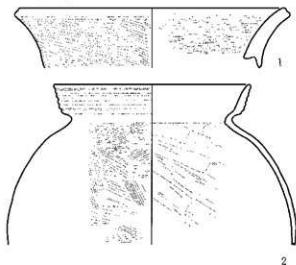
0 5 20cm

第87図 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(11) (S-1:3)

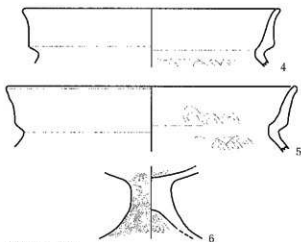


第88図 神成遺跡11地区の遺物 (S-1:3)

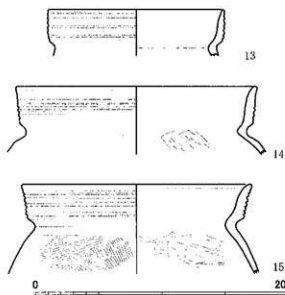
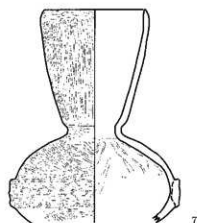
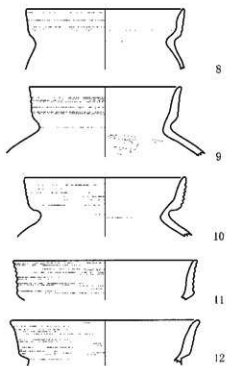
SI01 (1~3)



SX01 (4~7)

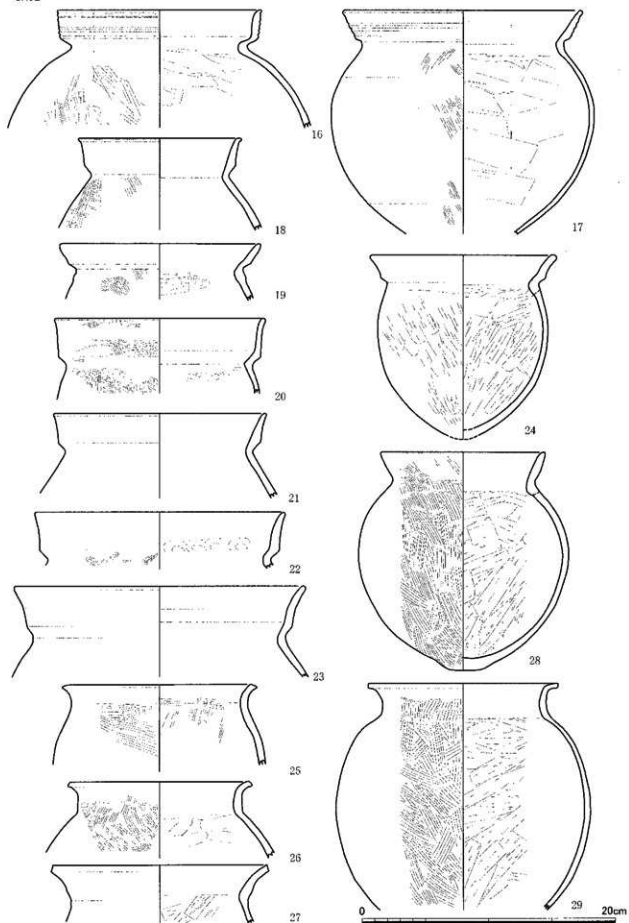


SX02 (8~61)



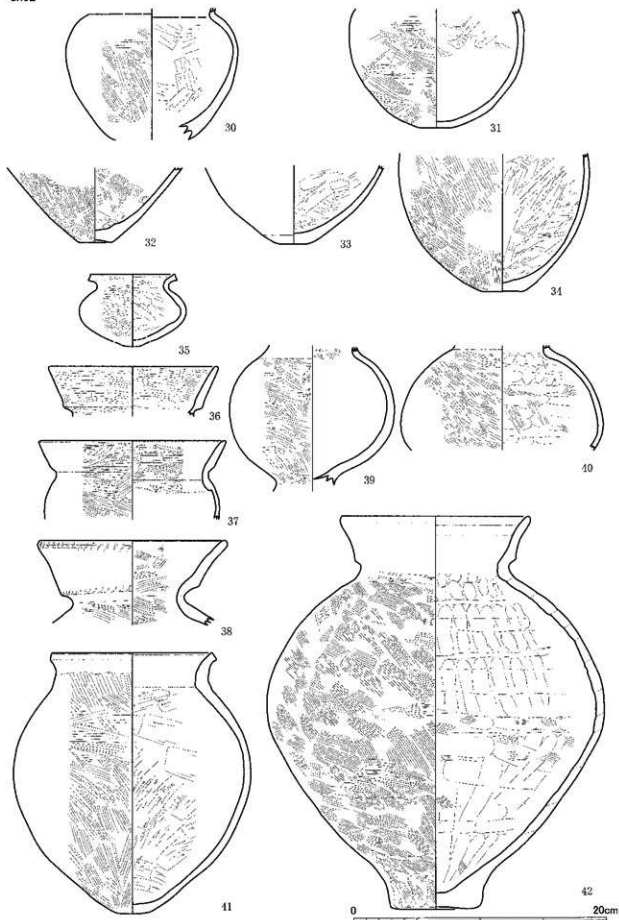
第89図 神成遺跡12地区の遺物(1) (S-1:3)

SX02



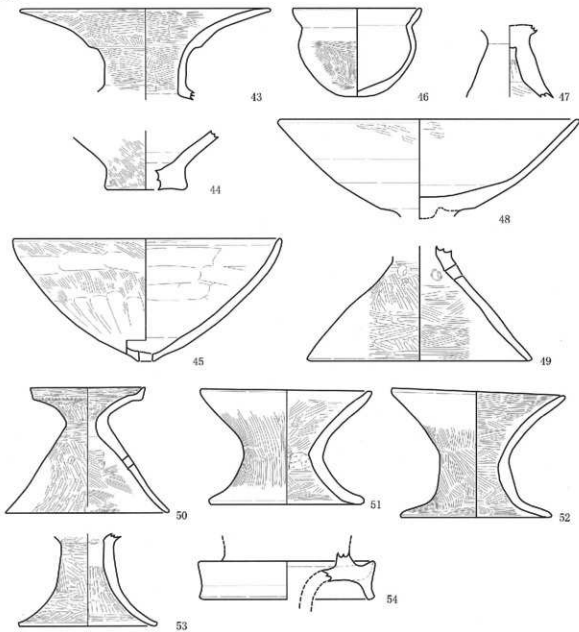
第90図 神成遺跡12地区の遺物(2) (S-1.3)

SX02

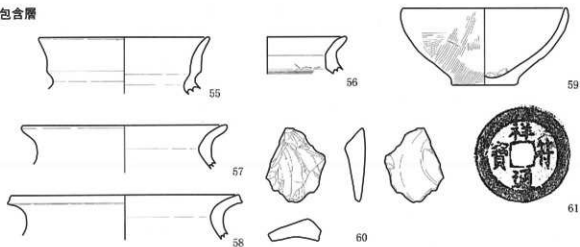


第91図 神成遺跡12地区の遺物(3) (S=1.3)

SX02

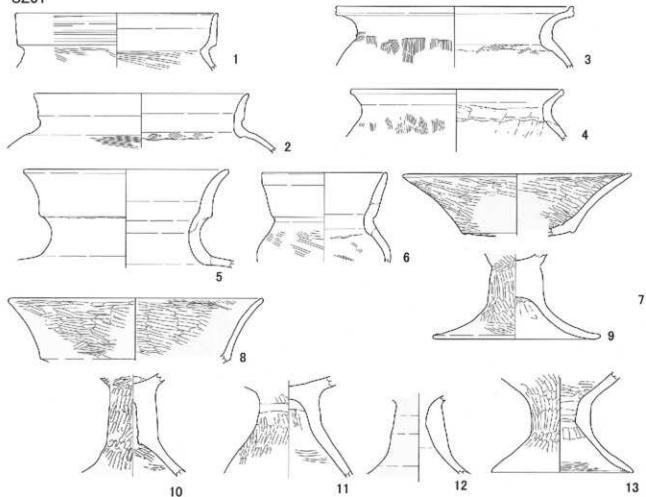


包含層

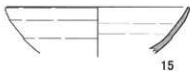


第92図 神成遺跡12地区の遺物(4) (S=1:3. 61のみ1:1)

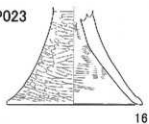
SZ01



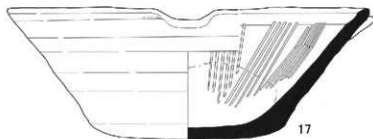
SI12



P023



SK05



SD01



SD03



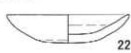
SI07



SD05



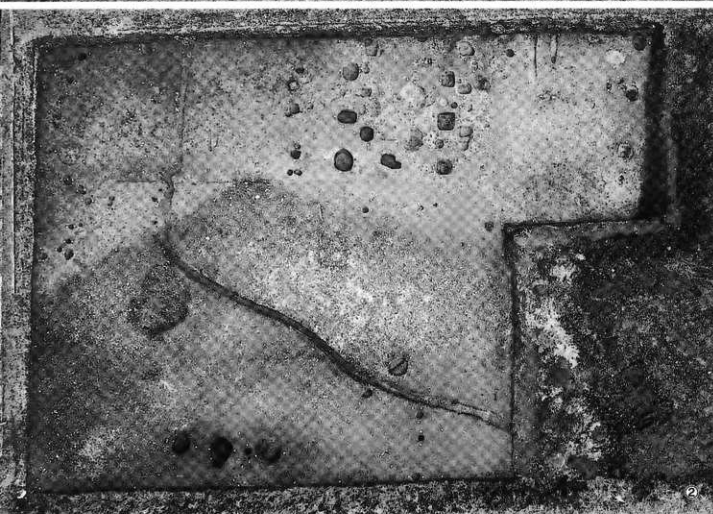
SD06



0 5 20cm

第93図 神成遺跡13地区の遺物(1) (S-1:2, 1:3)

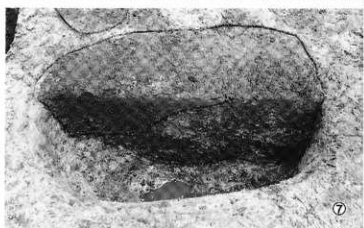
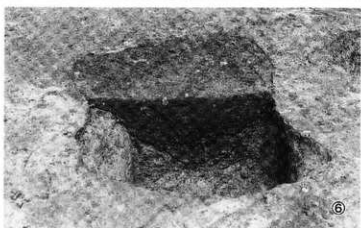
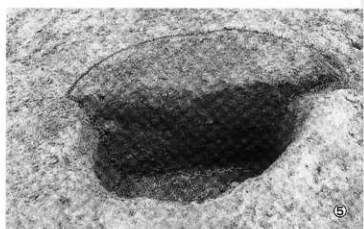
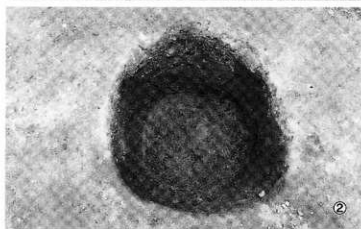
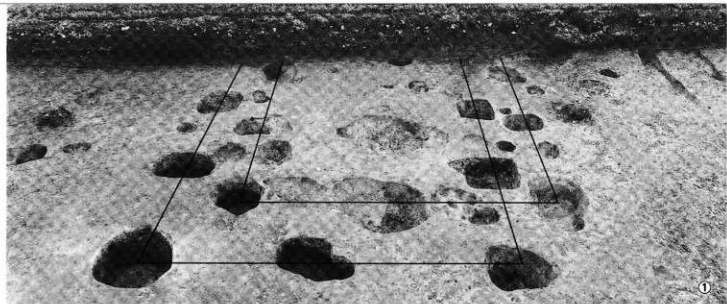
写 真 图 版



図版1 宗守遺跡4地区の遺構(1)

①旗倉区遠景(西から)

②調査区全景(真上から)



図版2 宗守遺跡4地区の遺構(2)

① SB01・SB02

② SB01-P1

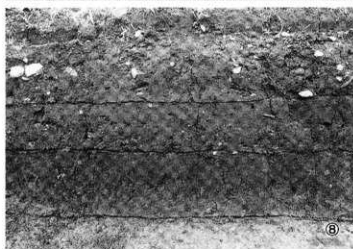
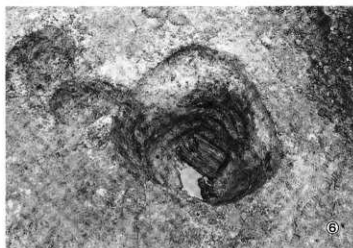
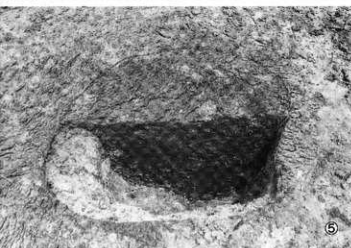
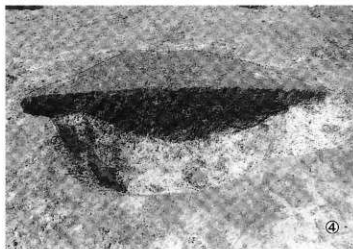
③ SB01-P2

④ SB01-P6

⑤ SB02-P2

⑥ SB02-P2

⑦ SB02-P6



図版3 宗守遺跡4地区の遺構(3)

① SD01 ② SD02
⑤ SK18 ⑥ P70

③ SK07
⑦ P71

④ SK08
⑧ 基本層序 (北壁X8Y5)



図版4 久戸遺跡1地区の遺構(1)

①遠景(南西から)

②調査区全景(南から)



図版5 久戸遺跡1地区の遺構(2)

① SD01土層

② SD01土層

③ SD02土層

④ SD07

⑤ SD08

⑥ SD11

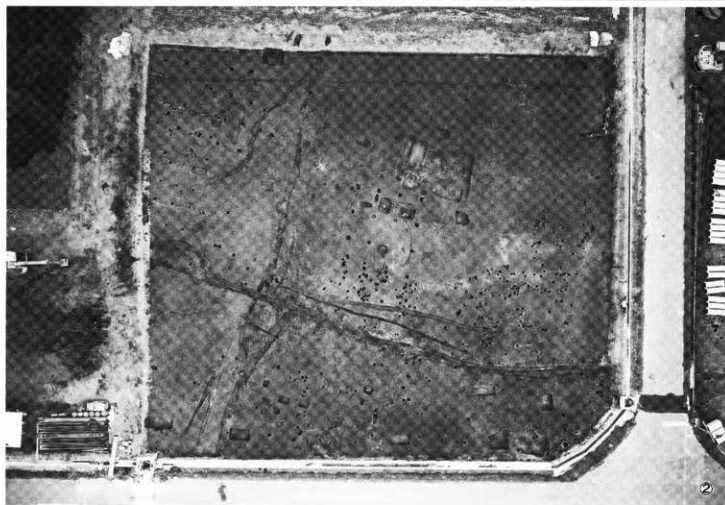
⑦ 作業状況

⑧ SD01完掘状況

⑨ P1

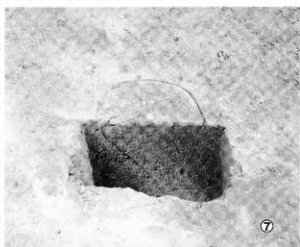
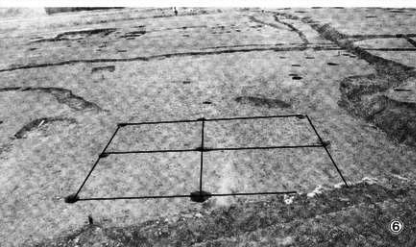
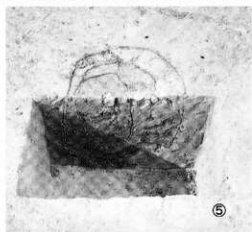
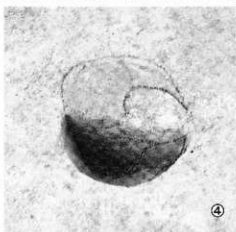
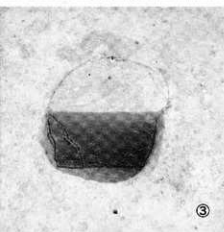
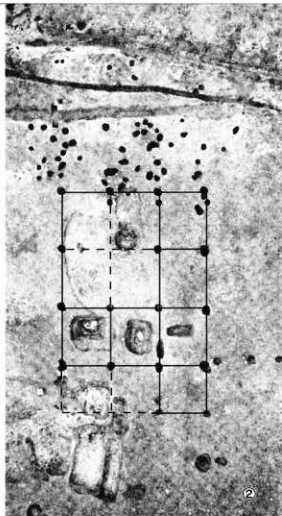
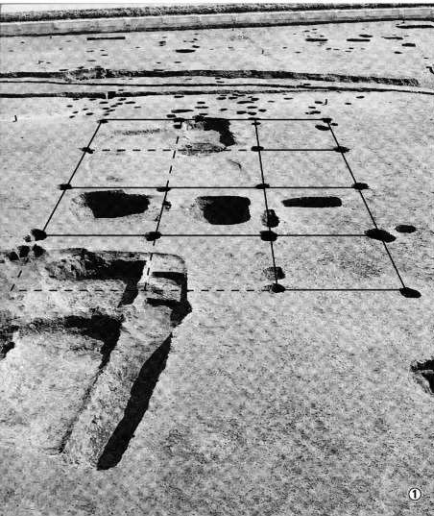
⑩ P66

⑪ P94



図版6 久戸遺跡2地区の遺構(1)

① 遠景（北東から） ② 調査区全景（真上から）



図版7 久戸2地区遺跡の遺構(2)

① SB01 (北から)

② SB01 (真上から)

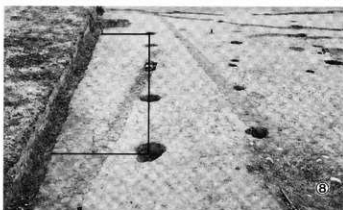
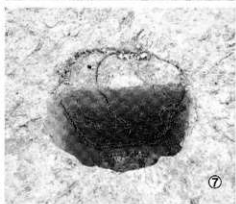
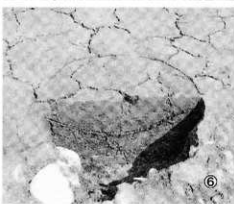
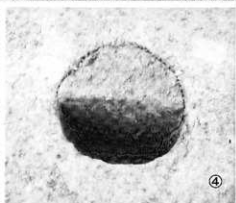
③ SB01-P7

④ SB01-P12

⑤ SB01-P13

⑥ SB03 (西から)

⑦ SB03-P4



図版 8 久戸遺跡 2 地区の遺構(3)

①SB02・SB05 (西から)

② SB02-P1

③ SB02-P3

④ SB02-P6

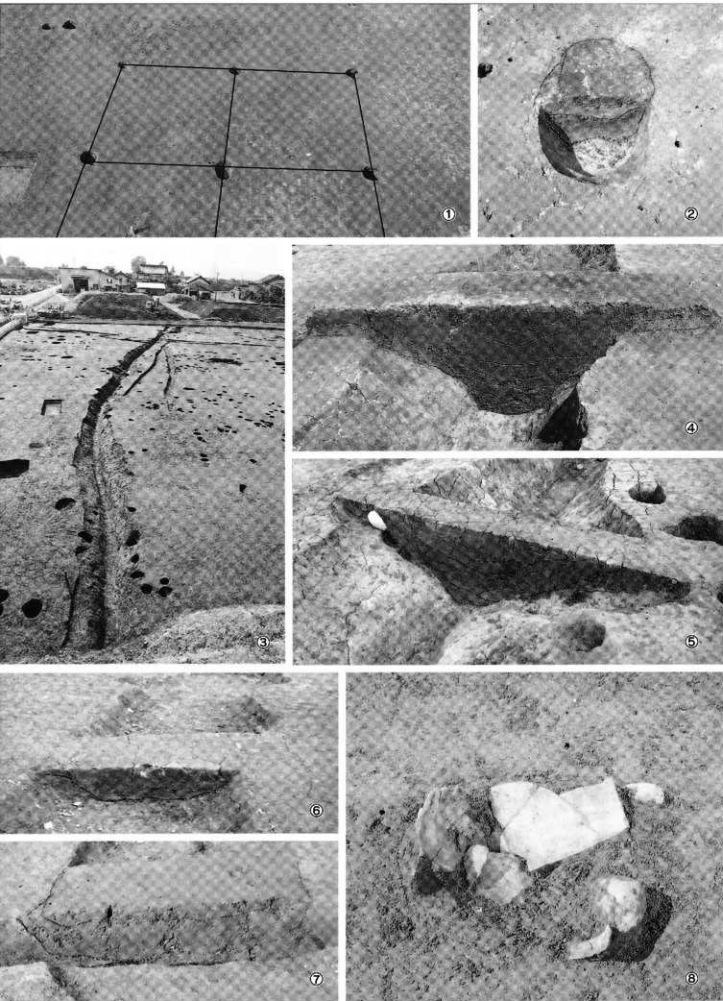
⑤ SB05-P1

⑥ SB05-P7

⑦ SB05-P12

⑧ SB06 (西から)

⑨ SB06-P3



図版9 久戸遺跡2地区の遺構(4)

① SB04 (南から)

② SB04-P6

③ SD01 (東から)

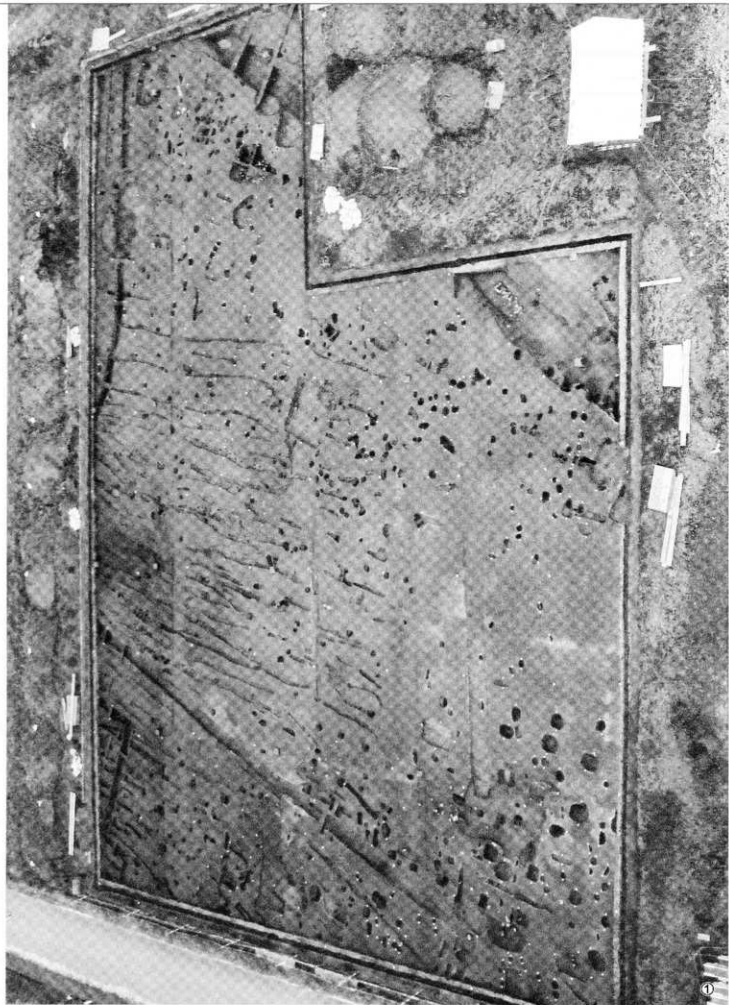
④ SD01

⑤ SD01

⑥ SD02

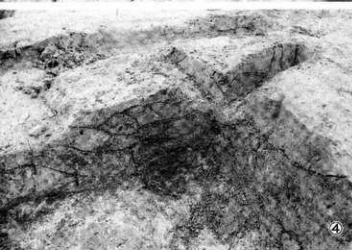
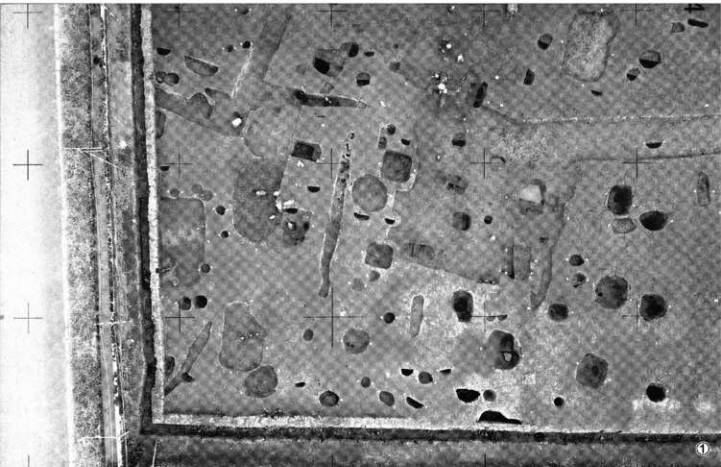
⑦ SD05

⑧ 縄文土器 深鉢出土状況



図版10 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(1)

① 調査区全景



図版11 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(2)

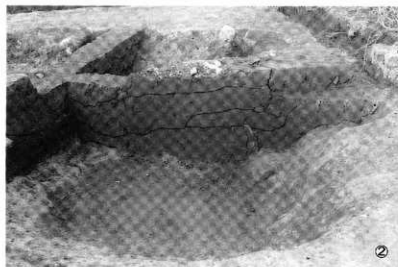
① SI01～04・SB01周辺

② SI01土層(東から)

③ SI03土層(南から)

④ SI01カマド土層

⑤ SI02カマド土層



図版12 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(3)

① SI07 (南から)

②・⑤ SI07土層 (南から)

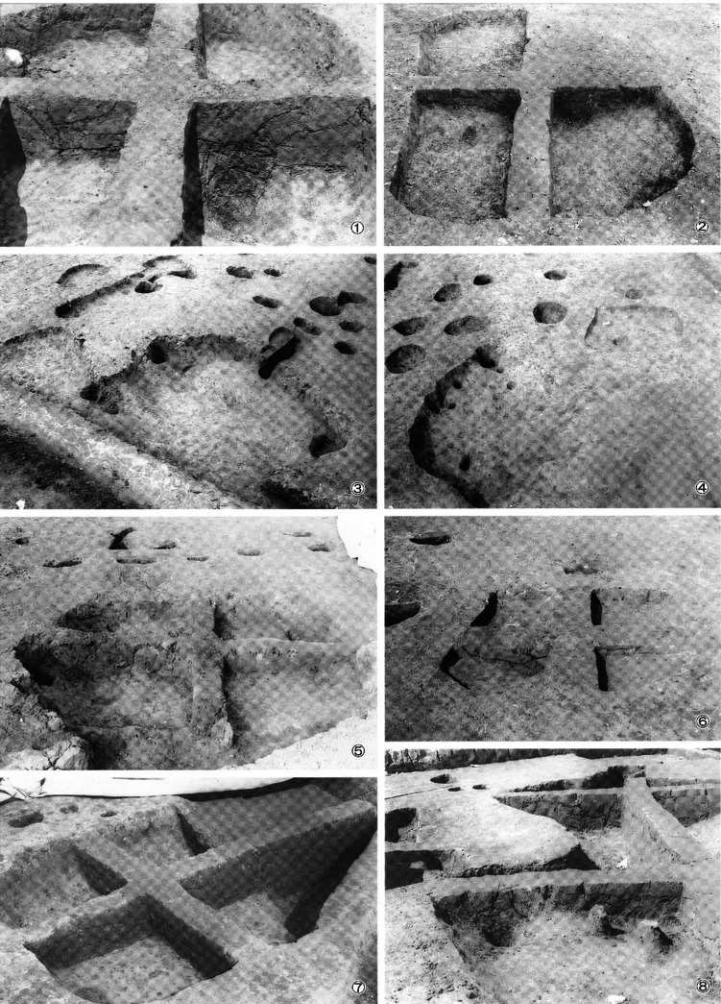
③ SI10 (南から)

④ SI10土層 (南から)

⑥ SI06 (南から)

⑦・⑧ SI06土層 (北から)

⑨ SI06土層 (東から)



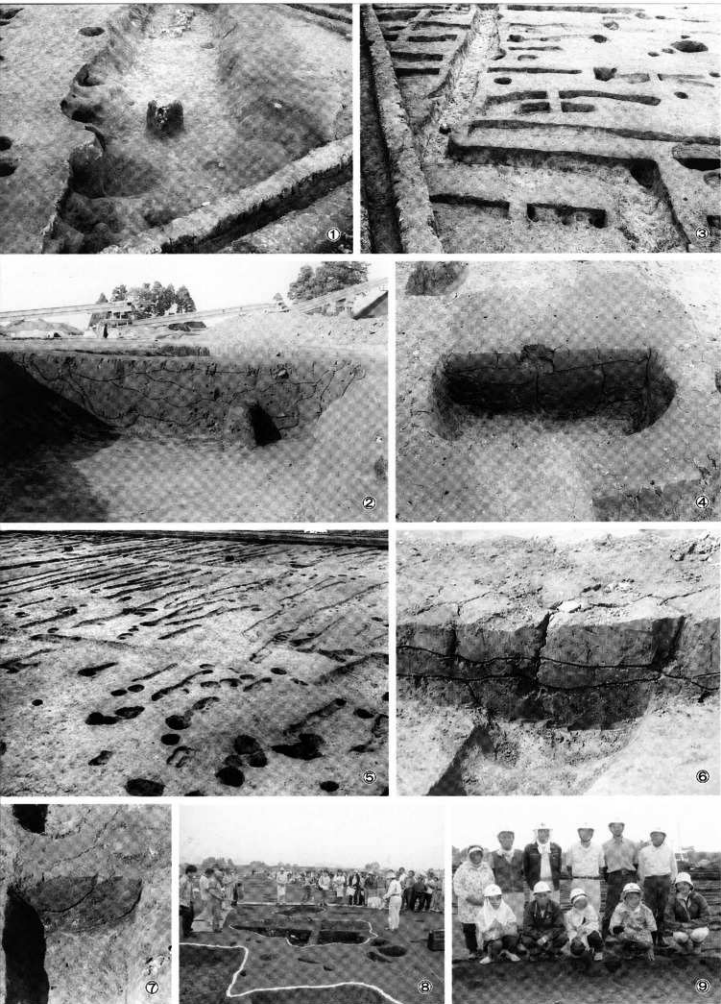
図版13 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(4)

- ① SK02土層(南から) ② SK04土層(南から) ③ SK05・SK18(南東から) ④ SK13・SK14(南から)
 ⑤ SK05土層(南西から) ⑥ SK14土層(南から) ⑦ SK12土層(南西から) ⑧ SK15・SK16・SK17土層(東から)



図版14 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(5)

- ① SK07 ~ SK10 (南西から) ② SK08土層 (南から) ③ SK07土層 (東から) ④ SK10土層 (南から)
 ⑤ SK10土層 (東から) ⑥ SK19 (南から) ⑦・⑧ SK19土層 (南から)



図版15 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺構(6)

① SD01) 南西から) ② SD01土層 (南西から)
 ⑤ 畑跡 (南東から) ⑥ 基本土層 ⑦ SX

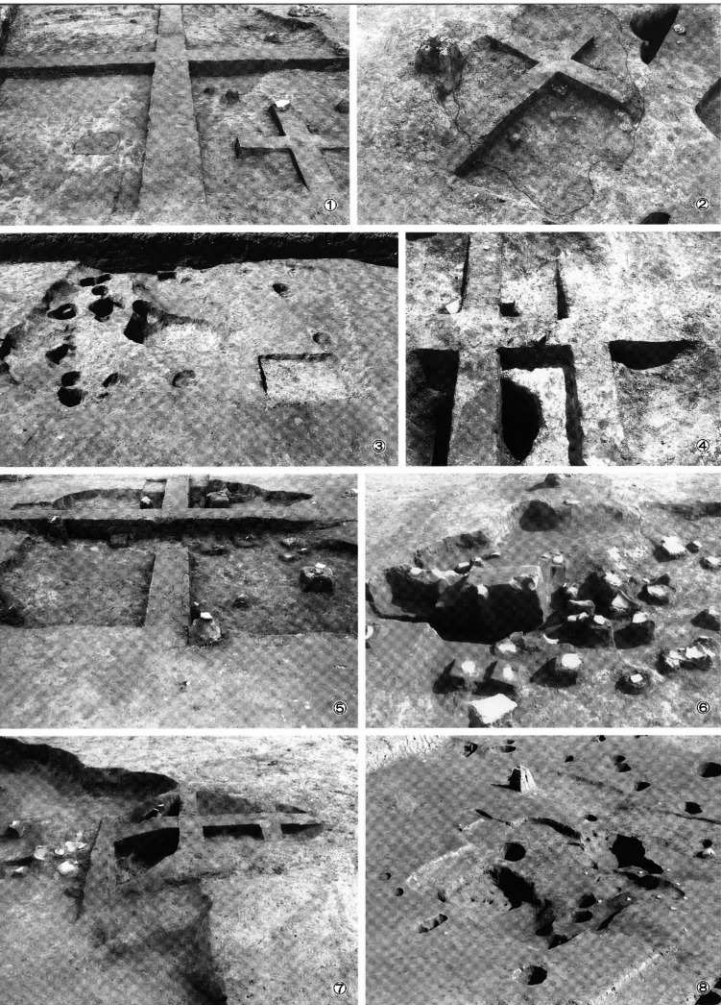
③ SD07 ④ P316土層 (南から)
 ⑧ 現地説明会 ⑨ 調査参加者



図版16 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(1)

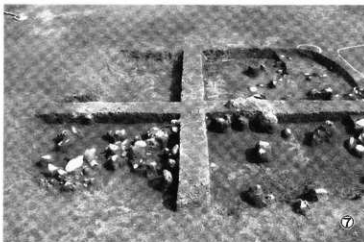
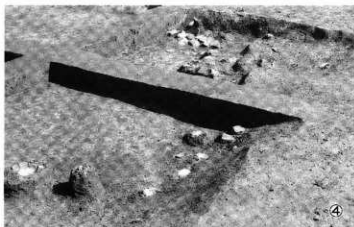
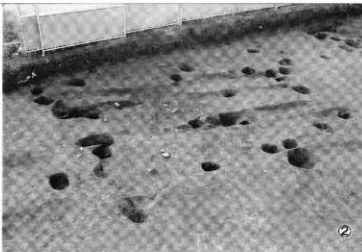
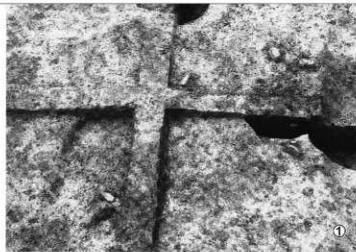
① 遺跡遠景

② 遺跡近景



図版17 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(2)

- ① SI02土層断面(南から) ② SI02カマド(北東から) ③ SI02完掘(東から) ④ SI02カマド燃焼部(北から)
 ⑤ SI04土層断面(西から) ⑥ SI04遺物出土状況(東から) ⑦ SI07カマド(西から) ⑧ SI04完掘南西から



図版18 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(3)

① SI03カマド

② SI03穴

③ SI08土層断面

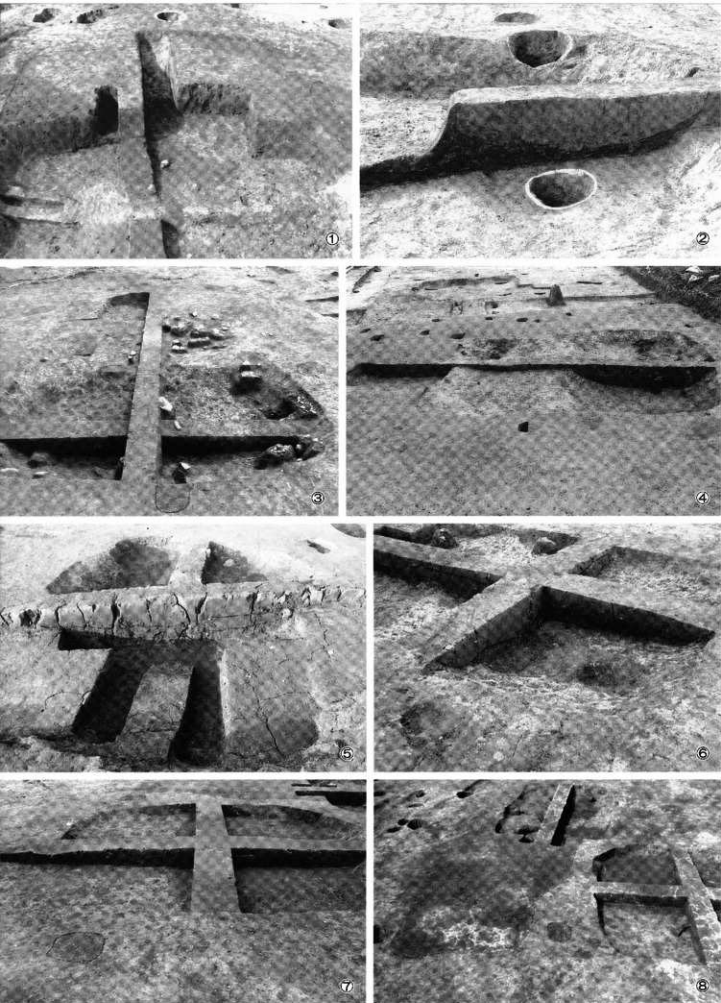
④ SI08遺物

⑤ SI08カマド

⑥ SI08土器出土状況

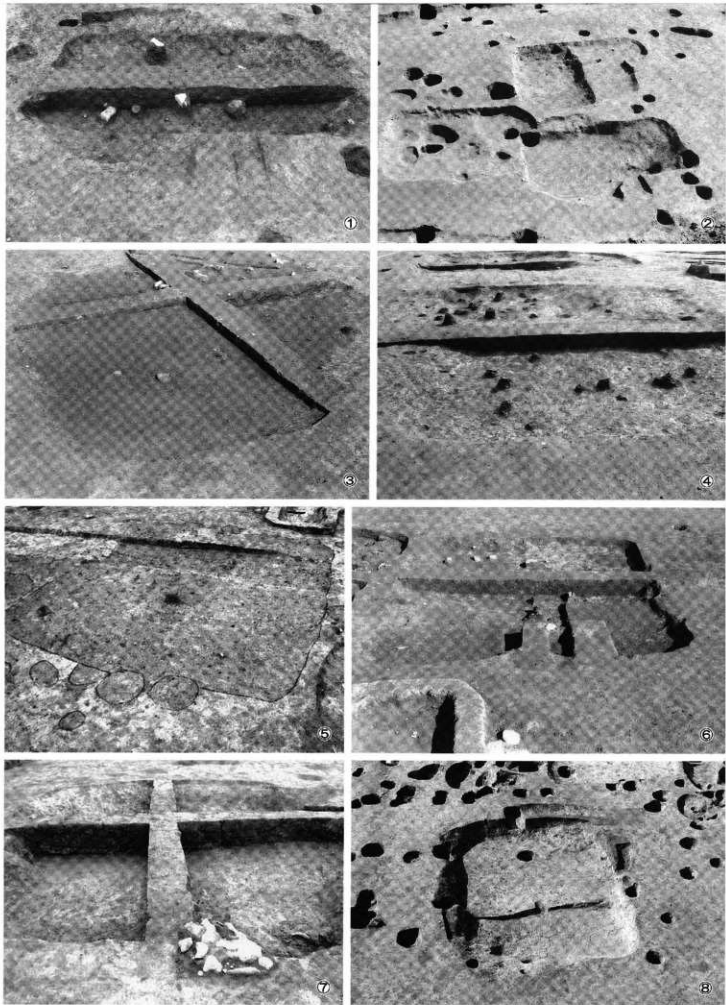
⑦ SI12

⑧ SI12カマド



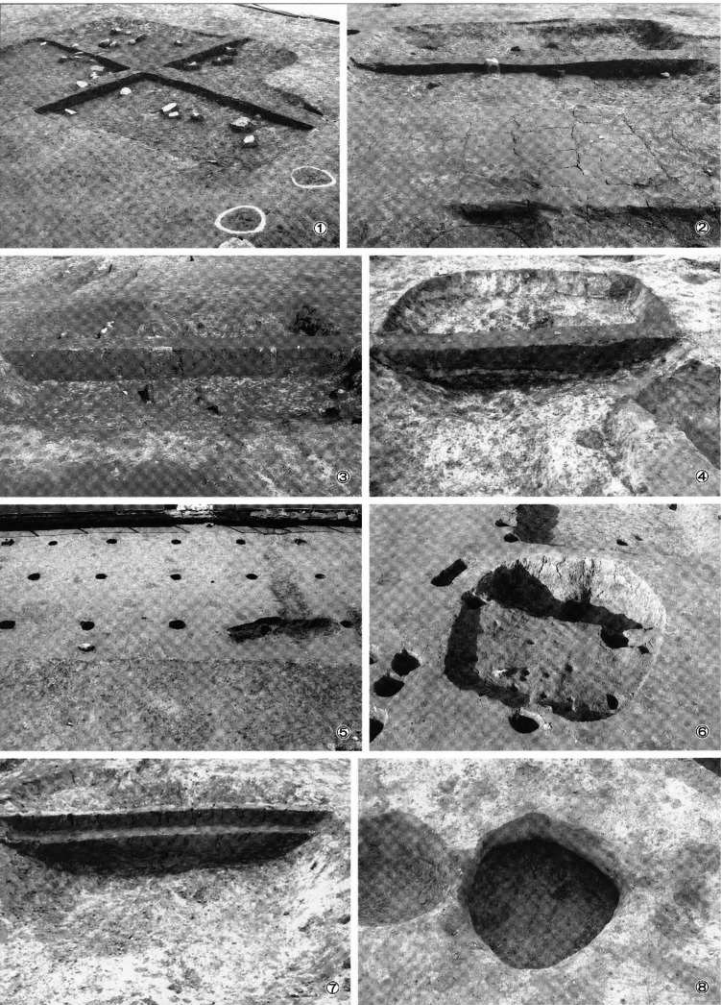
図版19 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(4)

- | | | | |
|---------------|-----------------|-------------|---------------|
| ① SI20検出(南から) | ② SI20土層断面(北から) | ③ SI01(北から) | ④ SI01(東から) |
| ⑤ SI05(南から) | ⑥ SI06(北東から) | ⑦ SI07(西から) | ⑧ SI19検出(南から) |



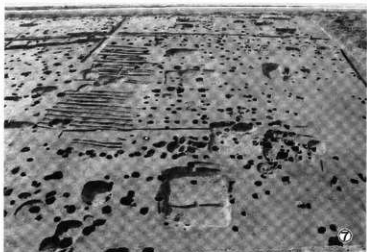
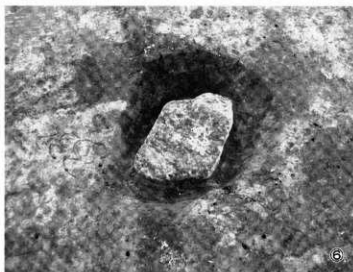
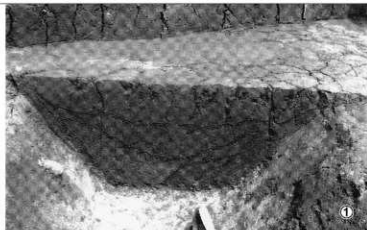
図版20 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(5)

- ① SI19 (西から) ② SI06・07・19完掘 (西から) ③ SI09 (南西から) ④ SI09土層断面 (西から)
 ⑤ SI10検出 (東から) ⑥ SI10土層断面 (西から) ⑦ SI11土層断面 (北から) ⑧ SI11・20完掘 (東から)



図版21 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(6)

- | | | | |
|-----------------------|--------------------|--------|--------|
| ① SI14・15遺物出土状況(南西から) | ② SI14・15土層断面(西から) | ③ SI16 | ④ SI17 |
| ⑤ SB01 | ⑥ SK09 | ⑦ SK23 | ⑧ SK38 |



図版22 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺構(7)

① SD01 (南から)

② SD03・05 (北から)

③ SD04・06

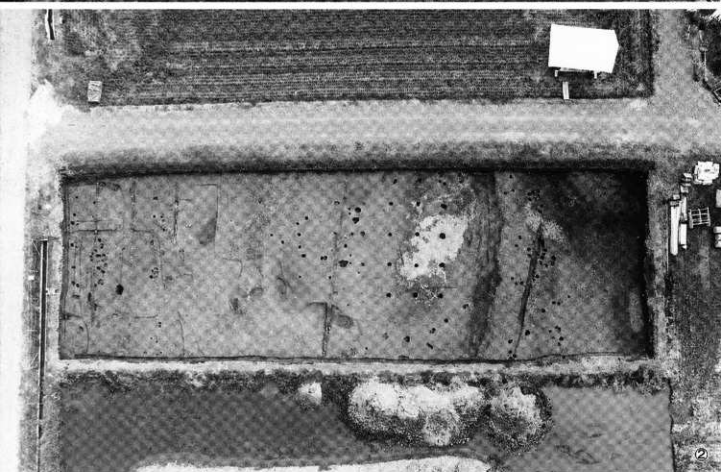
④ SX03 (南から)

⑤ SX08 (南から)

⑥ P332

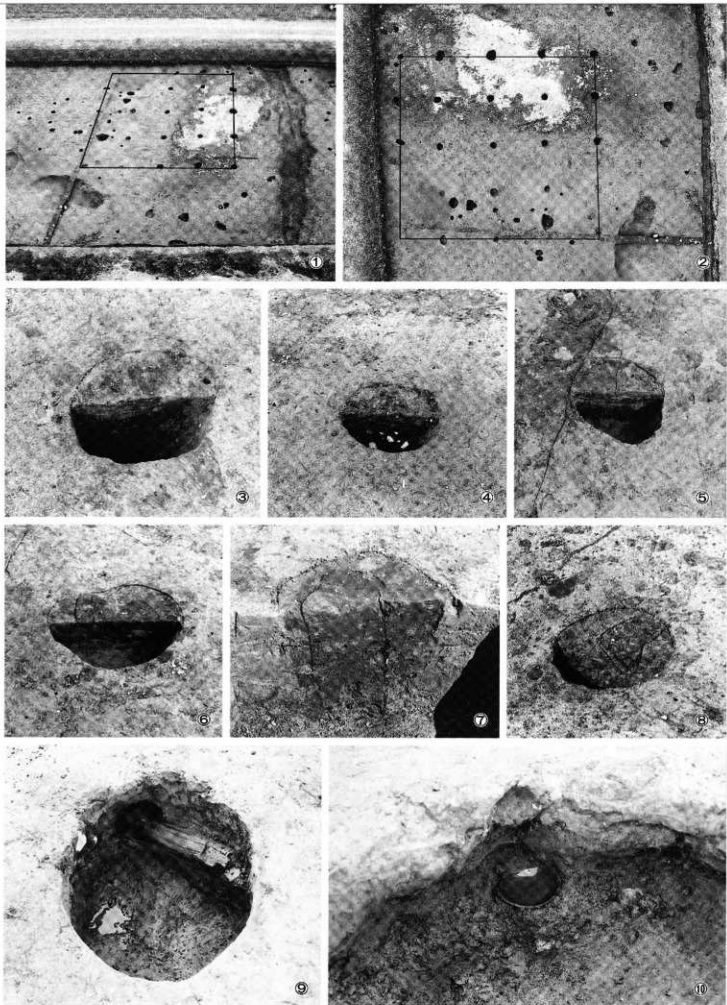
⑦ 調査区北側完掘

⑧ 調査区南側完掘



図版23 神成遺跡11地区の遺構(1)

① 遠景 (南から) ② 調査区全景 (真上)



図版24 神成遺跡11地区の遺構(2)

① SB01 (北から)

② SB01 (真上)

③ P14

④ P19

⑤ P23

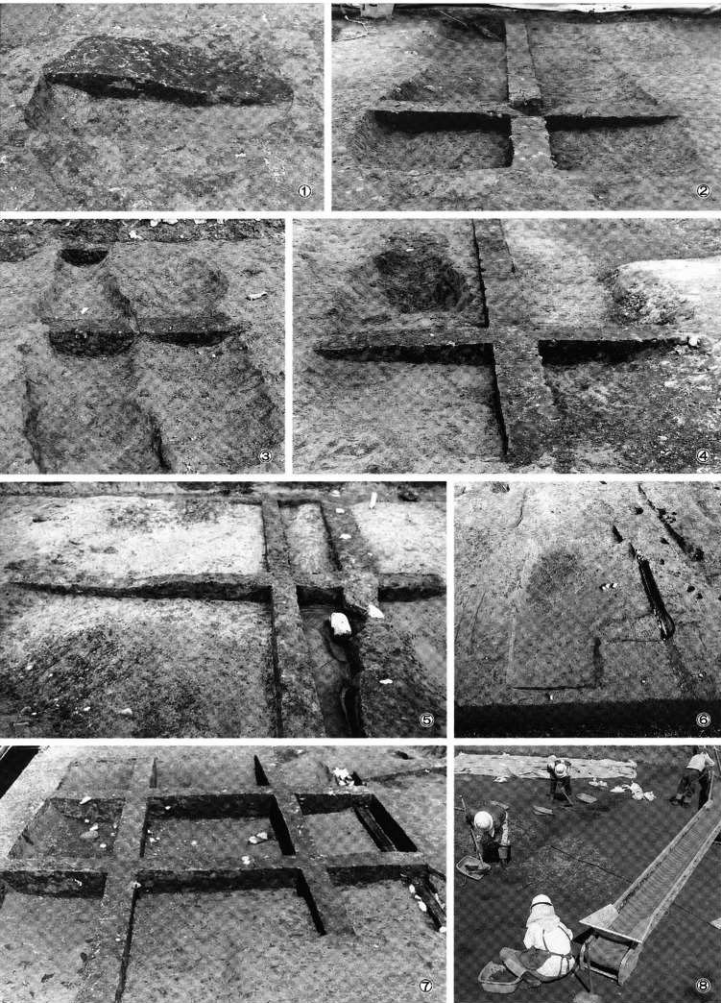
⑥ P22

⑦ P57

⑧ P75

⑨ P55遺物出土状況

⑩ P55遺物出土状況



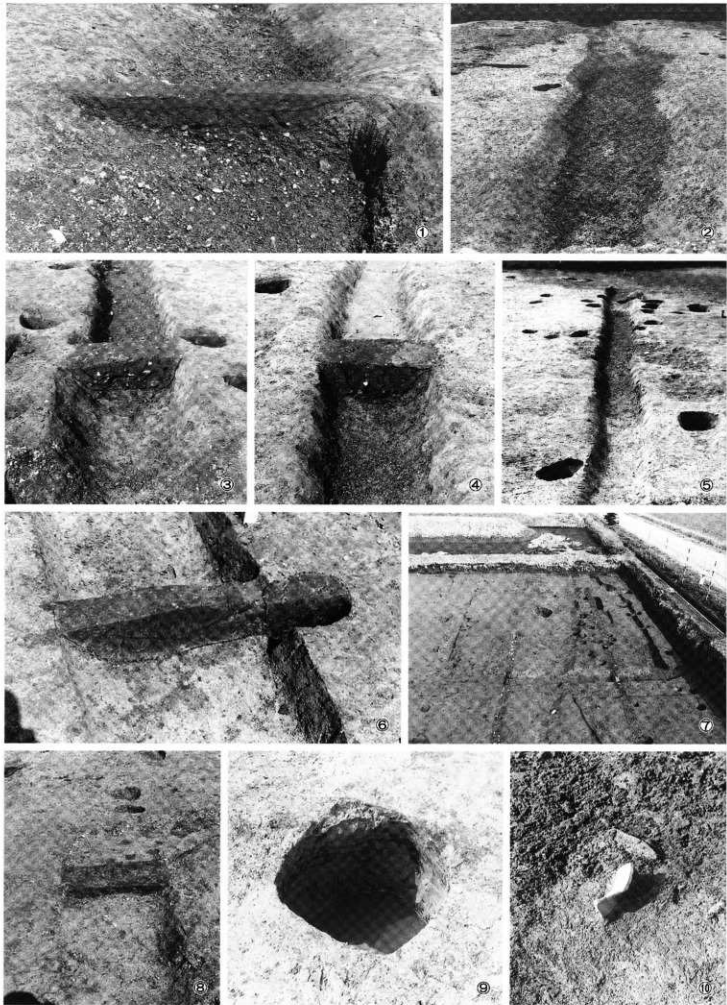
図版25 神成遺跡11地区の遺構(3)

① SK03
⑤ SX02

② SK06土層
⑥ SX01完掘状況

③ SK04・05
⑦ SX01土層

④ SK07
⑧ 作業状況



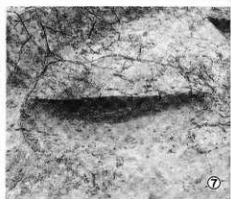
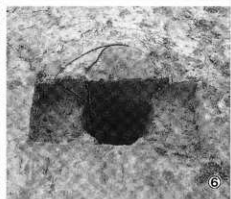
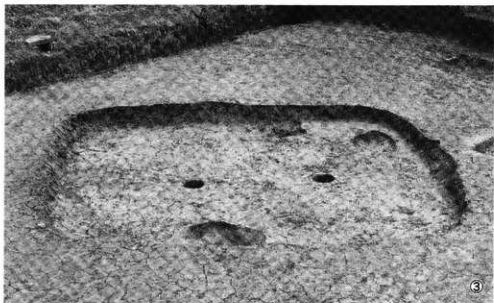
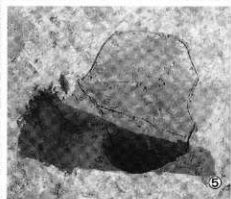
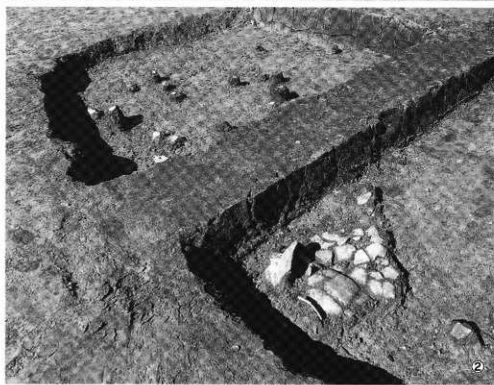
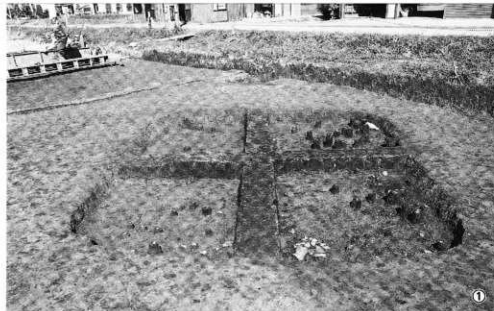
図版26 神成遺跡11地区の遺構(4)

- | | | | | |
|------------|---------------|----------|----------|----------|
| ① SD01土層 | ② SD01完掘(北から) | ③ SD02土層 | ④ SD02土層 | ⑤ SD02完掘 |
| ⑥ SD04・P19 | ⑦ SD04～06 | ⑧ SD06土層 | ⑨ SE01完掘 | ⑩ 遺物出土状況 |



図版27 神成遺跡12地区の遺構(1)

① 遠景 (東から) ② 調査区全景 (真上から)



図版28 神成遺跡12地区の遺構(2)

① SI01 (南西から) ② SI01遺物出土状況 (南から)

⑤ SI01-P2

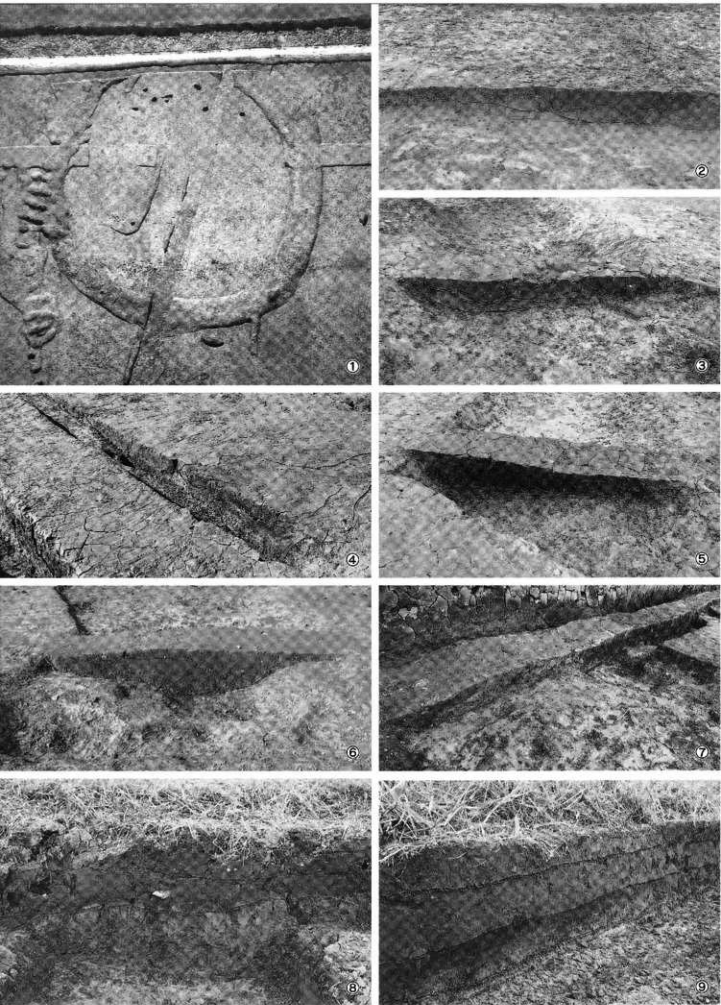
⑥ SI01-P3

⑦ SI01-SK01

③ SI01完形状況 (北西から)

⑧ SI01-SK02

④ SI01-P1



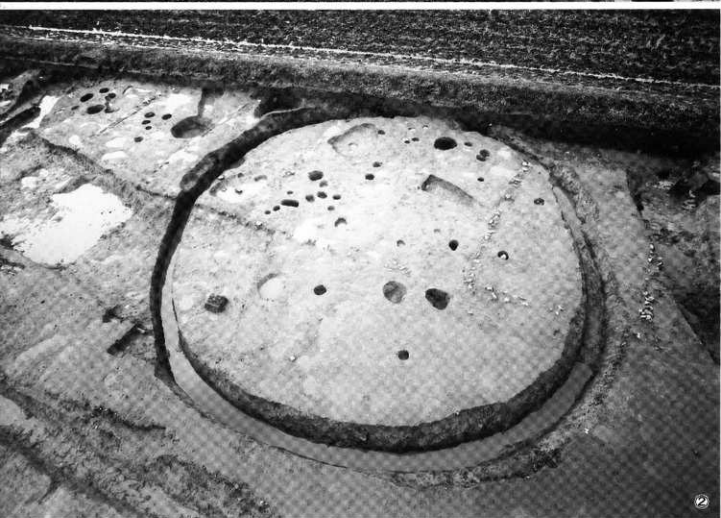
図版29 神成遺跡12地区の遺構(3)

- ① SD02 (真上から) ② SD02周溝状遺構 (北から) ③ SD02 (西から) ④ SD02 SD05 (南から) ⑤ SD05 (西から)
 ⑥ SD05 (南から) ⑦ SD05 (南から) ⑧ 基本層序 東壁 (X5～6 Y24) ⑨ 基本層序 南壁 (X0 Y22～23)



図版30 神成遺跡12地区の遺構(4)

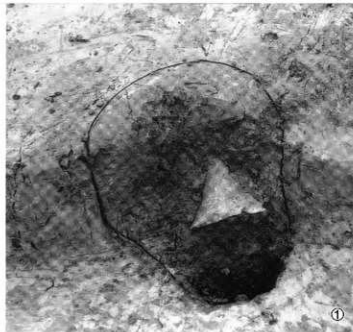
- ① SX01 (南西から) ② SX01 (南から) ③ SX02 (真上から) ④ SX02 (南から)
 ⑤ SX02 (西から) ⑥ SX02 (南から) ⑦ SX02 (南から) ⑧ SX02 遺物出土状況 (東から)



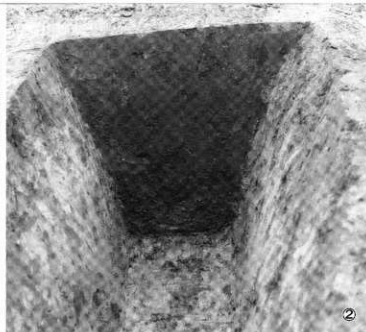
図版31 神成遺跡13地区の遺構(1)

① 調査区全景

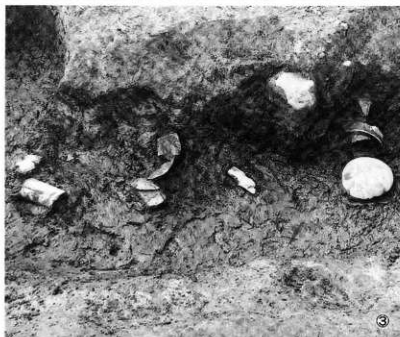
② 円形周溝 (SZ01)



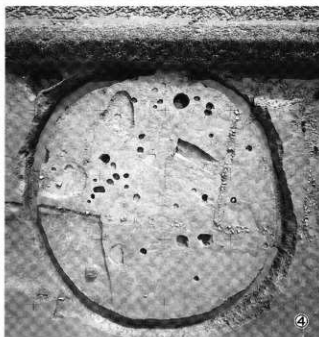
①



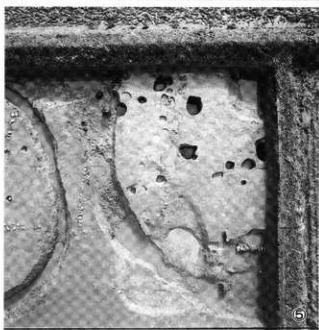
②



③



④



⑤



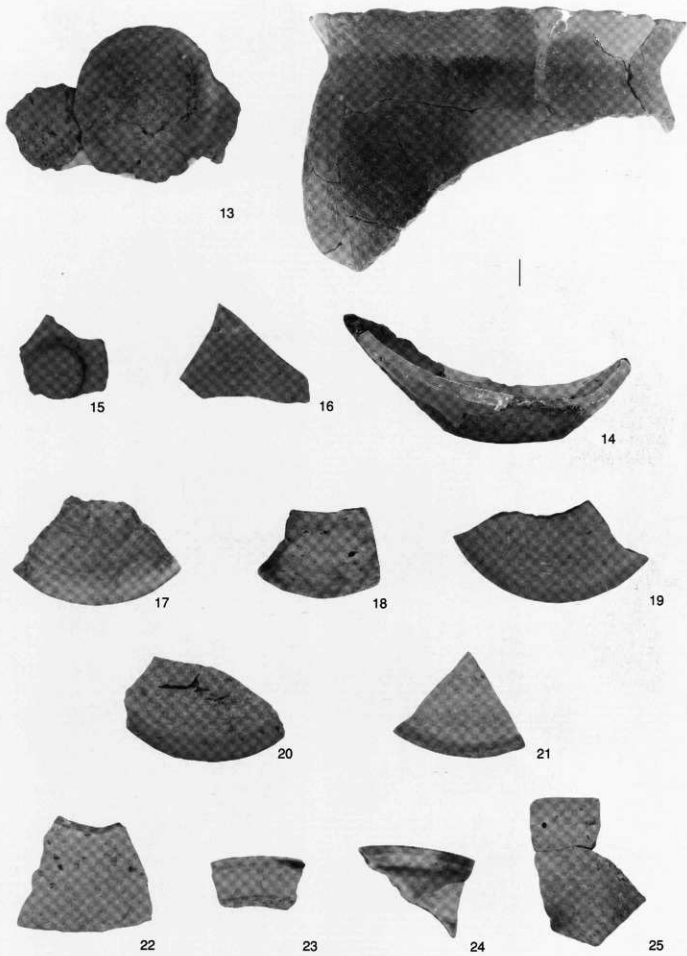
⑥

図版32 神成遺跡13地区の遺構②

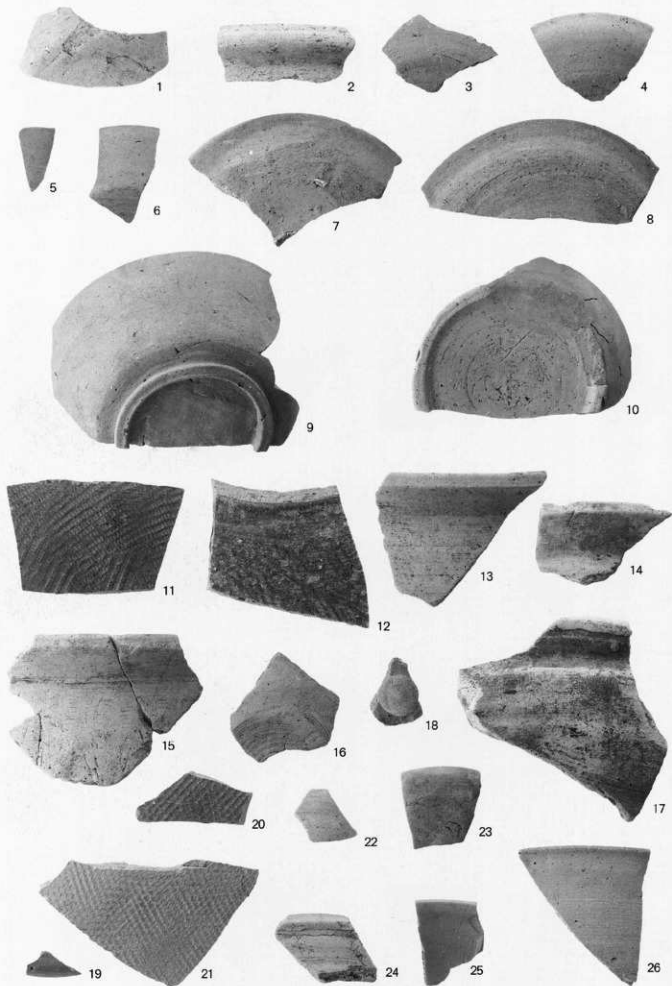
- ① 遺物出土状況（北から） ② SZ01土層断面（東から） ③ SZ01遺物出土状況（東から）
 ④ SZ01空撮 ⑤ SZ02空撮 ⑥ 空撮



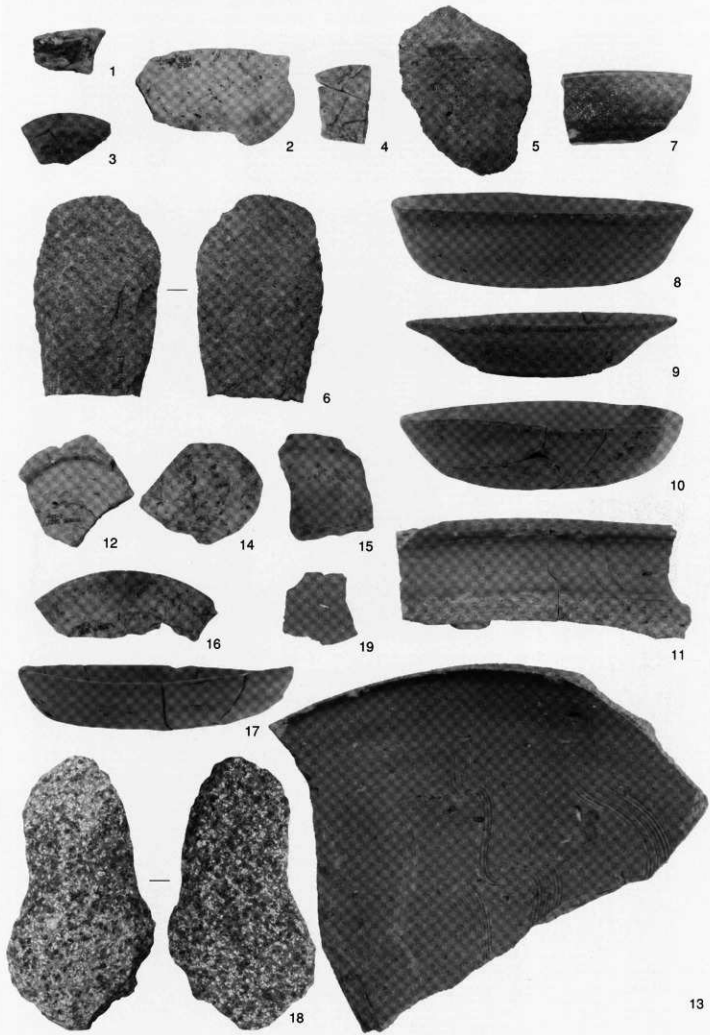
図版33 宗守遺跡4地区の遺物(1) (S=1:2)



図版34 宗守遺跡4地区の遺物(2) (S=1:2)



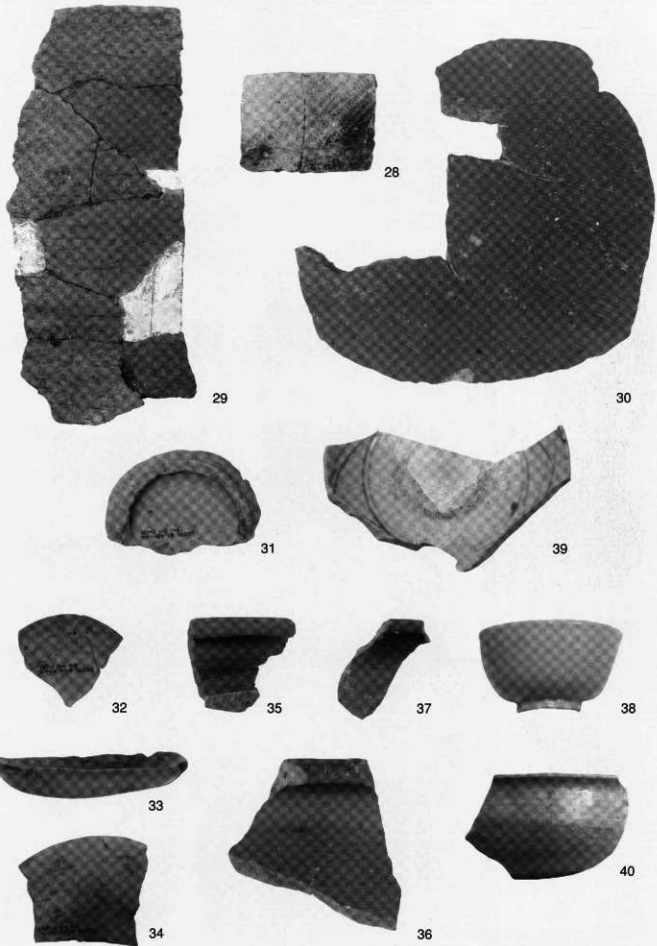
図版35 久戸遺跡 1 地区の遺物 (S-1.2)



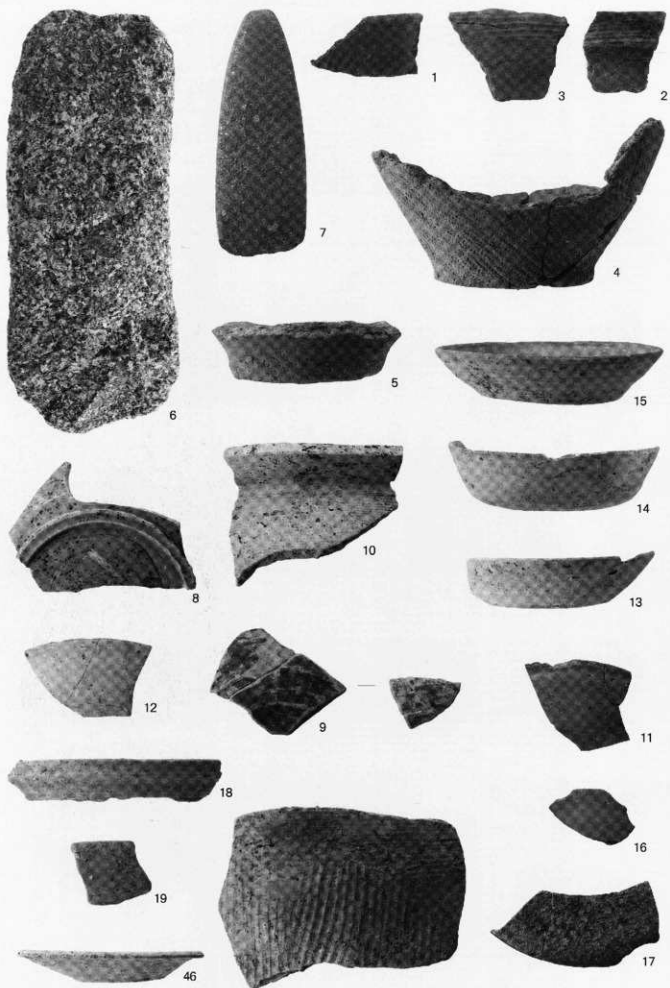
図版36 久戸遺跡2地区の遺物(1) (S=1:2)



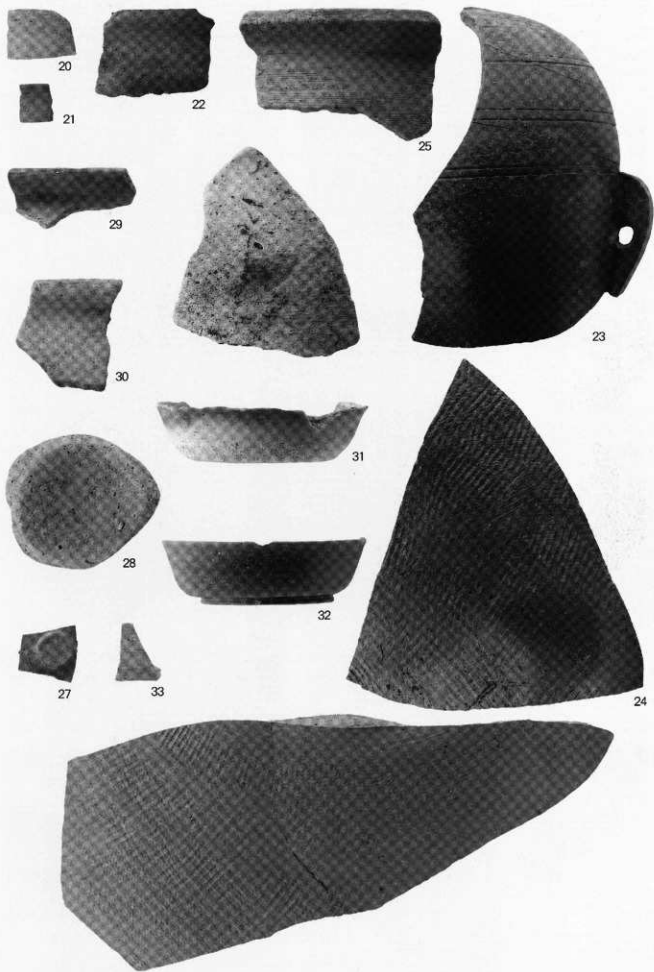
図版37 久戸遺跡2地区の遺物(2) (S=1:2, 22のみ1:3)



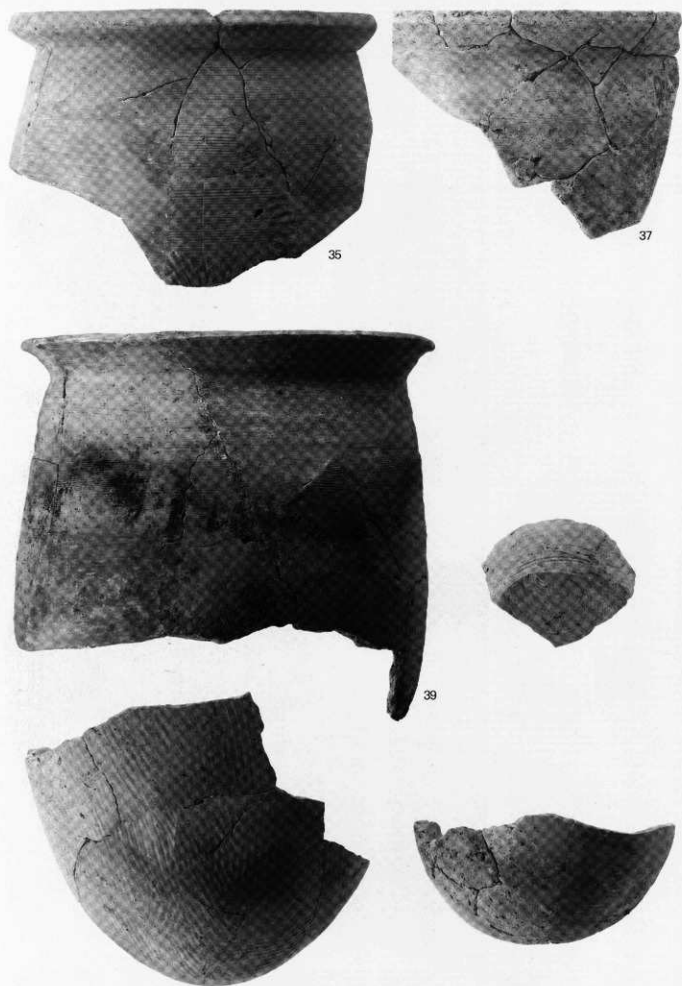
図版38 久戸遺跡2地区の遺物(3) (S=1:2)



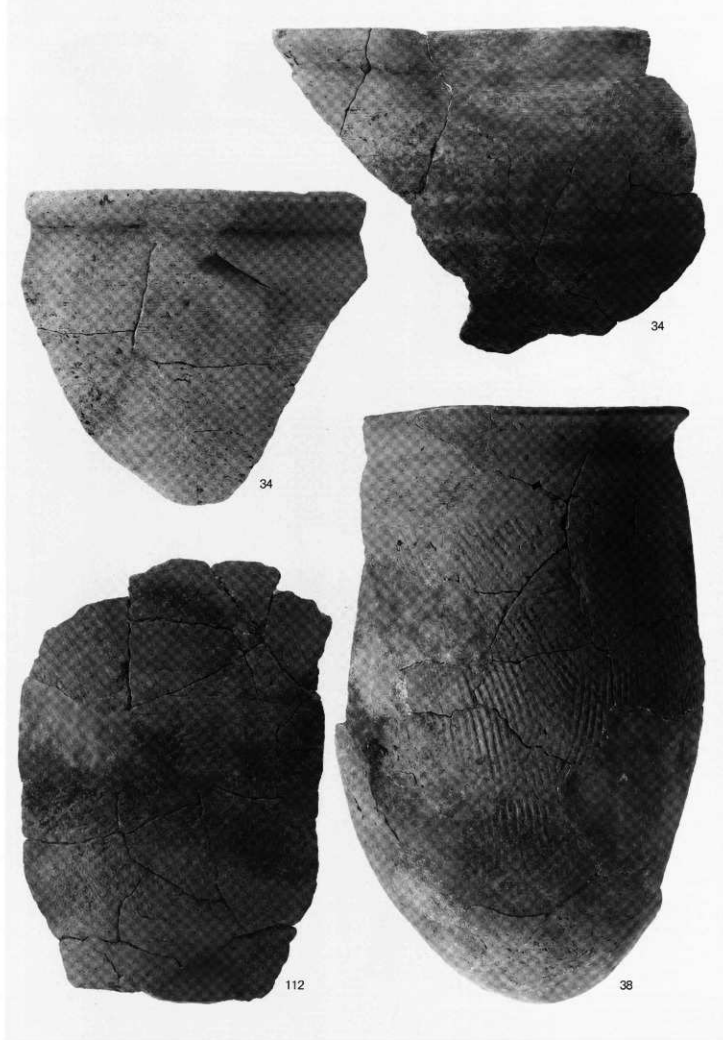
図版39 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(1) (S=1:2)



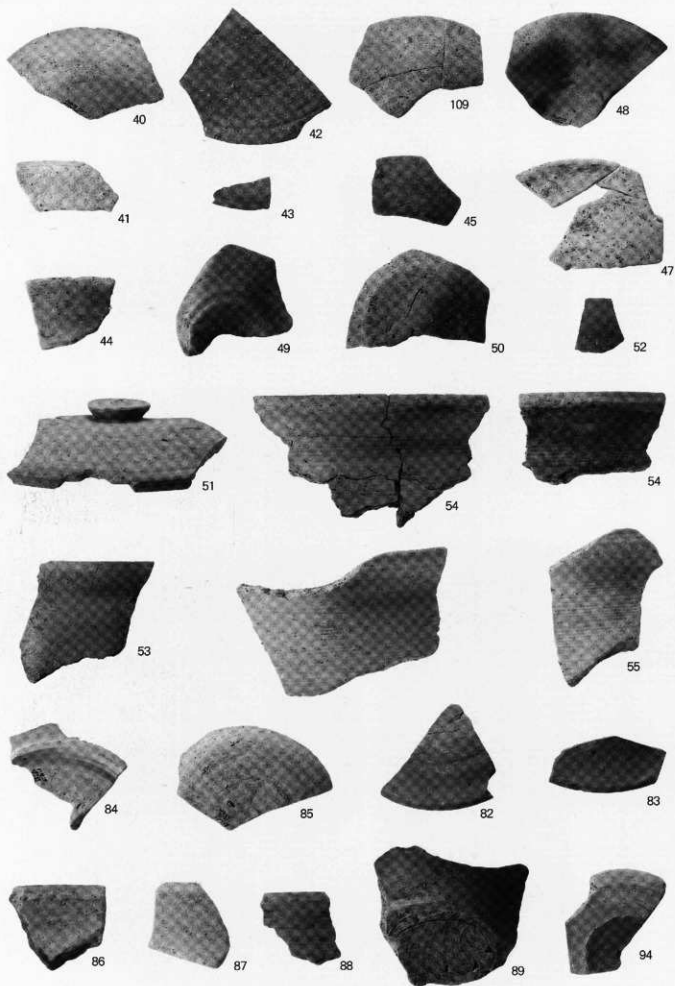
図版40 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(2) (S=1:2)



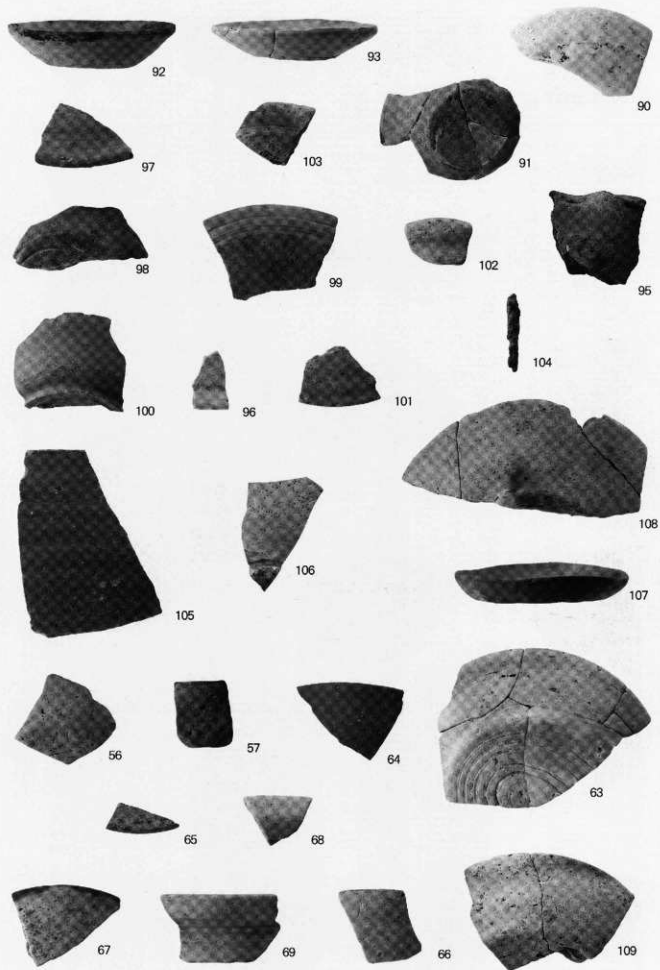
図版41 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(3) (S=1:2)



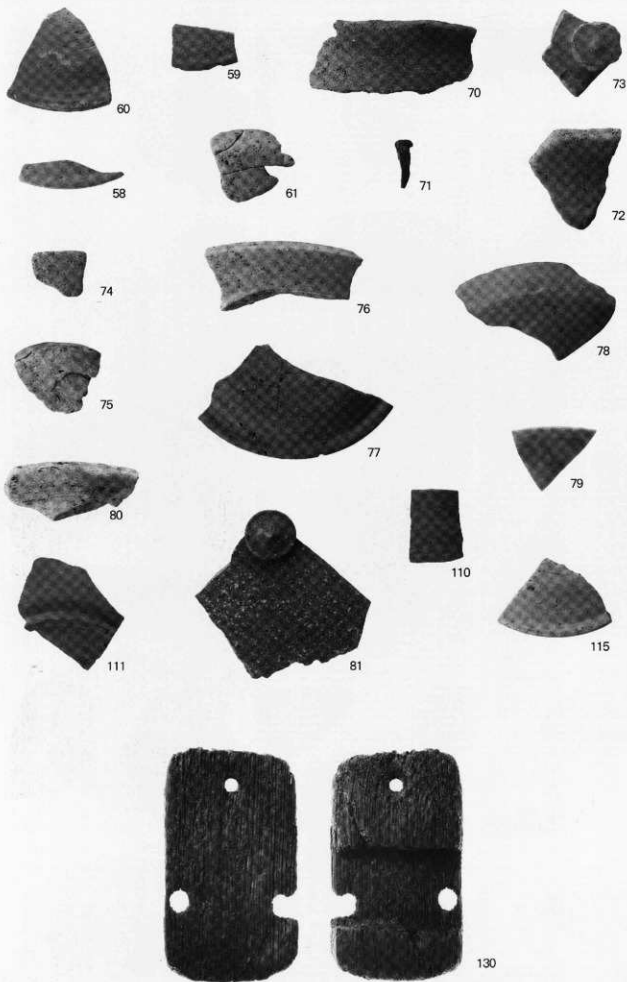
図版42 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(4) (S=1:2)



図版43 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(5) (S=1:2)



図版44 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(6) (S=1:2)



図版45 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(7) (S=1:2)



図版46 梅原胡摩堂遺跡25地区の遺物(8) (S-1:2)

SI02



1



2



3



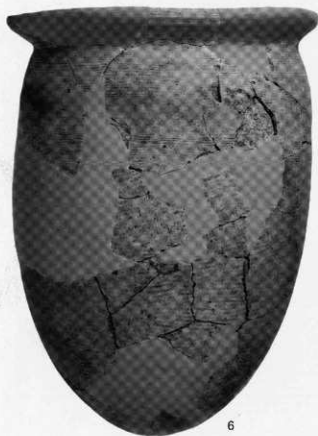
4

SI03



5

SI04



6



7



8



9

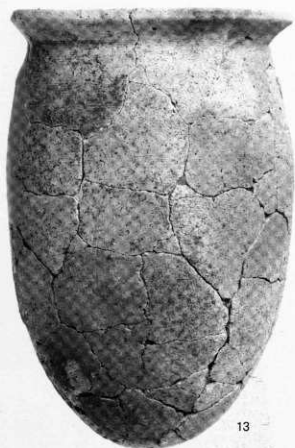


10

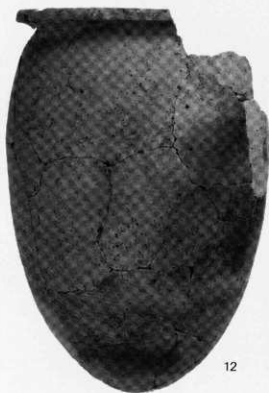
図版47 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(1) (S=1:2)



11



13



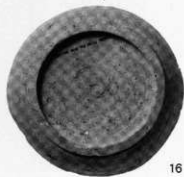
12



14



15



16

SI12



18



19



21



23



24



22



20



25



26

SI20



27

SK38



28



30



31

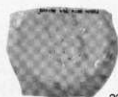
SK09



29

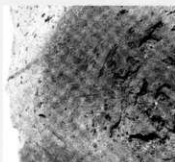


32



33

SK19



34

SK22



38

SK21



35



36

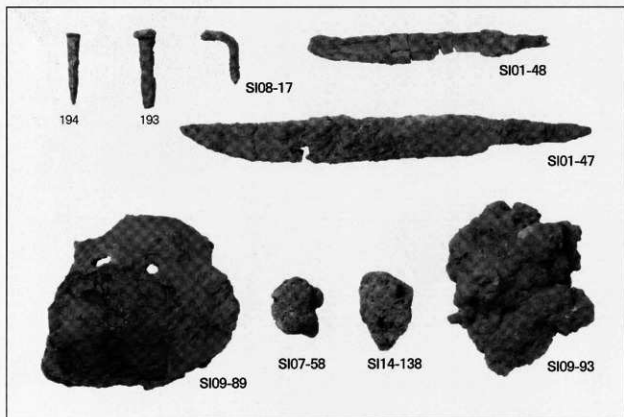
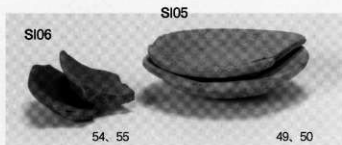


37

SK31

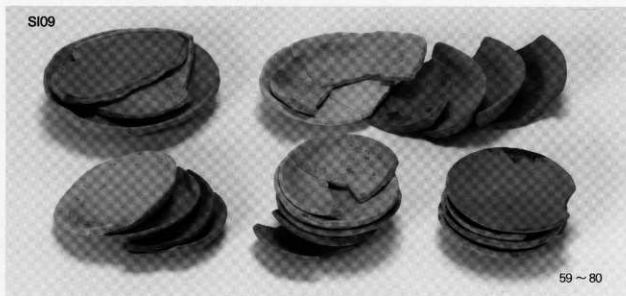


40



図版51 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(5) (S=1:2)

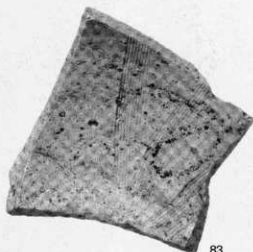
SI09



59 ~ 80



82



83



84



86



87

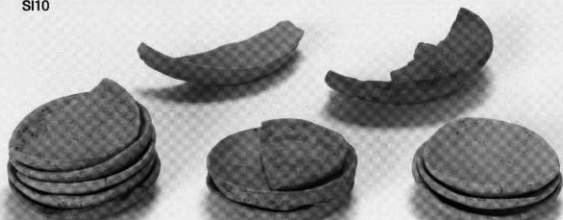


88



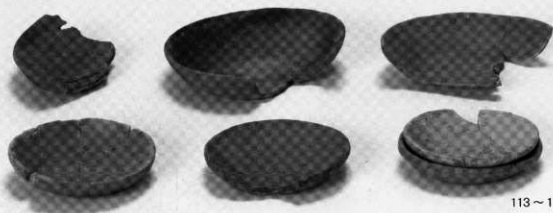
81

SI10

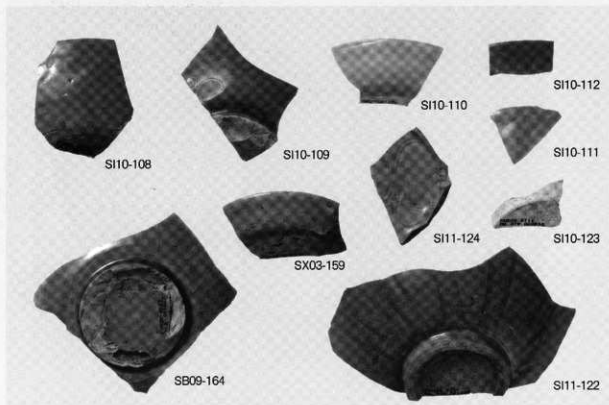


94 ~ 106

SI11



113 ~ 118



図版53 梅原胡摩堂遺跡26地区の遺物(7) (S=1:2)

SI11



120



121



125

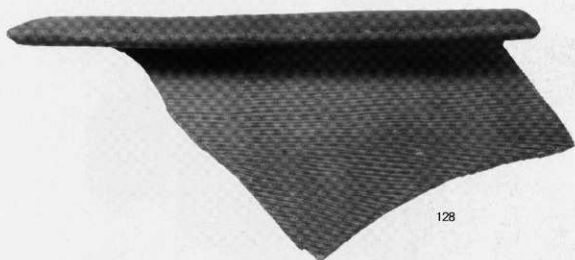
SI13



126



127



128

SI14



129 ~ 133



134

SI15



SD02



SD04



SD03



SX03



152 ~ 159



152 ~ 159



161



162



163



SB09(SK23)



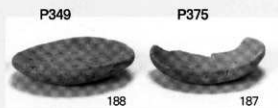
165 ~ 182



165 ~ 182



186



P349

P375

188

187



189



190



191



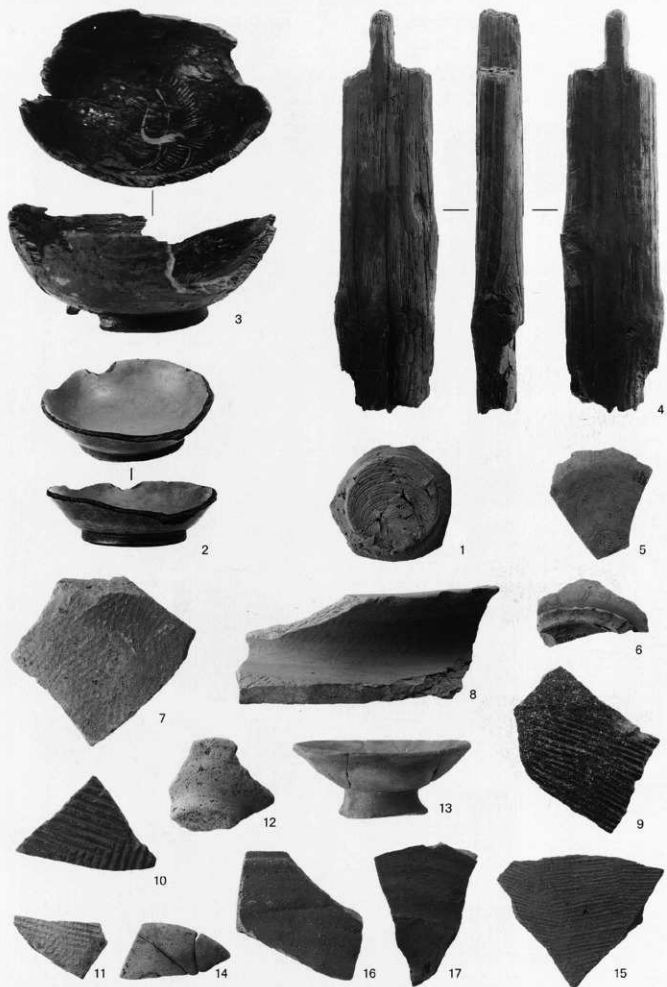
SK26(S117)-144



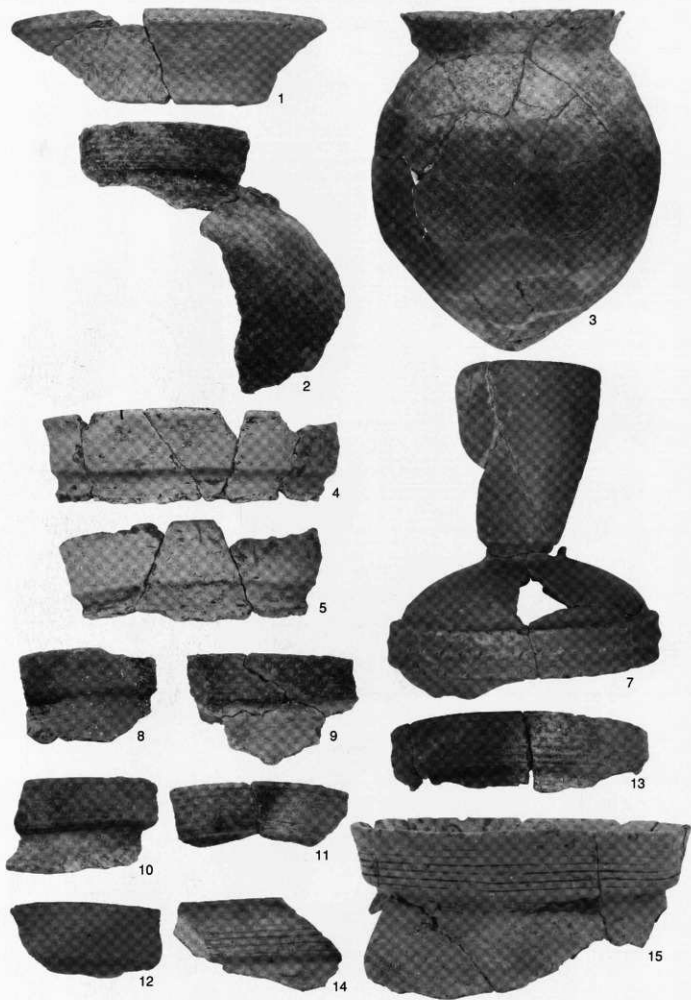
192



196



図版58 神成遺跡11地区の遺物 (S=1:2)



図版59 神成遺跡12地区の遺物(1) (S=1:2)



16



18



21



22



20



23



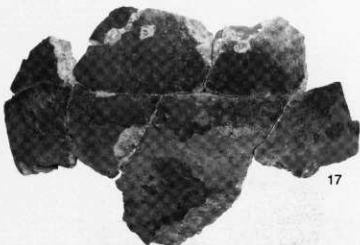
25



26



27



17



28



29

図版60 神成遺跡12地区の遺物② (S=1:2)

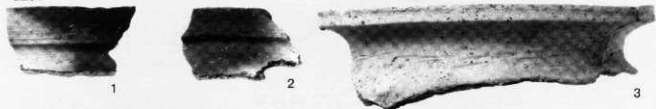


図版61 神成遺跡12地区の遺物(3) (S=1:2)



図版62 神成遺跡12地区の遺物(4) (S=1:2)

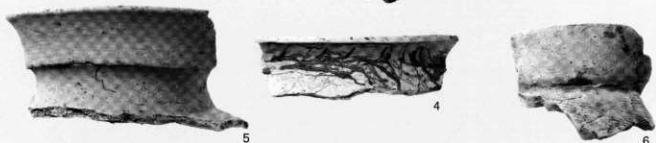
SZ01



1

2

3



5

4

6



7

8

9



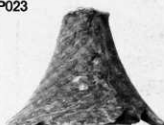
12

13

10

11

P023



16

SD01



18



19

SD03



20

SD05



21

SK05



17

SD06



22

SD07



23

報 告 書 抄 録

ふりがな	とやまけんなんとし むねもりいせきいち ひさといせきいち うめはらごまどういせきいち かんなりいせきよん							
書名	富山県南砺市宗守遺跡Ⅰ 久戸遺跡Ⅰ 梅原胡摩堂遺跡Ⅰ 神成遺跡Ⅳ							
副書名	県営ほ場整備事業（北山田北部地区）に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（8）							
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告書 19							
編著者名	佐藤聖子 片田亜紀 小柳ラロコ 岩崎倫子 荻原雄大							
編集機関	南砺市教育委員会							
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520 TEL (0763) 23-2014							
発行年月日	西暦2007年3月15日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
宗守遺跡Ⅰ	富山県南砺市宗守	16210	467	36度33分29秒	136度54分23秒	060612 060710	340㎡	県営ほ場整備事業
久戸遺跡Ⅰ	富山県南砺市久戸	16210	458	36度33分50秒	136度54分18秒	060619 060905	3,030㎡	
梅原胡摩堂遺跡Ⅰ	富山県南砺市宗守	16210	462	36度33分40秒	136度54分21秒	060612 061101	4,120㎡	
神成遺跡Ⅳ	富山県南砺市神成	16210	557	36度33分38秒	136度54分37秒	060831 061201	2,940㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
宗守遺跡	集落	古代	柱穴、土坑、河跡		須恵器、土師器			
		中世	柱穴、土坑、溝		中世土師器、珠洲、			
		近世	井戸、土坑、河跡		近世陶磁			
久戸遺跡	集落	古代	柱穴、土坑、河跡		須恵器、土師器			
		中世	柱穴、土坑、溝		中世土師器、珠洲、			
		近世	井戸、土坑、河跡		近世陶磁			
梅原胡摩堂遺跡	集落	縄文	土坑		縄文土器、打製石斧、磨製石斧			
		古代	竪穴住居、掘立柱建物、柱穴、土坑、河跡		須恵器、土師器			
神成遺跡	集落	中世	掘立柱建物、柱穴、土坑、溝		中世土師器、珠洲、瀬戸、青磁、白磁、釘、下駄、近世陶磁			
		古墳	竪穴住居、柱穴、土坑、河跡		土師器			
		古代	柱穴、土坑、河跡		須恵器、土師器			
		中世	掘立柱建物、柱穴、土坑、溝		中世土師器、珠洲、木製品			
		近世	井戸、土坑、河跡		近世陶磁			

県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山田北部地区
に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(8)

富山県南砺市 宗守遺跡Ⅰ 久戸遺跡Ⅰ 梅原胡摩堂遺跡Ⅰ 神成遺跡Ⅳ

平成19年3月

編 集 南砺市教育委員会

発 行 南砺市教育委員会

印 刷 (株)ナカダ印刷

